

50th ANNIVERSARY

公益財団法人
兵庫県予防医学協会
創立50周年記念誌

Hyogo Health Service Association

綱 領

1. 国民の健康保持増進のため、予防医学事業の進展に務めることを目的とし、広く社会に貢献します。
2. 常に新しい医学の研究に取り組み、技術の向上を怠らず、正確に迅速な健診検査業務を行うとともに、保健知識の普及に努めます。
3. 確固とした自主独立の精神を堅持し、質実を心掛け、謙譲の気持ちを忘れず、協会発展のため誠実かつ積極的にその職責を全うします。

公益財団法人 兵庫県予防医学協会



公益財団法人
兵庫県予備医学協会



創立50周年記念誌目次

50周年を迎えて			1
会長挨拶	兵庫県予防医学協会会長	深谷 隆	3
祝 辞			7
創立50周年を祝して	兵庫県知事	齋藤 元彦	9
祝 辞	神戸市長	久元 喜造	10
創立50周年 お祝いの言葉	兵庫県医師会会長	空地 顕一	11
創立50周年記念誌発刊に寄せて	神戸市医師会会長	堀本 仁士	12
創立50周年記念を祝して	神戸新聞社代表取締役社長	高梨柳太郎	13
創立50周年に寄せて	生活協同組合コープこうべ組合長理事	岩山 利久	14
創立50周年に寄せて	予防医学事業中央会理事長	櫻林郁之介	15
コラム：兵庫県予防医学協会の謎1			16
記念インタビュー			17
手を携え、市民の健康度向上に貢献を			
	神戸市健康局局长	花田 裕之	18
予防と治療は市民の健康を実現するための車の両輪			
	前神戸市医師会会長	置塩 隆	21
コラム：兵庫県予防医学協会の謎2			24
なりたち・できごと 50年を振り返る			25
はじめに			26
1971（昭和46）年～1980（昭和55）年			30
1981（昭和56）年～1990（平成2）年			34
1991（平成3）年～2000（平成12）年			38
阪神・淡路大震災の記録			42

2001（平成13）年～2010（平成22）年	46	
2011（平成23）年～2020（令和2）年	50	
新型コロナウイルス感染症の記録	54	
コラム：兵庫県予防医学協会の謎3	58	
回 想	59	
変 遷	67	
歴代会長・常務理事	68	
建物移り変わり	72	
事業実績の推移	74	
コラム：兵庫県予防医学協会の謎4	78	
飛 躍	79	
予防医学について	副会長・健康ライフプラザ健診センター長 平田結喜緒	81
創立50周年—これまでとこれから—		
	常務理事・健診センター長・保健環境センター長 安田 敏成	83
持続可能性	理事・品質管理センター長 浅香 隆久	84
研究者の「目」と「意識」を持つこと		
	理事・事務局参与（公益事業担当） 山浦 泰子	86
コラム：兵庫県予防医学協会の謎5	88	
講演会のあゆみ	89	
沿 革	147	

50周年を迎えて



会長挨拶

公益財団法人 兵庫県予防医学協会

会長 深谷 隆

公益財団法人兵庫県予防医学協会は2021（令和3）年4月に創立50周年の節目を迎えました。創立以来、予防医学事業の展開を通して国民の健康を保持増進し、広く社会に貢献できるよう努めてまいりました。これまで事業を継続発展することができたのは関係各位のご支援の賜物であり、心よりお礼申し上げます。

当協会は1971（昭和46）年4月に創立されました。当時は寄生虫がまだ小児の健康上の大きな課題であり、神戸市衛生局（現在の健康局）から神戸市医師会に学校での寄生虫卵検査の精度を上げたいとの要望が寄せられ、両者の協議が始まりました。検討を進める中で、「医師会とは別の役割で保健行政を支え、地域保健の充実に一端を担う団体が必要」という結論に至り、兵庫予防医学協会が創立されました。同年6月には兵庫県予防医学協会と名称を変更し、9月には兵庫県衛生部（現在の保健医療部）のご推薦により財団法人予防医学事業中央会と財団法人日本寄生虫予防会の兵庫県支部として認定されました。

業務面では、同年4月に寄生虫卵検査、9月からは灘神戸生活協同組合（現在の生活協同組合コープこうべ）組合員健康検査を開始し、以後着実に事業を拡大してまいりました。1973年6月には、兵庫県と神戸市、灘神戸生活協同組合、医師会などのご理解、ご協力により、財団法人兵庫県

予防医学協会を設立し再出発しました。また、この年に神戸市の外郭団体になり、1974年から住民健診（市民健診）を開始しました。その後も健診（検診）や検査事業を拡大し、1998（平成10）年4月から神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ開業に伴う受託事業を開始し、2010年4月から健康ライフプラザの指定管理制度を受託しました。2011年には神戸市の外郭団体から離れて関係団体となりましたが、神戸市との設立時の基本的な位置づけから、神戸市と緊密な連携をその後も維持しています。2013年には公益財団法人に移行しました。また2013年には灘区に健診センターが竣工し、健康ライフプラザと御影の保健環境センターと共に3カ所で事業を行っています。2018年には健康ライフプラザの指定管理制度が終了し健康ライフプラザ健診センターとして健診事業を行っています。

事業内容は多岐にわたっていますが、中心になるのは疾病予防のための健康診断および検査事業であり、地域、産業、学校の各保健分野における健診、がん検診、産業保健分野でのストレスチェック、人間ドック等を行っています。また、健診結果を有効に活用するために特定保健指導などの保健指導を実施しています。検査事業としては子宮頸がん検診等の細胞診、便潜血検査（大腸がん検診）、学校検尿などの検体検査の他に、作

業環境測定、簡易専用水道検査、食品検査など幅広い検査に対応しています。

その他にも、機関誌の発行や産業医派遣、講師派遣などの疾病予防に関する知識の普及啓発事業、健診に関連する論文発表や学会発表などの予防医学に関する調査研究事業、疾病の予防教室など健康支援のための健康推進事業や健康教育事業を行っています。

予防医学には、病気になる前に防ぐ一次予防、病気になった時に早期発見によって重症化を防ぐ二次予防、病気の治療後に社会復帰を促すことや疾病の再発を防ぐ三次予防があり、当協会では主に一次予防と二次予防を担っています。ターゲットとなる疾患はその時代の疾病頻度の影響を受けますが、2020年度の死因別頻度の順位は悪性新生物、心疾患、老衰、脳血管疾患、肺炎、誤嚥性肺炎、不慮の事故の順になっています。最近の傾向として、悪性新生物と心疾患は依然として頻度が高いこと、また、高齢化社会を反映して老衰や誤嚥性肺炎が多くなってきています。予防医学の主要な対象にはがんや生活習慣病の予防、早期発見があげられています。今後はフレイルや認知症などの高齢者の問題に対する対応が重要になっていくものと思われます。

最近の健診事業は新型コロナウイルス感染症によって大きな影響をうけており、受診控えが懸念されています。感染拡大当初の2020年3月から5月の3カ月間、市民健診が中断されました。その後も感染拡大を繰り返す中で、外出控え、リモートワーク（通勤の運動量減少）、屋外での運動控えなど様々な生活の変化により、生活習慣病の増加が認められています。がん検診でも受診控えが大きな問題となっています。多くのがんで早期に発見できれば5年生存率が90%を超えるなど、早期発見が重要であることは広く知られています。しかし、がん検診などの受診控えによって、がんの早期発見が減少し、がん手術例での進行がんの

増加が報告されています。

新型コロナウイルス感染症に対して当協会では各種ガイドラインに基づいた感染予防策を徹底し、安全に健診を受けていただくことができるように努めています。3密を避けること、基本的感染予防策（例えばマスク着用や手指などの消毒の確実な実施など）を徹底し、これまでに当協会の事業での新型コロナウイルス感染症のクラスター発生を見ることはありませんでした。今後も新型コロナウイルス感染症の影響は続くと思われませんが、新型コロナウイルス感染症と共存しながら、さらに安全な健診を模索し、受診者の皆様に安心して受診していただくことができるように努力してまいります。受診者の皆様にはこれからも積極的に健診を受けていただきます様をお願いいたします。

今後の健診事業を継続発展していく上でいくつかの課題があります。

まず受診者から信頼される健診精度の維持向上があげられます。検査そのものについては職員の診断技術向上に向けた日々の努力は勿論のこと、外部精度管理などを積極的に活用して高い検査精度を継続しています。更なる精度向上をめざして努力してまいります。検査方法については現行より精度が高く、低侵襲な検査方法や全く新しい方法が開発されれば、積極的に採用を検討することも重要であると考えています。

次に受診率のさらなる向上が求められています。生活習慣病を主なターゲットとする特定健診とその結果に基づく特定保健指導については、兵庫県や神戸市は全国と比較すると受診率が低く、受診率向上が課題となっています。また、がん検診でも、早期発見に向けて受診率のさらなる向上が必要とされています。当協会では以前から神戸市のご指導をいただきながら各種対策を行っています。まず、効果が高いとされている受診勧奨（健診受診について対象者に直接お知らせする）があります。また、特定健診とがん検診を同一日

に受けることができる“セット健診”を実施して利便性の向上に努めるほか、健診へのアクセスを改善するために一部の健診でインターネットを使った予約を行っています。インターネットを用いた申し込みは今後も拡大していくものと期待しています。

健診結果の活用も重要な課題です。結果説明や保健指導で結果の問題点を明らかにし、対策を立て、実行することで健診結果が活かされます。また、医療が必要な結果であれば、医療機関受診をお勧めし、早期の治療に結びつけることも大切です。このような効果を通じて健診の重要性を認識していただければ、健診受診の継続や拡大につながると思われまます。

最後になりましたが、今後も市民一人ひとりが健康寿命を延ばして、いつまでも元気でいられるように予防医学の実践によって貢献していきたいと思っておりますので、関係各位におかれましては、これからもご指導、ご鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げます。創立50周年記念誌発刊のご挨拶といたします。

祝 辞



創立50周年を祝して

兵庫県知事

齋藤元彦

公益財団法人兵庫県予防医学協会の創立50周年を心からお喜びします。

昭和46年に予防医学の進展のため創立されてから半世紀。長きにわたり、県民の疾病予防と健康増進のため、各種の健診・検査事業をはじめ、機関誌やセミナー等による保健知識の普及など、幅広い活動に取り組んでこられました。日頃のご尽力に敬意を表します。

特に、このたびのコロナ禍では、感染への懸念による健診等の受診控えや、外出自粛による運動量の低下、食生活の変化など、様々な健康上のリスクが懸念されています。

このような中、貴協会では、感染防止対策の徹底に加え、特定健診とがん健診を同時に受診できる「セット健診」など、誰もが安心して受診できる環境づくりを進めてこられました。改めて、深く感謝します。

いま私たちは、世界に類を見ない超高齢社会を迎えています。兵庫県の高齢化率は、2025年頃には30%を超える見込みです。人生100年時代を見据え、県民一人ひとりの健康寿命を延ばしていく

ことが大切です。誰もが住み慣れた地域で、適切な医療や介護を受けながら、生き生きと暮らす。そんな長寿の喜びが広がる兵庫をつくっていかねなければなりません。

県では、「人に温かい県政」を基本姿勢に、誰も取り残されることのない社会をめざして取り組んでいます。令和4年3月に策定した「兵庫県健康づくり推進プラン（第3次）」では、特定健診・がん検診の受診促進をはじめ、フレイル対策など高齢者の健康づくり、ライフステージに応じた歯と口腔の健康づくり、認知症の予防・早期発見の推進などを掲げました。行政だけでなく、県民や事業者などが連携・協力しながら、社会全体で健康づくりを支えていく必要があります。

それだけに、これからも貴協会の活動には大きな期待が寄せられています。ともにコロナを乗り越え、誰もが安心して暮らせる健康長寿社会をつくりあげていきましょう。

最後に、公益財団法人兵庫県予防医学協会のますますのご発展と関係の皆様のご健勝を心からお祈りします。



祝 辞

神戸市長

久 元 喜 造

公益財団法人兵庫県予防医学協会が創立50周年を迎えられましたことに、心からお祝いを申し上げます。

昭和46年の創立より半世紀にわたり、予防医学の重要性を啓発し、地域保健、産業保健、学校保健の分野で健康診断事業などを通して神戸市民の健康保持増進に取り組まれていることに、心から敬意を表します。

特にがん検診においては、本市および神戸市医師会と連携し、全国に先駆けて郵送方式による大腸がん検診を開始し、子宮頸がん検診ではより精度の高い検査法（液状処理細胞診）をいち早く取り入れてられました。また、特定健診とがん検診が同一日に受診できるセット健診を年々拡大させるなど、受診率の向上に取り組んでいただいています。さらには、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により休止となった市民集団健診の再開後は、感染対策を講じながら受診会場を増やすなど、受診者の利便性を第一に考えた、健康診断を受けやすい体制づくりにご尽力いただいています。厚く感謝を申し上げます。

本市では、誰もが健康になれるまち「健康創造都市KOBE」をめざし、健康寿命の延伸、健康格差の縮小、個人の健康づくり活動・企業の健康経営を通じた市内経済の活性化の取り組みを進めています。

また、本市では令和2年度に医療、介護、健診などのデータを個人単位でまとめて匿名化したヘルスケアデータ連携システムを構築し、大学等と連携して将来の要介護リスクを予測する研究に取り組むなど科学的根拠に基づく健康づくり、疾病予防に取り組んでいます。

市民に対し予防医学の大切さを訴えていく上でも、データを示しながら気づきを促していくことが重要です。貴協会とともに取り組んでいるがん検診においても、検診の必要性をわかりやすく市民に周知して受診を促すとともに、受診しやすい環境づくりを進め、引き続き受診率の向上に努めてまいります。

コロナ禍を経験したことで、我々の命と健康に対する価値観は大きく変わりつつあります。今後はこれまで以上に健康を大切にすると社会になると思われれます。そうした中、貴協会の役割は益々重要になると考えています。

誰もが健康になれるまちを実現するため、公益財団法人兵庫県予防医学協会の50年にわたる経験を生かした益々のご活躍を期待するとともに、今後一層のご発展を祈念し、お祝いの言葉といたします。



創立50周年 お祝いの言葉

兵庫県医師会

会長 空地 顕 一

この度、公益財団法人兵庫県予防医学協会が創立50周年を迎えられましたこと、誠におめでとうございます。ひとえに関係者の皆様のご尽力の賜物と、心よりお慶びを申し上げます。

兵庫県予防医学協会は、これまで半世紀にわたって人間ドックや健康診断、各種がん検診など県民の健康チェックはもちろんのこと、食品衛生検査や職場における作業環境測定など、県民の健康や保健衛生、環境衛生全般に関わる検査を実施し、県民の健康を守ってこられました。また、疾病予防の重要性を啓発し、健康相談を希望する方には適切なアドバイスを行うなど、県民の健康づくりの拠点として多大な貢献をしてこられました。

この半世紀の間に、日本国民の平均寿命は、女性が74.7歳から87.7歳に、男性は69.3歳から81.6歳に伸び、男女ともに世界でトップクラスの長寿国となりました。これには、医学・医療の進歩や、経済成長に伴って国民の栄養状態や衛生環境が改善したこともあります。健康診断などを通じて自身の健康状態を把握できるようになり、自

ら生活習慣を改善したり、がんの早期発見、早期治療に結びつけるなど、健康診断やがん検診などの結果を自身の健康維持に活かしてきたことが寿命の延伸につながっていることも明白で、そういう意味でこれまでの兵庫県予防医学協会の貢献は大変大きいと思います。

一方、2020年から世界的パンデミックを引き起こしている新型コロナウイルス感染症は、健康診断などの中止や、受診控えをもたらしました。その結果、2020年の統計によると、がんと診断された方が前年より9.2%減少し、今後、進行したがん患者が増加する可能性があります。また、その他の疾病に関しても、診断が遅れることで病期が進む恐れがあり、これからの各種の健康診断、そして兵庫県予防医学協会の役割はますます重要であると思います。

兵庫県予防医学協会が、次の100周年に向けて、これまで取り組んで来られた健康福祉事業をさらに発展させ、県民の健康や命を守っていただきますことをお願いいたしまして、お祝いの言葉といたします。



創立50周年記念誌発刊に寄せて

神戸市医師会

会長 堀 本 仁 士

兵庫県予防医学協会設立50周年記念誌の発刊にあたり、神戸市医師会を代表し、心よりお慶びを申し上げます。

貴協会は、予防医学事業増進のため、神戸市衛生局と神戸市医師会の協議により、1971年に設立されました。以来、事業内容も時代の要請に応じて多岐に拡大しながら、50年の長きにわたり、県民の健康増進、予防医学の発展・普及に尽力してこられました。

設立に関わった方々のご英断と、その後を引き継ぎ、弛まぬ努力で現在の隆盛を築かれた歴代会長をはじめ役職員、並びに関係各位の熱意と精進に対し、深甚なる敬意を表する次第です。

さて、超高齢社会である我が国では、「人生100年時代」とも言われ平均寿命が延びるなか、いかに長く健康を維持し、自立した生活を送るかということが、生活者一人一人の大きな課題となっています。健康寿命の延伸には従来のような「治す医療」ではなく、「未病のうちに防ぐ、発

見する」予防医学の充実が不可欠で、がんや生活習慣病の予防や早期発見に加え、フレイルや認知症予防など求められる内容も多様化しています。

また、現在は新型コロナウイルス感染症の感染拡大というかつて経験したことのない状況下にあります。基礎疾患の有無が病勢に大きく影響するといわれており、健診の重要性は増す一方で、健診の受診控えが指摘されており、今後その影響が懸念されます。災害や新興感染症の発生時に、如何に健診受診率を維持するかは広報も含め課題であろうか思います。

神戸市医師会はかかる課題を貴協会と共有し、さらに連携を深め、補完し合いながら地域住民の健康増進に寄与したいと考えています。

貴協会が長年に蓄積された輝かしい実績と経験を基に、変化する時代の要請にも応えながらさらに進化・発展し、今後益々社会に貢献されますことを心より祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



創立50周年記念を祝して

神戸新聞社

代表取締役社長 高 梨 柳 太 郎

公益財団法人兵庫県予防医学協会が、創立50周年の節目を迎えられました。心よりお慶び申し上げます。計画されていた記念事業のいくつかは、新型コロナウイルスの感染拡大で実施できなかったとかがっておりますが、その中で、この記念誌の発行にご尽力されました皆さまに、敬意を表させていただきます。

協会におかれましては、学校保健の向上と予防医学の推進を目的に設立されました。神戸市の児童・生徒を対象とする寄生虫卵検査を皮切りに、全国に先駆けた骨粗鬆症検診や、丹波地域における5年連続の骨量測定の実施など、常に一步先を行く画期的な取り組みを続けてこられました。

今では、各種健診や人間ドックをはじめ、簡易専用水道検査、作業環境測定と、実に幅広い業務を展開されています。さらに、長引く新型コロナウイルス禍の影響で、健診・受診控えが危惧される中、機関紙「あすの健康」やホームページ、新聞紙面などを通じて、早期発見や早期治療の大切さを粘り強く発信し続けておられます。

疾病予防に関する知識の普及や啓発事業にも、積極的に取り組んでこられました。とりわけ、年1回開催の「予防医学フォーラム」と「いきいき

ライフセミナー」は、神戸新聞松方ホールを会場に、大勢の方にお越しいただく人気の講演会となっております。協会健診センターで年に数回開く「がんをよく知るための講座」も、毎回さまざまながんを取り上げ、リピーターが絶えません。

いずれも協会と弊社との主催ですが、新型コロナウイルスの影響で、ここ2年は開催を見合わせております。県民の健康保持増進に寄与できる事業と自負しておりますので、コロナの状況を見極めながらとなりますが、再開の時期を協会とともに検討してまいりたいと考えております。再開の際には、会場に足を運べない方々にも内容を知っていただけるよう、紙面やデジタルでの発信にも努めてまいります。

超高齢社会を迎え、健康寿命を伸ばすことへの関心はますます高まっております。協会におかれましては、長年にわたる健診などで得られたデータを基に、さらなる研究を進められ、私たちの健康増進になお一層、寄与していただけるものと期待しております。

最後になりましたが、協会のさらなる飛躍と皆さまのますますのご繁栄を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



創立50周年に寄せて

生活協同組合コープこうべ

組合長理事 岩山利久

公益財団法人兵庫県予防医学協会が、創立50周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。創立以来、多くの困難がある中、地域住民の健康保持や予防医学事業の進展に努めてこられました皆さまのご苦勞とご努力に対し、心より敬意を表します。

市民健診や住民検診がまだ広まっていなかった昭和46年、貴協会とコープこうべにとって最初の健診活動となる「第1回組合員(主婦)の健診」を開始しました。その後も大型バスの健診車「生協すこやか号」をはじめ、胸部レントゲン車、骨塩量測定車などの検診車を寄贈し、当生協は貴協会とともに地域組合員の健康福祉を増進する活動に取り組んでまいりました。共働き世帯が増加し、生活環境が大きく変化してきた今日では、当生協の宅配を活用した郵送方式による「大腸がん検診」や「ピロリ菌検査」を共同で行い、組合員のくらしと健康を守る活動にご尽力いただいています。また、1万人を超える当生協の役員・職員の定期健康診断も担っていただき、生活習慣改善へ

の啓発や疾病の早期発見、治療につながり、コロナ禍の中でも地域組合員のくらしを守る役割がしっかりと発揮できていることに対しても、あらためて感謝いたします。

当生協は2021年、創立100周年を迎えたことを機に、2030年にありたいまち、くらしを表現するビジョン「ターゲット2030」を策定しました。住み慣れた地域で人と人がつながり、健康で安心できるくらし、まちづくりを進めていけるよう地域の課題に寄り添い、「コープのあるまち 協同のあるくらし」の実現をめざして取り組みを進めております。

今日、社会が抱えている課題は、多様で複雑に入り組み、根の深いものばかりです。今後も、地域の皆さんの健康増進活動などに取り組まれる貴協会とは手を携え、安心して暮らしていける地域づくり、社会づくりを共に進めていくことができれば幸いです。

貴協会の今後ますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。



創立50周年に寄せて

公益財団法人 予防医学事業中央会

理事長 櫻 林 郁之介

創立50周年を心からお慶び申し上げます。

公益財団法人兵庫県予防医学協会は、昭和46年4月、予防医学事業推進のために、神戸市と神戸市医師会の協議のもと「兵庫予防医学協会」として創立されました。同年6月に「兵庫県予防医学協会」、昭和48年6月に「財団法人兵庫県予防医学協会」、平成25年4月に「公益財団法人兵庫県予防医学協会」と時代の要請に沿って形態を整えながら、神戸市民と兵庫県民の健康増進と福祉の向上に大きな役割を果たしておられます。

貴協会は、創立以来、市民県民に寄り添い、受診者の声に耳を傾けて、必要とされる新たな施設の建設拡大や新たな事業の創出に取り組み、拡大発展を図られてきました。この業績や成果は目覚ましいものがあり、関西地区のみならず、全国においても出色の存在であります。

こうした事業を推進してこられた50年間には、多くの役職員の方々の並々ならぬご努力があったることと推察されますが、平成7年1月の阪神淡路大震災に際しましては、想像を絶する苦難と苦労があったことと思います。当時、神戸市において予防医学事業技術研究集会（現全国予防医学技術研究会）が開催直前であり、中央会本支部の多く

の職員が現地に集まりつつある時であり大混乱となりました。貴協会では保健環境検査センターが全壊しましたが、1月中に出張健診、2月に外来健診を再開。保健環境検査センターの業務も集団健診センターと事務所棟に機能を移し2月中に再開されました。未曾有の大災害のなかで、役職員一致団結しての再興には頭の下がる思いでした。

そして令和2年1月から全国的なコロナ禍に見舞われ、全国各支部が苦戦するなか、貴協会においては素早く状況に対応し、経営を安定化することに成功されました。これもまた、時代を見る先見性と役職員の団結と努力の賜物であると感服した次第であります。

近年においても、受診者の要望や時代のニーズに応え、内視鏡設備の充実や新型コロナウイルス感染症のためのPCR検査を導入し、さらに最新のCTも導入して、健診検査の精度向上も図られています。

貴協会の50年間は、常に本会グループの先駆的な支部として存在してこられました。これからも本会グループの範として、予防医学運動を展開されることを心から期待いたしております。

コラム 兵庫県予防医学協会の謎 1

兵庫県予防医学協会という名称について

「保健行政を支え、地域保健の充実に一端を担う」という趣旨で設立された兵庫県予防医学協会は、公共的な性格や組織の強化を図る必要があったため、当初から財団法人予防医学事業中央会および財団法人日本寄生虫予防会の支部としての認定を目指していました。

財団法人予防医学事業中央会の支部規定（当時）には、支部名にその所在する都道府県名を冠称することが規定されていたため、名称を兵庫県予防医学協会としたのです。

そして創立初年度9月に、兵庫県衛生部（現保健医療部）の推薦を得て両会の兵庫県支部として認定を受けることができました。

創立から50年、兵庫県予防医学協会という名称は、兵庫県下多くの皆さまに認知いただいています。



北側から見た当協会 JR摩耶駅と灘駅の間、車内から見るができる。

記念インタビュー



手を携え、市民の健康度向上に貢献を

神戸市健康局局长 花田 裕之

1990年4月神戸市採用。2014年4月保健福祉局担当部長、2017年4月保健福祉局高齢福祉部長、2019年4月保健福祉局副局長、2020年4月健康局担当局長を歴任。2020年7月より現職。

まずはじめに、神戸市の健康・予防に関する施策の考えをお聞かせください。

神戸市は「健康創造都市KOBE」を掲げ、市民の健康度向上に資する施策に取り組んでいます。その中でも予防は重要なテーマです。生活習慣病を見つける特定健診やがん検診などについて兵庫県予防医学協会に健診・検診業務を委託している

ところであり、これまで50年の取り組みにまず感謝申し上げます。

2020年から世界的に流行している新型コロナウイルス感染症の感染者数は、その後も増減を繰り返しまだまだ油断できない状況です。これまでの神戸市の取り組みについてお話しください。

2020年の初頭以降、新型コロナウイルス感染症の対応に追われました。神戸市内で初の感染者が出たのが2020年の3月3日です。当初は、市立医療センター中央市民病院でしか患者の受け入れをしていなかったのですが、患者が増えることを想定して3月下旬に新たに宿泊療養施設を確保しました。看護師の派遣についてはなかなか協力が得られず、医師については中央市民病院にお願いをして初期研修医を確保できる見通しが立ちました。ところが4月9日に中央市民病院でクラスターが発生し、それも困難になりました。結局保健所の医師、保健師などで対応することになったというのが当初の状況でした。

中央市民病院でクラスターが発生したことにより市内の民間病院の意識が大きく変化し、一致団結してこの困難を乗り越えようという意識が醸成されたと思います。神戸市医師会や神戸市民間病院協会、神戸市第二次救急病院協議会などの情報共有を密にしたことで、各病院が自主的に入院ベッド数を増やすなどの対応をしていただくことができました。他の自治体と比べても医療体制が確保でき、かつ非常に高い稼働率で運用できたのは関係者間で情報をリアルタイムで共有できたことに尽きると思っています。そのような結びつきを、その後のPCR検査やワクチン接種にも生かすことができました。

新型コロナウイルス感染症拡大への神戸市の対応策としては、疫学調査や、PCR検査、相談体制などを含めた「感染拡大防止」と、疑い患者を含め感染者をどこでどのように治療するかという「医療体制の確保」の2つが最優先事項でした。その後予防対策としてのワクチン接種が加わりました。同時に風評被害を防ぐために細心の注意を払いました。

今後については、感染した人については何より重症化を防止することが非常に重要になってきます。入院患者が減れば医療提供体制の確保にもつながります。今よりも自宅療養者が増えることを想定し、そのために何をしなければならないかを考えなければなりません。自宅療養の方の症状が進行し始めた

時にその予兆をつかんで病院に搬送して外来受診につなげ、それができない人に対しては往診で対応し、重症化防止を徹底していこうと考えています。

コロナ禍でも感染者の対応だけでなく、同時に市民の健康増進にも取り組んでいかなければならないわけですが、今後どのような対応を。

新型コロナウイルス感染症への対応を始めた当初から心配していたことの 하나가、コロナによる健康二次被害が発生するのではないかということでした。具体的には、密を避けるために高齢者が外出を控えたことからフレイル（加齢とともに身体的機能や認知機能が低下し、心身の脆弱性^{ぜいじゃく}が見られる状態）や認知症の進行、全世代ではうつ病などを発症する懸念もありました。

また、第一波の時は健康診断を中止せざるを得ない状況が生まれました。その後も中止にはならなかったものの、密を避けて受診控えをする人が増えました。中でもがん検診の受診が控えられることによって早期発見が遅れ、ステージが上がってから見つかる人が増えることを特に心配しています。

健康づくり対策においては、ターゲットの方々の行動を変えるためのきっかけ作りがとても難しいことが大きな課題です。普段から健康に気を付けている人はそれを続けてもらえばよいのですが、問題は「自分は大丈夫」という根拠のない自信にもとづいて健康診断やがん検診を受診しなかったり、自身の体を気遣わない人をどうするかです。

そうした人の行動を変えるにはエビデンスに基づいたわかりやすい発信をできるかが重要だと思っています。例えば、がん検診を受診しない人たちに対しては、「がんは早期発見できれば9割は治すことができる」といった強いメッセージを発することです。神戸市では2020年からヘルスケアデータ連携システムを用い、個人情報をもとに特定できないようにしたうえで医療、介護、健診などのデータを個人単位で

まとめ、健康状態や生活習慣を把握し、将来かかるかもしれない病気の予測や、生活習慣病や要介護状態につながる関連性を解明する取り組みを進めています。現在は神戸大学や九州大学などと6件の共同研究が進んでいます。これまでの概念にとらわれず市民にいかにかわりやすく伝えていくか検討を重ねているところです。

50周年を迎えた兵庫県予防医学協会に、期待することを。

神戸市は兵庫県予防医学協会と一緒に市民の健康増進、疾病予防のための健診・がん検診についてなぜそれが必要なかを伝えながら、命を守るためには健康管理が大切であるということを発信し、健診・がん検診の受診率をさらに上げていきたいと考えています。

兵庫県予防医学協会には、受診者がより健診・がん検診を受けやすいように、例えばショッピングセ

ンターなど多くの人が足を運びやすい場所に会場を設けたり、今般集団検診のウェブ予約をできるようにしたように、ネットなどを活用して申し込みのハードルを下げるなど今後も市民が健診・がん検診を受けやすい体制づくりに取り組んでいただければと思います。また、健診・がん検診を受けた後に生活改善のアドバイスを行ってもらう保健指導についても充実を図り、市民の健康度向上に貢献していくことを期待しています。

兵庫県予防医学協会は健診・がん検診を行っている現場で、受診者の生の声を聞くことができる立場にあります。神戸市と兵庫県予防医学協会でそのような情報を共有しながら、どうすれば市民が自分の健康に関心を持ってもらうことができるのかを一緒に考えていきたいと思っています。

(聞き手：ライター 山口 裕史)



予防と治療は市民の健康を実現するための車の両輪

前神戸市医師会会長 置 塩 隆

置塩医院院長。2006年4月中央区医師会会長、2010年4月神戸市医師会副会長を経て、2014年4月から神戸市医師会会長を8年間にわたり務めた。2022年4月に退任。

はじめに、神戸市医師会と兵庫県予防医学協会の関わりについて教えてください。

神戸市医師会には、現在約1,400の医療機関、約2,700人の医師が所属しています。兵庫県予防医学協会が予防医学を担っているのに対し、臨床医学を担うのが私たち神戸市医師会です。兵庫県予防医学

協会のような健診機関で行われる健康診断のデータなどをもとに身体の状態を把握し、疾患が見つかれば必要な治療を行います。医療機関においても個別の患者に対する健康診断は行っていますが、集団健診や、特定健診とがん検診を組み合わせたセット健診などを行う兵庫県予防医学協会とはすみ分けができています。

コロナ禍で医師会が果たしてきた役割をお話しく
ださい。

まずは、この2年間余りにわたる新型コロナウイルス感染症への対応について振り返りたいと思います。2020年1月30日には新型コロナウイルス対策本部を立ち上げました。毎週火曜日の定例理事会後に対策会議を開いて感染対策などについて学ぶとともに、厚生労働省、兵庫県、神戸市等からの情報を週1回発行の週報に掲載し、緊急時には間髪を入れずFAXで必要な情報を送信しました。

感染拡大当初は市民の方々がPCR検査を受けようと思っても大きな病院でしか受けられなかったため、神戸市から委託を受け、2020年6月にPCR検査センターをウォークスルー方式で中央区市街地に立ち上げ、医師会員が交代で検査業務に当たりました。その年の11月末にはポートアイランドに場所を移してドライブスルー方式に変更し、より多くの人を受けられるようにしました。自家用車を持っていない人のために専用のチャーター車を用意し、1日5件まで自宅から送り迎えができるようにもしました。その結果2021年12月に閉鎖するまで約3,500人の検査を行うことができました。

また、感染者が増えるにつれ病院では入院患者を受けきれなくなったため、神戸市が患者の受け入れ先として設けた6つの宿泊療養施設のうち2つについて、医師会員が診察に出向きました。自宅療養患者に対しては、病状が急変した時に往診可能な医療機関をリストアップし、その中から患者の住んでいる場所を考慮に入れながら保健所から往診の依頼を受けられる仕組みも構築しました。

2021年4月頃からワクチン接種が始まり、医療従事者がいち早く接種することになりました。できるだけ早く打ちコロナ対応に当たるため、医師会館を使って1カ月の間に集中的に、医師会に所属する医療従事者と従業員に接種しました。その後、市民向けにワクチン集団接種会場ができてからは、各地の

会場に各区医師会が当番を決め、医師会員が出向き接種しました。忙しい会員は、診療時間は患者を診て、昼休みにはワクチン接種会場に出向き、休診日には宿泊療養施設に出向いていました。そこに夜間救急診療の当番も担っていたわけです。

なお、医師会館1階にある急病診療所は、発熱患者のうち通常の医療機関の診療時間に診られない人が来られるので、コロナ患者の受診にも対応していました。そこでは動線の分離、パーティションの設置、換気システムを徹底したほか、ある時期からは事前予約制にして来所時間をずらし、空間、時間の両面から感染対策を取り、患者を受け入れてきました。

コロナ禍を経験して気づいたことやコロナ後の医療・健康づくりについて、医師会として目指すところをお聞かせください。

感染しないよう高齢者が外出を控えたことで運動不足になり、フレイルが進んでいることを実感しています。また、家に閉じこもることでふさがちになり、うつ病を発症したり認知症が進行したりというケースも増えています。コロナを恐れて診療を控えたことにより、もともと持っていた病気が進行している可能性もあります。

コロナ禍において健康診断の受診が途切れている人はできるだけ早く健康診断を受け、また持病を持っている人は進行度合いを知るためにもかかりつけ医を受診することを勧めているところです。周囲の人から受診を勧められるより、かかりつけ医の発する言葉は患者にとって重みがあり、まずはかかりつけ医と相談することが大切だと考えています。以前から市民に対しては講演会やセミナーなどを通じて、かかりつけ医を持つことの重要性を説いてきました。かかりつけ医を持たない人はどうすればよいのかという相談に対しては、「口コミなどを頼って近くのお医者さんにまずはかかってみて、かかりつ

け医をつくってください」と伝えています。

コロナ禍への対応に追われたこの2年余りは普段の委員会活動が滞り、必要最小限の活動しかできなかったことで、逆にこれまで続けてきた活動の重要度、優先順位がわかったような気がします。その中でも神戸市医師会員の資質向上のための勉強の機会はやはり欠かせないと痛感しました。幸い勉強会については、以前は医師会館に集まって開いていたものをコロナ禍に伴いオンライン上でできる仕組みが整ったことにより、以前よりも参加者が増えています。こうして神戸市医師会員のレベルを向上することにより、かかりつけ医としてより信頼していただける存在になることを目指しています。

50周年を迎えた兵庫県予防医学協会に、期待することを。

兵庫県予防医学協会は、神戸市医師会と補完しあいながら地域保健の充実を担うべく設立された団体で、神戸市医師会もその設立に深くかかわっています。その成り立ちからも兵庫県予防医学協会と神戸市医師会との関係は密接であり、予防と治療は市民の健康を実現するための車の両輪だと考えています。神戸市医師会ではできない健診・がん検診を兵

庫県予防医学協会にお願いするとともに、協会の健診データをもとに受診、必要があれば治療し、また協会で健診を受けて健康度の向上を確認するという流れを作っていきたいと思っています。

兵庫県予防医学協会で行っている神戸市の結核検診と胃がん検診（内視鏡検査）については、神戸市医師会が推薦した医師が、兵庫県予防医学協会に設置された委員会に出向き読影を行っています。また、児童生徒の心臓検診においては、一次検診と二次検診を兵庫県予防医学協会が行い、これらの結果をもとに神戸市教育委員会と神戸市医師会、兵庫県予防医学協会の3者で設置した神戸市中心臓検診連絡協議会において、毎年年度末に報告会を行い、問題点などを検討しています。同様に、腎臓・糖尿病検診については、兵庫県予防医学協会が一次検診（尿検査）を担い、神戸市医師会が二次検診を行うほか、判定や検診の方法を検討する委員会を設置し、子どもたちの健やかな成長と安全な学校生活に貢献しています。

このようにこれからもお互いが補完し合いながら車の両輪となって、市民の健康度向上に貢献していきたいと考えています。

（聞き手：ライター 山口 裕史）

協会章が2色あるのはなぜか？



初代協会章



現在の協会章(緑)



現在の協会章(赤)

当協会に入職すると、色違いの2つの協会章（襟章）を渡されます。この協会章は、退職する際に返却を求められ、失くした場合は1個当たり1,000円支払わなければならないので、退職まで大切に扱わないといけません。

現在の協会章は2代目で、初代は1984（昭和59）年1月に財団設立10周年を記念して、職員間でデザインを募集し、「予兵医」の文字をデザインして並べた^{おなみわたる}大浪渡事務局長（当時）の案が採用されました。

今使用している2代目の協会章は、1996（平成8）年に洋画家の中西勝氏にデザインを依頼し、新たに作りなおしたものです。花がモチー

フのデザインですが、色違いで2種類ある理由については「服装に合わせて使い分けられることができるように」との説明を受けた方が多いようです。

真相を確かめるため調べたところ、当時中西画伯からは色違いで3種類の提案があったそうです。そこでどのデザインにするか職員全員による投票をしたところ、緑が最多得票数を得たのですが、2番目に得票の多かった赤を青井立夫会長（当時）が推したため、それなら2種類作ってしまおうとなったというのが真相のようです。

なりたち・できごと

50年を振り返る

※本文の肩書・名称などは当時のものを使用、敬称は省略しています。

はじまり

創立のきっかけ

兵庫県予防医学協会の創立は、1970（昭和45）年秋に神戸市衛生局（現健康局）の主幹であった鹿野^{かの}昭二^{しょうじ}が、青井立夫^{あおい たつお}、石垣四郎^{いしがき しろう}にある相談をしたところから始まります。

「神戸市は学校保健事業の一つとして、児童・生徒の寄生虫卵検査を実施しているが、検査を依頼している業者に不審なところがあり調査に行ったところ、事務所というのが喫茶店の2階にあり検査室らしいものが存在しない。どこかに下請けに出しているのかもしれないが、実態がはっきりしない。将来、学校保健の仕事はますます拡大されることが予想されるが、こんな状態で困っている。実は東京に予防医学事業中央会という財団法人の健診検査機関があり、全国各都道府県に支部が設立されている。かねてから、この中央会より兵庫県にも支部を設立しないかという働きかけがあった。神戸市が設立資金として500万円を貸与するから、先生方が中心になって設立していただけないだろうか。また、会長を兵庫県医師会会長の渡邊^{わたなべ かずひさ}一九先生にお願いできないだろうか」という内容でした。



法人設立後に設置した看板

なぜ鹿野がこの二人に相談をしてきたのかというと、1969（昭和44）年5月に、神戸市衛生局と神戸市医師会が、全国に先駆けて定期予防接種を個別接種方式で実施したことが縁となったようです。のちに「神戸方式」と呼ばれるようになったこの制度は、それまで保健所などに集まってもらい集団で行っていた定期予防接種を、行政が医療機関に委託し、かかりつけ医が個別に接種する方式に変更した画期的な制度で、現在では全国的に普及しています。この制度を確立するための推進役が、鹿野と神戸市医師会理事だった青井、小児科医の立場で意見交換の場に参画していた神戸市立中央市民病院（現神戸市医療センター中央市民病院）元小児科部長の石垣で、このような経緯から、3人の間には予防医学事業の在り方について、基本的な考え方の合意や信頼感がすでにできあがっていたからでした。

こうして神戸市衛生局と神戸市医師会の話し合いによって設立構想が生まれた当協会は、兵庫県医師会会長や神戸市教育委員を務めていた渡邊からも賛意を得て、創立に向けての準備が速やかに進んでいきました。

会長就任に際し渡邊は「単に検便、検尿といった検体検査だけの協会では社会的意義は少ない。将来は必ず対人健診事業に入ってゆくべきである」という意見を述べたそうです。

始動

1971（昭和46）年4月、当時神戸市生田区（現中央区）にあった神戸市衛生研究所（現神戸市健康科学研究所）の建物の一隅を借りて、“医師会と協調を保ちつつ、医師会とはまた別の役割で、一つのプロフェッショナルとして保健行政を支え、地域保健の充実に一端を担う”という趣旨のもと「兵庫予防



旧御影町役場 ここから本格的に健診事業がスタートした。

医学協会」を創立しました（同年6月に「兵庫県予防医学協会」と名称を変更）。発足当初の役員は渡邊会長以下、常務理事として青井立夫、石垣四郎、鹿野昭二、神戸市医師会会計理事志賀一清^{しががずきよ}、神戸市衛生研究所部長前島健治^{まえしまけんじ}の5名、職員は、事務職9名、臨床検査技師1名でした。

初めての業務は神戸市の小・中学校、幼稚園の寄生虫卵検査で、同年9月には、当時は必須ではなかった児童・生徒の尿検査も先行的に実施しました。さらに、灘神戸生活協同組合（現生活協同組合コープこうべ）の組合員を対象に婦人健診を行う（P.33参照）など、初年度の検査数は、494,669件を数えました。

また、創立当初からの理想であった“新たな時代の包括保健を意識した全人的アプローチの積極的推進”の実現を目指し、同年9月に兵庫県衛生部（現

保健医療部）の推薦を得て、財団法人予防医学事業中央会および財団法人日本寄生虫予防会の兵庫県支部として認定を受けました。

東灘区御影への移転

業務を開始して数カ月が経過した頃、神戸市衛生研究所の事業が拡大し手狭になってきたため、間借りをしていた当協会は急遽移転を迫られました。しかし、まだ独自で民間の建物を借りる資力がなかったため、神戸市の保有している遊休施設を借用するほかに手段はなく、早急に移転場所を探しました。

なかなか移転先が見つからず焦っていたところに、^{ひがしなだくみかげほんまち}「東灘区御影本町にかつての御影町役場の建物があり、最近まで東灘警察署が庁舎を改築する期間の仮庁舎として使用していたが、現在は空き家に



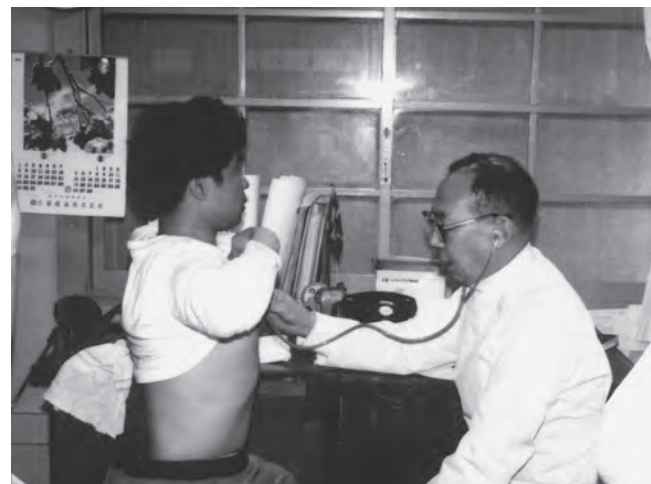
寄生虫卵検査 顕微鏡で寄生虫卵を観察。

なっている」という情報が入ってきました。鹿野がその情報を持ってきた時にはすでに日が暮れていましたが、善は急げと、建物を見るために役職員は御影本町まで車で駆けつけたそうです。

その時の印象を石垣は「満月に近い月光の中に黒々と浮かび上がった2階建てのその建物は、窓ガラスは破れ、古色蒼然たる陋屋ろうおくであった。しかし我々の目には、まるでそれが威風堂々たる古城に見



集団健診センターでの健診の様子(昭和47年頃)



集団健診センターで健診を行う伊達和男医師

えたのである」と回顧しています。

こうして1972（昭和47）年4月、当協会は東灘区御影本町6丁目5-2に移転しました。新たな施設には、健診業務を実施する「集団健診センター」を設置、初代センター長にはこばやしじいちろう小林治一郎前神戸市保健所長が就任しました。同時に検査部門を拡大し、「中央検査センター」を設置しました。

同年5月には診療所を開設し、6月には施設内での健診・検査を本格的に開始しました。

財団法人を設立

創立から2年、公共的性格にもかかわらず組織が任意団体であったため、事業を発展させる上でさまざまな制約があり、これらの問題を解決するために

組織の法人化が急がれ、準備を進めていました。

そうした中、1973（昭和48）年6月1日に「財団法人兵庫県予防医学協会」の設立が主務官庁から許可され、同月12日設立登記を完了、待望の財団法人化が実現し、新たな一步を踏み出しました。

新法人「財団法人兵庫県予防医学協会」は、兵庫県、神戸市、灘神戸生活協同組合、渡邊一九および従来の兵庫県予防医学協会が設立者となり、医師会、商工会議所など各方面からの寄付金品を加えて、資産総額47,111,425円（内基本財産1,200万円）でスタートしたのです。

創立当時の思い

創立メンバーの一人だった前島は、当時のことを後年次のように振り返っています。

「今にして思えば、協会創立の原動力となった二つの思想をあげることができます。市役所出身者は、協会を市役所が衛生に関する行政責任を果たすためのしっかりした下支えの機関だと言い、医師会メンバーは、協会を地域医療の確立を促進する上で不可欠な機関だと言いました。この二つの基盤となる考え方は、かなり距離があるようにみえますが、水面下での確実な繋がりをうかがうことができ、創立の基本精神に幅の広さを与えるものだったと思いま



旧御影町役場内部 受付カウンター(右)は大理石だった。



機関誌『あすの健康』第1号

す。それぞれの背景に相違があったとしても、現実化しなければならない社会活動の方法論については、寸分違わぬ合意を築きあげました。その高まりに勢いを得て、少し向うみずに協会を出発させた事を懐かしく思います」。



旧御影町役場内部 奥のアーチ形の構造が特徴的。

1971(昭和46)年～1980(昭和55)年

創立からの10年間は、現在の主たる事業である予防医学思想の普及・啓発および学校保健、産業保健、地域保健の基盤づくりの時期であった。

予防医学知識の普及・啓発事業

創立当初は、主に女性を対象とした予防医学知識の普及・啓発を積極的に行いました。初年度の1971(昭和46)年11月には、若い母親を対象とした「あすの健康第1回予防医学講演会・はしかの予防」を、2年後の1973(昭和48)年7月には法人化設立記念講演会として「健康を守る婦人大会・食生活と健康」を、創立5周年の1976(昭和51)年5月には「健康をめざす婦人大会・あすの健康と健診」を開催しました。

一方、一般市民を対象とした普及・啓発事業は、1976(昭和51)年5月「第1回予防医学講座・胃の疾患」を初めて神戸国際会館小ホールにて行い、神戸市立中央市民病院北浦保智副院長に「胃の疾患－主として胃がんについて」、兵庫県がんセンター^{しまもとゆういち}前集検部長に「胃集団検診について」と題してお話しいただきました。

同年11月には「第2回予防医学講座・職場におけ

る精神衛生」、翌年6月には「第3回予防医学講座・最近注目されている職業病」を開催、1979(昭和54)年6月の「健康教育講演会」では、パルモア病院^{みやげれん}三宅廉院長の講演「健康な家庭をつくるために」に加えて、特別講演として聖路加看護大学^{ひのはらしげあき}日野原重明学長に「健康教育の方向転換とその実践」というテーマでご講演いただきました。

1985(昭和60)年10月には、神戸国際会議場メインホールにて、予防医学事業中央会、日本寄生虫予防会、当協会の3者主催で「予防医学事業推進全国大会」を開催しました。

この全国大会を記念し、1986(昭和61)年11月から3年間にわたり「予防医学事業推進神戸大会」を開催、4年目の1989(平成元)年に名称を「予防医学フォーラム」と変更しました。1994(平成6)年からは、がん征圧月間にちなんで9月に「いきいきライフセミナー」も開始しました。JR兵庫駅前に健康ライフプラザ(P.40参照)が開設した1998(平成10)年4月からは「土曜健康科学セミナー」、同年7月から「がんをよく知るための講座」をスタートし、これら四つの事業は現在も続いています。

胃がん集団検診開始

1972(昭和47)年11月、神戸市から胃集団検診用X線車「はれやか号」の運行検診業務の委託を受け、保健所と協力して問診およびX線間接撮影による市民胃がん集団検診を実施することになりました。

当時は医師の確保に大変苦勞していましたが、青井が同年4月に開学したばかりの兵庫医科大学第4内科^{しもやまたかし}下山孝教授と、兵庫県医師会学術委員会で同席したことが縁となり、同大学第4内科医局の先生



胃検診用X線車「はれやか号」



御影町役場跡地に建設した本館

方に健診業務をご協力いただけることになりました。このご縁は現在も続いています。

後に青井は下山教授との出会いを「私はとても運が良かった」と話しています。

神戸市子宮がん細胞診センター設置

兵庫県では、昭和30年代後半から検診車を使用した集団検診での子宮頸がん検診を実施していました。しかし、採取した検体の細胞診を行う細胞検査士の人材不足が、子宮頸がん検診拡大の障害となっていました。

1972（昭和47）年、神戸市も子宮がん対策に取り組むことになりました。その推進の中心的な役割を担った神戸市立中央市民病院産婦人科部長^{あきのさだむ}浅野定は、検体採取を集団検診ではなく、日本母性保護医協会が行っているのと同様に、受診者がおのこの病院・診療所に来院して検体採取をうける方式を採用するため、神戸市医師会会員の婦人科医に協力を求めました。

懸案の細胞診については、神戸市が「神戸市子宮がん細胞診センター」を当協会内に設置し、細胞診に関する実務すべてを当協会に委託して、細胞検査

士の養成にも力を貸してくれることになりました。

子宮がん細胞診センター運営委員会として同年10月に初めての会を開き、神戸大学医学部^{とうじょうしんべい}東条伸平教授を委員長に、浅野を委員長職務代理に選出しました。委員会では検診および検査に関する実施方法、料金などの問題を討議し、2カ月後の同年12月には業務を開始しました。細胞診の検査数は開始当初の1カ月で155件、初年度4カ月間で1,087件となりました。

機関誌『あすの健康』創刊

1973（昭和48）年6月の財団法人化を記念して、機関誌『あすの健康』を同年7月に創刊しました。

創刊号は、B5サイズ8ページの白黒版で、兵庫県知事、神戸市長など財団設立にご協力をいただいた各方面からの祝辞のほか、特集として「婦人の健康と子宮がん」、わが社の健康管理と題して「新日本製鉄広畑製鉄所の全社員の体力テスト実施への挑戦」といった内容が掲載されています。

その後、年1回のペースで発行していましたが、



現在の機関誌『あすの健康』

1992（平成4）年8月発行の第13号より誌面を一新、A4サイズ8ページの一部カラー版となりました。さらに、1995（平成7）年9月より誌面を現在と同じ形に再構成し、年4回（3、6、9、12月）の定期発行とし、現在に至っています。

今では得意先事業所、健康保険組合、県内の学校、医師会、関係機関など約2,500カ所に配布し、2022（令和4）年3月で125号を刊行しました。

本館の竣工

1972（昭和47）年4月に移転した旧御影町役場は、国の登録有形文化財である御影公会堂（神戸市東灘区）と同じ建築家清水栄二氏による設計で、近世ドイツ風の鉄筋コンクリート2階建ての建物でした。

御影移転から5年が経過し、事業も順調に拡大していく中で、スペースはかなり手狭になっていました。また、1924（大正13）年に建てられた建物は築50年を過ぎ老朽化も激しかったため、1977（昭和52）年10月に理事会の承認を得て、建物を解体し、同地に本館を建設することになりました。

1978（昭和53）年4月、神戸市葺合区（現中央

区）の葺合保育所跡地の仮施設へ一時移転し、同年8月より鉄筋コンクリート5階建ての新館建設を開始しました。



初期の脊柱検診の様子

翌1979（昭和54）年4月に新館を竣工、各種医療機器も充実し、同年7月に新施設で婦人科健診、胃部精密検査、喀痰細胞診を始めました。さらに、10月には人間ドックを、11月には間接断層X線装置による肺がん検診を開始しました。

1980（昭和55）年4月には、前述の兵庫医科大学第4内科の協力を得て、消化器内視鏡検査もスタートしました。

脊柱検診開始

1978（昭和53）年4月の学校保健法の改正に伴い、脊柱側弯の学校検診の実施が義務付けられました。そこで当協会は、同年、各市教育委員会の協力を得て、脊柱側弯症の早期発見を目的にモアレトポグラフィー法（身体を立体的に三次元表示して観察する方法）による調査を実施しました。

その効果が実証され、1980（昭和55）年4月、公文病院公文裕院長を中心に神戸大学医学部整形外科学教室および兵庫県立のじぎく療育センターの協力により、兵庫県下で一次検診にモアレ法を使用した脊柱側弯検診を開始しました。その後、兵庫医科大学整形外科学教室も加わり、神戸市、阪神間の都市を中心に、北部を除く兵庫県一円における小学校5、6年生と中学



葺合保育所跡地の仮事務所棟

校1、2年生の児童生徒を対象とした検診を、現在も実施しています。

また同年8月には、検診数の増加に伴う受け入れ機関の整備、診断（判定）基準の設定、医療機関と学校間との連絡方法の統一などについて検討を重ね、一貫した脊柱側弯症対策を全県的に推進するため「脊柱検診専門委員会」を発足させました。

その後、1995（平成7）年に「脊柱検診専門委員会」は「脊柱変形専門委員会」と名称を改め、現在も検診の実施計画、実施方法の検討および精度管理のため毎年1回会議を行っています。さらに1996（平成8）年からは、症例の検討など学術的な意見交換の場として「兵庫側弯症センター」を発足させ、脊柱変形専門委員会と同日に会議を行っています。

灘神戸生活協同組合とのかかわり

当協会創立当初、灘神戸生活協同組合からの支援は大変ありがたいものでした。

当時、創立50周年を迎えた灘神戸生活協同組合は「利益より人間尊重の社会を」という社会運動家賀川豊彦の精神のもと、事業で得た利益を組合員にどのような形で還元するかを検討中であったそうです。

常務理事の前島が関西コールドチェーン協議会で交流のあった灘神戸生活協同組合はまだよしと浜田吉人副組合長に、当協会の創立と婦人健診の話をしたところ興味を示され、すぐに同組合家庭会会長の永谷晴子常務理事をご紹介くださり、さらに永谷常務理事から次家幸徳組合長にお話しする機会を与えていただきました。

話し合いは円滑に進み、創立1年目の1971（昭和46）年9月20日には本山生協会館で第1回の婦人健診（主婦検診）を実施する運びとなりました。

健診内容は、問診、身体測定、視力、検尿（蛋白・糖・ウロビリノーゲン）、血液型および血圧測定、医師の診察でした。初年度は生協8店舗で行い、受診者は695名でした。この婦人健診が当協会にとって最初の健診になりました。

婦人健診は翌1972（昭和47）年度も実施しましたが、受診者数は年度末で923名と期待したほどの伸びが見られず、会場の制約を受けずにどこでも健診が実施できる健診車の必要性を強く感じるようになっていました。そこで、永谷常務理事に再度ご相談したところ、灘神戸生活協同組合より健診車をご寄付いただけることになり、すぐにレイアウト設計に入りました。

こうして、創立3年目の1973（昭和48）年に、車内で身体測定や血液検査などを行える大型バスの総合健診車が完成し、胸部X線車とともに寄贈を受けました。

さらに、翌1974（昭和49）年からは、同組合各店舗事務所の環境測定と従業員約1万人の健診を委託されました。

このように多くの受診者の健診・検査を実施した経験が、その後の事業所健診に大いに役立ちました。

その後も、胸部X線車3台、DXA車1台を寄贈いただき、当協会の事業拡大への大きな一歩となりました。



X線車(昭和53年当時) 右端が仮事務所棟

1981(昭和56)年～1990(平成2)年

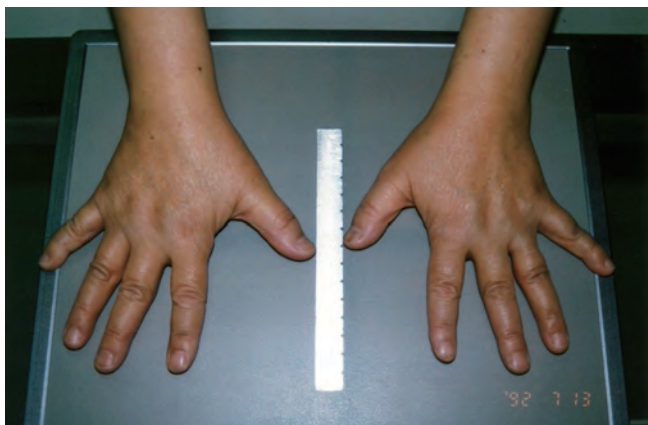
創立から10年が過ぎ、事業は順調に拡大、職員数も増え、全国に先駆けた健診にも積極的に取り組んだ時期であった。

骨粗しょう症集団検診開始

1970(昭和45)年に65歳以上の高齢者が総人口の7%を超え、日本は高齢化社会を迎えました。高齢者の骨折が少しずつ増加していましたが、当時は加齢現象の一つで疾患ではないという考えも少なくなかったようです。1970年代後半からは、放射線を利用した骨量測定が可能になり、測定機器の開発が進み、骨粗しょう症の診断ができるようになるとともに治療薬の開発も進歩していきま

そこで予防整形外科部長だった笠井実人^{かさいじつと}は、「自覚症状が少ないため骨折してから気づくことの多い骨粗しょう症こそ予防が大事である」と考え、神戸市の補助を受け1985(昭和60)年3月から全国に先駆けMD法による骨粗しょう症の集団検診を開始しました。

MD法とは、両手をひろげて、その間に基準となるアルミスケールを置き、一枚のX線写真を撮影し、人さし指につながる手のひらの骨(第2中手骨)の像をコンピューターで解析して骨量計算を行



骨粗しょう症検診撮影の様子

い診断する方法です。検査時間は1～2分と短く、X線車で巡回ができることから、集団での検診が可能でした。

骨粗しょう症検診は開始直後の1カ月間で45名が受診、4月以降1985(昭和60)年度には219名が受診し、その後も年々受診者数は増加しました。

さらに笠井は検診だけでなく、兵庫県内の老人クラブや婦人会などに出向いて講演を行い、骨粗しょう症予防のための知識の普及・啓発に努めました。

これらの業績が認められ1988(昭和63)年5月、当協会は「神戸新聞奨励賞」を受賞いたしました。

現在も骨粗しょう症検診は続いているのですが、検査方法がMD法からより精度の高いDXA法(2種類の異なるX線を照射して骨密度を測定)やスクリーニングに適したQUS法(超音波の伝搬速度を用いて骨を評価する)に変更になっています。

神戸市中学校心臓検診開始

当協会の学校心臓検診は1975(昭和50)年西宮市(小1・中1:6誘導)から始まり、1977(昭和52)年に芦屋市(小1・4:6誘導、中1・高1:12誘導)が加わりました。

一方、神戸市では1967(昭和42)年からアンケート抽出方式による学校心臓検診を行っていましたが、より高精度な検診を行おうと、1973(昭和48)年に神戸市立中央市民病院循環器センターが中心となって、小学1年生全員を対象に、学校に循環器専門医が出向き直接聴診するという心臓検診を始めました。この方式は「神戸方式」と呼ばれた非常に優れた心臓検診でしたが、小児循環器専門医のいる大都市以外では実施が難しいため、心音心電図方式のコンピューターによる自動解析システムの開発が望まれていました。



神戸新聞奨励賞盾 現在、健診センター入口に掛けている。

神戸新聞奨励賞表彰式 渡邊一九会長（前列左）、大浪渡事務局長（後列左）、青井立夫常務理事（同3人目）、笠井実人予防整形外科部長（同4人目）

神戸市立中央市民病院^{ばばくにぞう}馬場國藏小児科医長らは、1974（昭和49）年から自動解析システムの開発に着手し、実用化を進めていました。この状況に注目した文部省（現文部科学省）は、1979（昭和54）年度から2年間、自動解析システムによる心音心電図方式で心臓検診を施行する際の実施方法や問題点などの調査研究を、日本学校保健会を通じて全国3県に委託しました。そのうちの一つに兵庫県も選ばれ、調査の結果、主として馬場らが行った神戸市でのデータから、自動解析システムによる心音心電図方式の心臓検診が実施可能であると判断されました。

さらに文部省は、自動解析システムを使った心音心電図方式の心臓検診を将来的に普及させることを目的に、1982（昭和57）年度から3年計画で、兵庫県を含む全国8県で「心臓検診推進事業」をモデル的に実施することを計画しました。

このような状況を踏まえて、当協会は1981（昭和56）年9月に馬場らを委員とした循環器検診専門委員会を発足させました。

専門委員会では、当協会が1982（昭和57）年度から運用を始める新しい心音心電図システムに関する指導のほか、従来のアンケート抽出方式での精度の向上の検討や心疾患の早期発見と適切な指導管理

神戸新聞平和賞・奨励賞

第42回受賞者決まる

第42回神戸新聞平和賞・奨励賞が次の通り決まりました。この賞は昭和21年に制定され、地域社会の文化、スポーツなどあらゆる分野で優れた業績をあげた個人、団体を表彰、奨励するものです。今年も各界から推薦された多数の候補について、本社選考委員会で慎重に検討した結果、平和賞3件、奨励賞2団体、個人1人を選びました。

表彰式は5月27日（金）午前11時から、神戸新聞社会議室で行います。

20面に受賞者の横顔と業績

平和賞

前衛美術の先駆者。郷土洋画壇のリーダー的存在で国際的にも活躍

須田 勉 氏（66）

彫刻指導の先駆的役割と美意識を築き、今年、これまでに集大成した作品集を出版、彫刻の普及に専攻

新谷 英夫 氏（60）

筑前琵琶の伝承を親子で守り、古典芸能の普及とともに現代音楽との交流など新分野を開拓

栗田 旭堂 さん（60）

上原 まり さん（60）

奨励賞

老人の病氣「骨粗鬆症」の予防啓発と全国初の集団検診で予防医学の普及に貢献

（財）兵庫県予防医学協会
神戸市東灘区御影本町六・五―二

地域と連携した少年の非行防止と健全育成のための諸施策の推進

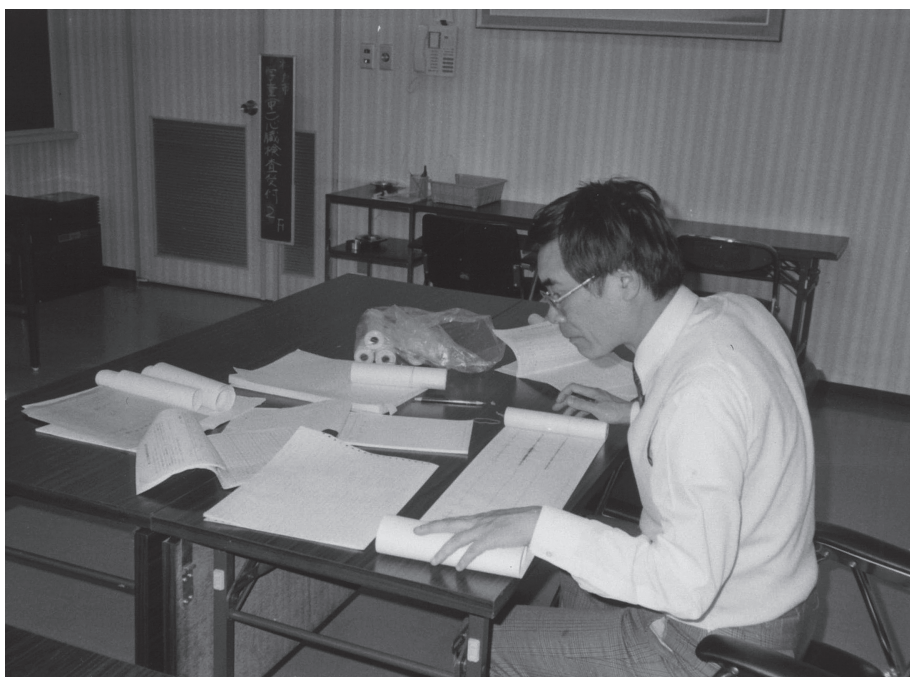
兵庫県青少年非
行総合対策本部

陸上走り幅跳びで、国民体育大会（61・62年）高校総体（62年）のビッグイベントに3連勝の偉業

井上 裕子 さん（60）

神戸新聞社

神戸新聞 1988年5月3日付け



心音心電図を読影中の馬場國藏医師



心音心電図計



神戸市中学校心臓検診の風景

を、また関係者から心臓検診について要請があったときには必要な協力も行うことになりました。

1982（昭和57）年度より文部省の「心臓検診推進事業」が日本学校保健会を通じて始まりました。兵庫県では県教育委員会と馬場らが中心となって事業を推進し、県北部の一部の小・中学校を対象としたモデル検診を実施、実務を当協会が担当しました。

その経験をもとに、神戸市医師会、神戸市立中央市民病

院小児科の協力を得て、1985（昭和60）年から心音心電図による神戸市中学校心臓検診が開始され、当協会に業務が委託されました。2万人を超える大母集団を対象とする心音心電図方式の検診システムが確立されたことは、当協会史上でも特筆すべき事業の一つとされています。

その後、1986（昭和61）年に伊丹市（小1・中1・高1：6誘導）、1988（昭和63）年宝塚市（小1・中1：心音心電図）、1992（平成4）年神戸市小学校（心音心電図）、1993（平成5）年尼崎市（小1・中1・高1：心音心電図）が加わり、阪神地域の主要都市のほとんどを当協会が担当することになりました。それ以降も、当協会ではシステムの見直しや整備を行い、心音心電図方式による心臓検診を推奨し、1993（平成5）年には西宮市も心音心電図方式に変更されました。

保健環境検査センター移転

創立から16年が過ぎた1987（昭和62）年、当協会は財団法人予防医学事業中央会全国34支部の中で、まだまだ歴史は浅い方でしたが、事業規模は全国7



自動血球計数装置

位にまで急成長していました。

1979（昭和54）年に本館が竣工した当時は40数名であった職員数も、事業の拡大に伴い100名近くに増え、検診・検査の機器類を新設、増設するスペースにも苦慮する状況が続き、分館の建設が喫緊の課題となっていました。

そのような状況の中、神戸市土木局東部土木事務所庁舎が本所と分室を統合することになり、東灘分室庁舎として使用していた建物（神戸市東灘区田中町）が空き、幸いなことにその場所を借用できるこ

とになりました。

1987（昭和62）年9月、旧神戸市土木局東部土木事務所東灘分室庁舎へ、検査部門の大部分が移転し、「兵庫県予防医学協会分館・保健環境検査センター」を開設しました。

これにより、従来の建物は「本館」となり、「集団健診センター」および「協会事務局」として使用することになりました。

労働安全衛生法定期健診改正

1989（平成元）年6月30日に労働安全衛生法施行規則などが改正され、雇入時の健康診断と定期健康診断に、新しく聴力検査（オーディオ法）、貧血検査（血色素量、赤血球数）、肝機能検査（GOT、GPT、 γ -GTP）、血中脂質検査（総コレステロール、中性脂肪）、心電図検査が追加になり、同年10月より施行されました。

この法改正により、血液検査の依頼数が大幅に増加したため、最新型の血液全自動分析装置および血球計数装置を増設し、検体量の増加に対応するとともにデータ収集端末装置を併せて整備し、精度管理の向上を図りました。また、心電図検査の増加に対応するため三要素心電計を5台増やし、車内で心電図検査が行える循環器検診車を1台新たに導入するなどの設備の充実を図りました。



分館 保健環境検査センター



分館 保健環境検査センター入口の表示

1991(平成3)年～2000(平成12)年

創立から20年を経て、世の中はバブルによる好景気が衰退し、失われた10年と呼ばれる平成不況の中、阪神・淡路大震災が起これ、当協会でも建物が被災するなど苦難の時期であった。

郵送方式で神戸市大腸がん検診開始

1992(平成4)年度から「免疫学的便潜血検査2日法による大腸がん検診」が、老人保健法に基づく保健事業に組み込まれることになり、神戸市は保健事業の一環として法制化の前年、1991(平成3)年度から大腸がん検診を開始することにしました。

自治体が行う対策型がん検診は、都市部の受診率が極めて低く、開始にあたり受診率を高めることが課題でした。そこで、神戸市、便潜血検査キットメーカー、当協会の3者で協議を重ね、受診者の利便性を優先し、「老人保健法による大腸がん検診マニュアル」(厚生省老人保健福祉部老人保健課監修)に示された方法とは異なる郵送方式を採用することにしました。郵送方式であれば、受診者は決められた期間内ならいつでも検体を郵便ポストに投函するだけで大腸がん検診を受けることができるからです。

郵送方式を採用する際に問題となるのは、検体に影響する温度暴露でした。当協会技術職員が神戸海洋气象台に出向き、過去10年間の神戸市内の外気温を調査するなど検討を重ねた結果、検体の搬送に温度の影響が少ない11月から翌年2月までの冬季4カ月間に限定して実施することに決まりました。

こうして、1991(平成3)年11月、神戸市より当協会が一次スクリーニングに関する業務全般の委託を受け、郵送方式による神戸市大腸がん検診を開始しました。

開始当初は便潜血検査陽性者の精密検査の受診率

が低く、それを解消するために精密検査受診勧奨の仕組みを整え、成績報告、追跡調査、精密検査受診勧奨などを一元管理するとともに、未受診者には電話などで状況を確認、精密検査の重要性を説明するなど保健婦、臨床検査技師、消化器専門医のチームで受診勧奨を行いました。

その結果、1998(平成10)年度には精密検査の受診率が80%を超え、目標に到達しました。

2011(平成23)年度からは、さらに受診率を向上させるために、特定健康診査の受診時に健診会場に検体を持ち込む方法(集団検診方式)を追加しています。

事務所棟完成

保健環境検査センター(分館)を開設してから5年が過ぎ、人間ドックや事業所の定期健診など施設での健診がますます増加していました。「集団健診センター」および「協会事務局」として使用していた本館が再び手狭になってきたため、事務所棟を新しく建設することになりました。

1992(平成4)年12月に神戸市東灘区御影本町4丁目の土地の借地契約を行い、建設工事が始まり、



事務所棟

翌1993（平成5）年9月に本館から東へ50mの場所に事務所棟が完成しました。

新しい建物には、医局や事務部門のほか、コンピューター室、医学講演会などが開催できるホールも設置しました。また、健診で施設を利用される方のための駐車場も確保しました。

さらに、事務所棟の完成にあわせて本館を改修し、胃X線と婦人科（乳がん・子宮がん）検診の設備の増設、CT撮影装置の新設を行うなど集団健診センターとして施設の充実を図りました。

「元気な骨をつくる」キャンペーン事業

1991（平成3）年7月、生活協同組合コープこうべ創立70周年記念事業の一つとして、4,500万円で特注したというDXA骨量測定装置付検診車を寄贈

していただきました。DXA装置搭載の検診車は全国で2台目という珍しいものでした。同年9月からこの検診車でコープこうべ組合員の方々に巡回骨量測定を開始し、その後対象を拡大していきました。

一方、創立25周年を2年後に控えた1994（平成6）



元気な骨をつくるキャンペーン 事業報告書

年、当協会では公益事業の拡大が検討されていました。この年、厚生省（現厚生労働省）が「婦人の健康づくり事業」の中に骨粗しょう症検診を追加したこともあり、医学界だけでなく報道関係でも骨粗しょう症の話題が多く取り上げられていました。当協会にとっては、前予防整形外科部長の笠井が全国に先駆けて1985（昭和60）年から骨粗しょう症検診を始めた経緯もあり、神戸新聞社文化事業局（現事業局）と協議し、公益事業の一環として「元気な骨をつくる」キャンペーン事業を共催実施することになりました。

“骨量測定に対する関心を高め、自らの骨量を知ることによって食生活、運動などの過去を振り返り、生活改善への認識を高める”ことを目的に、1995（平成7）年から1999（平成11）年までの5年間、DXA骨量測定装置付検診車を利用しての骨量



骨粗しょう症予防検診車披露式 コープこうべ創立70周年記念事業として当協会に寄贈。



元気な骨をつくるキャンペーン（西紀町立老人福祉センター）建物の前にDXA検診車すこやか20号が停車している。



コープこうべから寄贈されたすこやか20号

測定や骨粗しょう症に関する知識の普及・啓発活動を企画し、モデル地区での実施を目指しました。

神戸新聞社丹波総局管内の多紀郡西紀町（現丹波篠山市）および氷上郡市島町（現丹波市）の2町が、保健所と郡医師会の協力もあり、骨量測定モデル地区に決まり、2町の40歳以上の女性を対象に希望者を計500名募って、5年間継続して骨量を測定しました。さらに有所見者や希望者を対象に講演会や個別指導を行い、経年的変化の中に骨量低下の予防に役立つ手がかりがないかを検討、その成果を報告書にまとめました。

創立25周年を記念して

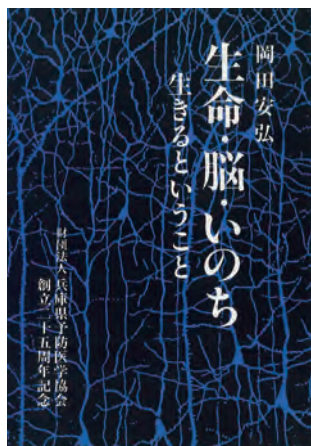
1996（平成8）年4月に当協会は創立25周年を迎えました。

その記念として同年9月に、創立当時から関わりの深い方たちや財団設立にご協力いただいた方々からの祝辞・寄稿、25年間のあゆみや沿革などを掲載した『25周年記念誌』を発行しました。

また同年8月に、1989（平成元）年から行っている「予防医学フォーラム」での講演および対談の内容をまとめた書籍『生命・脳・いのち 生きるといふこと』（神戸大学医学部教授岡田安弘^{おかだやすひろ}著・東京化学同人）も出版しました。



25周年記念誌



書籍『生命・脳・いのち』

御影本町の土地を取得

当協会が創立当時に間借りしていた神戸市衛生研究所から移転した後、1979（昭和54）年4月に本館を建て替え、25年間にわたり事業を展開していた御影町役場跡地は、神戸市からの借地でした。

一方、1995（平成7）年1月に起こった阪神・淡路大震災からの復興に取り組んでいた神戸市は、市有地の有効利用を検討していました。

そこで、神戸市と当協会が協議した結果、本館が建っている御影本町6丁目5-2の土地を当協会が購入することが決まり、同年4月に取得しました。

健康ライフプラザの開業

神戸市は2001（平成13）年を目標年度として、1989（平成元）年11月に策定した「神戸市保健医療計画」に基づき、運動不足やストレスなどによって健康を損ないがちな中高年を中心とする市民・勤労者の健康づくりの中核施設として「健康ライフプラザ」の整備を図るため、各種調査および施設や事業運営にかかる基本計画・実施計画の策定を当協会に委託することにしました。

当協会は、この事業が協会本来の予防医学事業にふさわしい分野であることに注目し、神戸市からの要請に応えるため、1990（平成2）年4月に業務を担当する健康開発部を作り、神戸市中央区京町に分室を設置しました。そして、調査・研究を重ねた結果、年度内に基本構想を、1991（平成3）年度には基本計画を策定しました。

これを受けて神戸市では具体的な施設としての「健康ライフプラザ」の在り方とその機能などを検討するため、神戸市保健医療審議会に意見を求めました。こうした経過を経て1992（平成4）年度に基本設計が、1993（平成5年）年度には実施設計が完成し、1994（平成6）年8月にJR兵庫貨物駅跡を中心に建設が進められていた「チャンネルタウン兵庫

庫」の中街区において建設が始まり、途中阪神・淡路大震災の影響による工事の中断や設計変更があったものの、1997（平成9）年10月に「神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ」（神戸市兵庫区）が竣工しました。

施設には、各種健康診断や人間ドック、がん検診などを行う「検査・健診ゾーン」、トレーニングジムやランニングトラックなどで個人にあった運動を実践する「トレーニングゾーン」、健康的な食生活習慣を身につけるための料理教室を行う「食生活実践ゾーン」、健康に関する図書やビデオ、セルフチェック機器などから手軽に健康に関する情報を入手することができる「インフォメーションゾーン」のほか、研修会などに利用できる貸室が設けられました。

竣工後は、神戸市からの委託を受けて当協会が管理運営にあたり、1998（平成10）年2月に健康づくり部門を、同年4月からは健診部門を開業しました。

健康ライフプラザはその後、2006（平成18）年4月より指定管理者制度に移行し当協会が指定管理者



キャナルタウン中央棟 3～5階が健康ライフプラザ

として運営を続けていましたが、2018（平成30）年3月に指定管理者制度が終了、4月からは、健診部門のみ健康ライフプラザ健診センターとして当協会が運営を継続し、現在も健診事業を行っています。



検査・健診ゾーン



トレーニングゾーン



食生活実践ゾーン(ライフキッチン)

阪神・淡路大震災の記録

1995（平成7）年1月17日午前5時46分、阪神・淡路地域を襲った大地震は、兵庫県淡路島北部を震源とする都市直下型地震で、のちに「阪神・淡路大震災」と名付けられたこの地震の規模を表すマグニチュードは7.3、震度7を記録した戦後最大規模の地震災害でした。死者6,434人、負傷者43,792人、家屋の全半壊249,180棟（約46万世帯）、道路、鉄道、電話は途絶し、電気・水道・ガスなどのライフラインの復旧には、数カ月かかることになりました。

当協会では、保健環境検査センターが全壊するなど大きな被害を受けましたが、地震発生直後から全役職員が復興に向けて動き出しました。

当時在籍していた役職員が全体の3割となった今、未曾有の体験を風化させないためにも、地震発生からの様子を当協会機関誌『あすの健康』（No.19・21）、25周年記念誌などの記録から転載（一部再構成）します。

<兵庫県予防医学協会・震災の記録>

1月17日（火）

午前5時46分、地震発生。

朝、駆けつけた会長はじめ役職員数名が3つの建物を見て回った。保健環境検査センター（神戸市東灘区田中町）全壊、集団健診センターと事務所棟（神戸市東灘区御影本町）は内部損傷ながら無事を確認。

保健環境検査センターは完全に壊れ傾いており、とりあえず中に入り、電気・ガスの元栓を閉めた。集団健診センターは入口の鍵が開かず、X線車を使って2階の窓から入った。機器類の損傷は不明。事務所棟は机や書類類が散乱し、足の踏み場もない状態。電気・水道・ガスはすべてストップした。

当協会周辺の家屋は損傷が激しく、すでに近隣住民30～40名が事務所棟1階に避難していたため、東

灘区役所と協議し、昼過ぎに付近の避難所へ移動をしてもらう。

18・19日開催に向けて準備をしていた予防医学事業技術研究集会神戸大会は、全国より300名参加予定であった。自転車やバイク、徒歩でやって来た職員が手分けして中止を連絡。電話がつながりにくいため終日対応に追われる。

1月18日（水）

前日よりさらに多くの役職員が出勤したが、当協会から約1.5kmの御影浜町の工場でLPガス漏れがあったため避難勧告があり、後に避難命令と変わったため建物より退去した。夕刻解除された。

1月19日（木）

各自弁当、飲料水、ポリタンクに入れた手洗い用の水まで持参で、役職員出勤。建物の片付け、関係先・職員の安否調査、復興対策本部設置の案作成などそれぞれの作業を開始。業務再開時期を検討、翌週23日（月）より勤務時間8時30分～15時と決定した。

東灘区役所より「震災による死者多く、予防医学協会事務所棟を遺体安置所に使用したい」との要請があり、3階ホールを片付け遺体安置所に。毛布や布団にくるまれたご遺体が次々に運び込まれ、最終的には26体になった。職員も泊まり込みで徹夜の作業に忙殺された。

1月20日（金）

健診出務医師が来所、「自宅が全壊、父親が死亡したが、17日午後予定の健診場所に待機した。健診班が現れないので帰宅したが、協会の被害はどうか」との言葉をいただき、一同深く感銘を受けた。

1月21日（土）

復興対策本部会議の決定により、手洗用水住吉川よりの取水班、保健環境検査センター機材等搬出調査班、集団健診センター応急復旧班などに分かれ作



全壊した保健環境検査センター

業を開始。遺体安置所対応のため、宿直も開始した。

職員の安否調査もかなり進み、250人中全壊・焼（職＝14、臨職＝19）、半壊（職＝27、臨職＝11）、軽傷（数人）が確認された。

事務所棟の電気・電話が復旧、保健環境検査センター機器類の約7割の搬出修理可能が判明、初めての明るいニュースとなる。

神戸市立中央市民病院附属東灘診療所X線室の復旧応援を同病院から要請され出勤。深夜まで作業した。

1月22日（日）

東灘診療所X線室復旧応援。

1月23日（月）

約7割の職員が出勤し、復旧作業に拍車がかかる。東灘診療所のX線装置が復旧せず、診察再開のた



入り口壁面の亀裂



検査機器の搬出作業の様子

め当協会のX線車（すこやか19号）を同診療所玄関に横付けし、骨折者を多数撮影した。

飲料水・食料・カセットコンロを持ち込み、事務所棟1階で役職員一堂に会しての昼食をとる。

1月24日（火）

行政当局との打ち合わせで、保健環境検査センター機器搬出具体案がまとまり、一部搬出も始まる。

日々、親族によるご遺体引き取りが行われ、本日で2遺体のみ安置となる。線香を絶やさないようつとめた。

1月25日（水）

保健環境検査センター機器の本格的搬出作業開始。東灘診療所X線装置修理完了に伴い、X線車を引き上げた。

関係先の安否調査終了、被害リスト作成。

県立成人病センター^{ばばしげあき}馬場茂明総長の呼びかけに応じ、避難所検診に医師・看護婦・検査技師などの派遣を決定。

交通混乱が続き、協会車によるグループ出勤計画を作成、しばらくの間土曜日は休業とする。

正午ごろ、最後まで残ったご夫婦のご遺体をお見送りした。

1月26日（木）

震災後、初の定例常務理事会開催。

集団健診センターの電気復旧。

中止していた出張健診を再計画。

保健環境検査センター建設計画につき、建設業者と打ち合わせ開始。

1月27日（金）

保健環境検査センターの押しつぶされた検査室から高額機器、顕微鏡など多数搬出。

集団健診センター古井戸のモーターを取り換え、手洗用の水を得る。住吉川での水汲み作業から解放された。

1月30日（月）

震災後はじめての出張健診。「加美町保健センター」で骨粗しょう症検診実施。

1月31日（火）

保健環境検査センターの搬出作業を終了し、集団健診センター・事務所棟に機能を再配置する。検査業務再開準備開始。



全壊の保健環境検査センターの内部 天井が剥がれ柱が曲がっている。

2月1日（水）

集団健診センターの給水関係を点検し、受水槽は取り換え、高架水槽は修理を要することがわかった。

2月2日（木）

保健環境検査センター建物解体につき、建設業者と現地確認。

ぎょう虫卵検査および便潜血検査再開。

食品検査の化学項目、尿検査も受け入れ可能となる。

2月3日（金）

特殊健診のうちの代謝物検査、骨量測定解析、環境測定可能となる。

2月6日（月）

簡易専用水道検査再開。

2月7日（火）

保健環境検査センターレイアウト案ができる。

水質検査の受け付け再開。

2月8日（水）

一般外来健診再開。

2月9日（木）

臨時職員の休業補償決定。

集団健診センターの暖房回復。

2月10日（金）

保健所のボランティアとして保健婦、看護婦が避難所の調査に出る。

2月11日（土）

県立成人病センター馬場茂明総長から、青井会長に対して「糖尿病等慢性疾患検診班」への支援要請があった。医師・看護婦・検査技師等の派遣を決定。

2月13日（月）

交通渋滞対策に西区学園都市に駐車場を確保。

腸内細菌検査再開。

職員の退勤時刻を1時間延長し、16時に改める。

2月14日（火）

集団健診センターの受水槽取り換え工事開始。

「糖尿病等慢性疾患検診」の具体案打ち合わせ会、当協会はボランティアとして参加することとした。

2月17日（金）

細胞診検査再開。

2月20日（月）

出退勤の時刻を8時30分～17時の平常に戻す。

第1回「糖尿病等慢性疾患検診」を長田区五位の池小学校内避難所で実施。

2月21日（火）

食品コンサルタント業務再開。

2月25日（金）

事務所棟の水道復旧。

2月27日（月）

外来ドック・大腸検査再開。

2月28日（火）

集団健診センターの水道復旧。

3月2日（木）

外来循環器検診再開。

3月6日（月）

食品検査の細菌項目、環境測定再開。

3月20日（月）

学校検尿、ぎょう虫検査、新学期の準備完了。

3月21日（火）

第6回「糖尿病等慢性疾患検診」（長田区神楽小学校避難所）でこの検診は完了。6回すべてに当協会が参加した。

3月31日（金）

集団健診センター、事務所棟両館とも都市ガス復旧。

4月14日（金）

西宮市香栢園に臨時駐車場開設。

7月13日（木）

保健環境検査センター地鎮祭。

7月17日（月）

当協会が労働省（現厚生労働省）に提案した「被



新たに建設した保健環境検査センター 右が事務所棟、左奥に集団健診センターが見える。

災事業所従業員健康診断補助制度」の健診開始。

11月7日（火）

保健環境検査センター竣工。

震災復興対策本部解散。

交通機関の復旧もままならない2月初旬、お見舞いに来てくださった予防医学事業中央会の山内邦明常務理事・事務局長に会長の青井が話した言葉が25周年記念誌に残っています。

「山内さん、今度の災害は言葉にならないほど大変でした。しかし良いこともありました。一つは中央会の支部であって良かったことです。各地の支部の方々から直ちに物心両面の援助がありました。仕事があれば仕事を出しましょう。検査が出来なければ検査してあげましょうなどの協力の電話もありました。もうひとつは協会職員の力でした。災害当日から職員は地域のために、また協会のために日夜を問わずすばらしい働きをしてくれたことです。これらのことを考えると、被害は短時間で復興するでしょう」

この言葉通り、多くの方々の支援を受け、震災から数カ月で次々と事業の再開を果たすことができたのでした。

2001(平成13)年～2010(平成22)年

創立から30年、世界の経済情勢はアメリカ同時多発テロやリーマンショックなど大きく揺れ動いたが、当協会の経済状況も医療制度改革によって大きく揺れ動いた時期であった。

創立30周年記念講演会開催

2001(平成13)年5月20日(日)、創立30周年記念講演会を神戸新聞社との共催で神戸新聞松方ホール(神戸市中央区)において開催しました。

「健康をもとめる民俗－古代からのアロマテラピー」と題して園田学園女子大学国際文化部長^{たなべ}田辺まこと^{まこと}教授に、また「これからの日常生活と健康法」

と題して国際糖尿病教育学習研究所^{ぼぼしげあき}馬場茂明理事長にご講演いただきました。

さらに30周年を記念して、健康ライフプラザで開業当時から行っている「土曜健康科学セミナー」の講演内容をまとめた書籍『21世紀の「生命」を考える・これからの健康科学』(神戸大学医学部名誉教授岡田安弘編著・金芳堂)を出版しました。



書籍『21世紀の「生命」を考える』



創立30周年記念講演会



満員の観客席

第36回予防医学技術研究集会開催

当協会が担当支部として1995(平成7)年1月18・19日に神戸市での開催を予定していた第29回予防医学技術研究集会は、前日に発生した阪神・淡路大震災で中止となりました。

同年11月、予防医学事業中央会のご厚意により、第29回予防医学技術研究集会は第30回予防医学技術研究集会との合同開催として、東京都新宿区で開催されました。第29回にエントリーされていた演題の発表の他、当協会から阪神・淡路大震災の報告をする機会を与えていただき、当時いただいた全国の各支部からのご支援にお礼を申し上げることができました。

それから7年後の2002(平成14)年1月23日、神戸市産業振興センター(神戸市中央区)を会場に、第36回予防医学技術研究集会を担当支部として開催することができ、復興が進んだ神戸および当協会を全国から参加された方々に見ていただけました。

神戸市基本健康診査全面受託

2002（平成14）年度から神戸市においても住民健診が有料化され、予想以上の受診者の減少という問題が発生しました。

そんな中、当協会が2003（平成15）年度から神戸市基本健康診査（住民健診）事業の全面委託を受けることになりました。それまでの健診スタッフのみを派遣する形式とは異なり、自治会などとの事前調整、健診会場の確保、日程調整、健診の資材配布から、健診現場での受付業務や料金の徴収、結果などの報告業務と経年管理、また市民からの意見や要望等の受付まですべてを一括して当協会が行うことになりました。

そこで当協会は住民サービスの向上を目指し、これまでの住民健診では行っていなかった休日健診や夜間健診の実施、QUS法による骨粗しょう症検診の同時実施、健診受付時間の延長や健診会場の増設などを行いました。市民の方々が受診しやすい環境を整え、健診内容の充実を図った結果、全面委託開始初年度に、前年度の有料化で減少した受診者数をそれ以前の受診者数に回復することができました。

一方で、住民健診は市内9区全域を対象に展開するため、実施にはさまざまな問題が生じました。中でも大きな問題が、健診用資材の準備と保管のための場所の確保でした。地域ごとの健診の日程が決まると、各健診会場周辺の自治会に依頼して、問診票などの健診資材を事前に各戸配布していただくのですが、資材を個人ごとにセットし一時保管しておくスペースが足りず、スタッフは効率の悪い作業を余儀なくされていました。

新たなスペースの確保を模索していたときに、灘区役所の移転に伴い空室となった灘区民ホール（神戸市灘区岸地通）3階部分を借用できるようになりました。効率の良い事務処理とより充実した住民健診事業を目指して、住民健診を担当するスタッフが灘区民ホールに移転し、2006（平成16）年5月に灘



第36回予防医学技術研究集会



開会の挨拶を行う青井立夫会長

分室を開設しました。

神戸市乳がん集団検診開始

2004（平成16）年10月、乳がん啓発運動を推進するNPO法人「J.POSH」が、神戸市にマンモグラフィ装置を寄贈し、当協会が同装置を搭載した乳がん検診車を新しく整備することになりました。新しい車は2005（平成17）年6月に完成、同月22日に神戸市役所前にてお披露目会が開催されました。

すこやか55号と名付けられたこの乳がん検診車は、車内に同装置でのX線撮影室のほか、待合室、更衣室、視触診のできる診察室も備えた、神戸市乳がん検診初の巡回車でした。

それまでのマンモグラフィ装置を用いての神戸市

乳がん検診は、受診者が個々に医療機関に出向き受診していましたが、同装置のある医療機関は市内23カ所とまだまだ少なかったため、居住地域によっては受診機会に恵まれないこともありました。

そこで多くの方に受診いただけるように、2005（平成17）年7月より公園や駅前など市内各地域を巡回しての集団検診を開始しました。初年度の受診者数は4,186名でした。

すこやか55号はその後10年間にわたり稼働していましたが、現在は2015（平成27）年12月に日本宝くじ協会助成事業により整備したすこやか56号が2代目として市内を巡回しています。

プライバシーマーク取得



プライバシーマーク

2003（平成15）年5月、「個人情報の保護に関する法律」が公布され、2005（平成17）年4月に全面施行となりました。事業者はこの法律により、利用目的の特定・制限、適切な取得、取得に際しての利用目的の通知・公表、正確性の確保、安全管理措置、従事者・委託先の監督、第三者提供の制限、開示・訂正・利用停止、苦情の処理などを果たさなければならず、違反すると行政処分を下され、さらに主務大臣の命令に反した場合には罰則が科せられることになりました。

当協会では、法律の施行に合わせて2005（平成



多くの市民に乳がん検診を受けてもらおうと、市が、最新の機器を搭載した「乳がん検診車」を導入した。市が実施する乳がん検診用としては初の巡回車で、医師や運転手など乗車スタッフは女性を原則としている。一日から市内各地を巡回する。

（広岡啓瑞）

乳がん啓発運動を進める特定非営利活動法人（NPO法人）「J・P OSH」が、二〇〇四年十月に乳がん検診装置「マンモグラフィ装置」を市に寄贈、財団法人県予防医学協会がバスを改装し同装置を重載した。装置費を含め約六千万円。車内に待合室、同装置でのX線撮影室、触診のできる診察室がある。このほど、市職員ら女

性五人が実際に検診を受け、「内外斜位」という乳房を左右から圧迫する撮影方法で、乳房に小さながんの兆候がないかを調べた。体験したフリーライター勝浜智代さん（三）「宝塚市」は「思ったより痛くなかった。内装もかわいしいし、気軽に受診したくなる」。

市内二十三の医療機関では五月から同装置を導入した検診を実施しており、検診車はそれをカバーするがたちで市内の公園や駅前などを巡回する。本年度四十歳以上で偶数歳になる女性を対象。四十代二千円、五十代以上千五百円。各回二十五人まで。同協会 ☎ 71・7758

神戸新聞 2005年7月1日付け

市、乳がん早期発見へ 専用検診車を初導入

きょうから巡回 最新鋭装置を搭載

17）年度から個人情報保護委員会を組織し、「個人情報保護方針」「個人情報保護規則」などの策定、個人情報の管理体制の整備を行い、受診者などの個人情報の管理に積極的に取り組んでいました。

2007（平成19）年2月には、個人情報の取り扱いを適切に行う体制等を整備していると評価され、財団法人日本情報処理開発協会（JIPDEC）から、第三者認証制度「プライバシーマーク制度」の認定を受け「プライバシーマーク」を取得しました。

神戸市国保特定健診・特定保健指導開始

2005（平成17）年12月に政府・与党で取りまとめられた「医療制度改革大綱」に基づき法案化された「健康保険法等の一部を改正する法律」において、2006（平成18）年6月「老人保健法」が「高齢者の医療の確保に関する法律」に改正されました。この中で、2008（平成20）年4月から医療保険者（国民健康保険、政府管掌健康保険、組合管掌健康保険、

共済組合、船員保険)に、40~74歳の被保険者・被扶養者全員を対象とした特定健康診査(特定健診)と特定保健指導の実施が義務付けられることになりました。

この制度改革は国の医療費抑制政策の一環で、従来の住民健診に代わり特定健診・特定保健指導が導入されることで、当協会の経営にも大きな影響を及ぼすことが考えられました。

これまでの住民健診は、予約不要で市内在住の方なら誰でも受診できましたが、特定健診は予約制で対象が神戸市国民健康保険の加入者のみ、受診には送付された受診券が必要となるため、受診者の大幅減が危惧されたのです。

そこで新制度開始に向けて、2007(平成19)年10月より「特定健診・特定保健指導事業推進本部」を立ち上げ、準備に取り組んだ上で、翌2008(平成20)年5月19日より、神戸市国民健康保険加入者を対象とした特定健診、30歳、35~39歳、75歳以上の市民を対象とした健診と胸部X線健診(結核健診)、骨粗しょう症検診を開始しました。

初年度は市内17カ所の会場で275回実施し、受診者数は40,684名(うち神戸市国保特定健診は32,716名)と当初予想していた数よりは多かったものの、前年度の住民健診受診者数82,779名からは約半数に減少しました。

特定健診の結果から特定保健指導対象者(動機付け支援800名、積極的支援171名)と判定された受診者の方々には、特定健診結果表の送付と同時期に特定保健指導案内を送付し、指導希望者を募り電話で予約を受け付けました。申し込みのない対象者には、さらに電話や手紙で勧奨を行いました。その結果、特定保健指導実施数は、動機付け支援396名(49.5%)、積極的支援65名(38.0%)で、動機付け支援では厚生労働省告示第150号「特定健診・特定保健指導の基本方針」の2012(平成24)年における実施目標45%を上回ることができました。



神戸市基本健康診査の風景

2011(平成23)年～2020(令和2)年

創立40年を迎え、神戸市の外郭団体から外れ、長年事業を展開した御影の地を離れるなど、当協会にとって大きな変化が続いた時期であった。

神戸市外郭団体から関係団体へ

2009(平成21)年9月に設置された神戸市外郭団体経営検討委員会において、外郭団体全46団体の検証が行われ、当協会を含む27団体において見直しを検討すべきであるとの提言がなされました。当協会に対しては、市の出捐割合^{しゅつせん}を引き下げるとともに、外郭団体としての位置づけを見直すよう意見が出されました。

この提言を受けて神戸市は、当協会の基本財産1億円のうち神戸市からの出捐割合が最大ではないこと、市から補助金・貸付金・損失補償を受けていないことから、団体の自律性をより高めるため、2012(平成24)年度末までに市の出捐割合を25%未満に引き下げよう当協会に求めました。

当協会はこれに応じ、2011(平成23)年7月に基本財産を2億5,597万1千円に増額し、神戸市の出捐割合を34%から13%に引き下げました。この結果、当協会は神戸市の外郭団体から外れ、関係団体に位置づけられました。

公益財団法人に移行

1898(明治31)年に施行された旧民法第34条に基づき始まった公益法人制度は、制定から1世紀以上がたち、法人の設立や運営についての不明確さが問題視されていました。そこで公益法人制度について抜本的な見直しが行われることになり、いわゆる「公益法人制度改革関連三法」と呼ばれる「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」「公益社団



新館・健診センター落成式 南部征喜会長の挨拶



健診センター4階待合

法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」が、2006(平成18)年5月に成立し、同年6月に公布されました。新制度は、2008(平成20)年に施行し、改正前の民法の規定によって設立された財団法人は5年の経過措置の間に移行認可の申請をして一般財団法人へ移行するか、移行認定を受けて公益財団法人へ移行するかを選択することになりました。

当協会は、健診・検査を含む事業活動の中で、予防医学の知見に基づき、健診・検査の実績を分析・



現在の兵庫県予防医学協会本部・健診センター

評価し、啓発から事後指導を含む総合的な健康増進のための支援を関係団体・機関との共同により発揮するという財団法人設立の際の主旨を貫き、公益財団法人への移行を決めました。移行申請のため公益法人移行推進委員会を立ち上げ、一層の公益性の発揮に努め、社会的信用・信頼性のさらなる向上を目指すことにしたのです。

2011（平成23）年12月、兵庫県公益法人室との移行申請事前協議から始まった移行申請の手続きは、2013（平成25）年4月に完了し、兵庫県の認定を受け当協会は公益財団法人へ移行しました。

新館竣工、灘区岩屋北町への移転

1979（昭和54）年4月に旧御影町役場跡地に集団健診センターを建設して以来、1993（平成5）年9月に事務所棟を、1995（平成7）年11月には保健環

境検査センターを東灘区御影本町に建設し、事業を行ってきました。しかし、築25年を過ぎた集団健診センターの老朽化や来客用駐車スペースの不足、さらに各建物が離れている不便さなど多くの問題を抱え、それらは年々増大していきました。

東灘区御影本町での建物の建て替えを検討していましたが、集団健診センターの土地面積だけでは狭く、また事務所棟および保健環境検査センターの土地は借地であったため、同地での建て替えは難しい状況でした。

そのような折、神戸市がJR西日本から取得していた神戸市灘区岩屋北町の土地を、当協会が新館建設予定地として2004（平成16）年3月と12月の2回にわたり取得することができました。待望の新館建設に向けて、その後3年をかけて、基本設計の最終段階まで計画を進めていきました。

しかし、2008（平成20）年4月から開始される特

定健康診査（特定健診）と特定保健指導が、当協会の財政に及ぼす影響を予測できない状況となり、2007（平成19）年9月に新館建設を数年間延期することが決まりました。その間、新館建設予定地はX線車や業務用車両の駐車場として使用することになりました。

2008（平成20）年3月、新館建設予定地の東隣にマンション建設を予定していたJR西日本との間で土地の取得・処分を行い、当初よりも土地面積が拡大したため、延期していた新館建設を2010年（平成22）年1月に再度基本設計からやり直し、2012（平成24）年8月に新館建設が着工されました。

2013（平成25）年12月に建物が竣工し、地下1階、地上5階の建物にこれまでの集団健診センター、事務所棟、灘分室の機能を収容するとともにX線車、業務用車両および来客用駐車スペースも同一敷地内に確保することができました。

2014（平成26）年1月、健診センターの落成式を行いました。

御影健診センター竣工

集団健診センターの新館への移転を終えるとす



現在の御影健診センター

神戸新聞 2016年03月11日 金曜日 面名 朝四社 13 26ページ

兵庫県予防医学協会が2月2回開いている「土曜健康科学セミナー」が12日、500回を迎える。さまざまな病気の知識や予防法について第一線を活躍する医師らが講演し、間もなく18年節目の500回目は、無料の公開講座が開かれる。（森 信弘）

セミナーは、1998年4月からJR兵庫駅（神戸市兵庫区）南の健康ライオンプラザで開催。当初は科学分野などもテーマにしてきたが、2013年度からは病気の話題に絞っている。これまでの参加者は延べ3万2千人を超える。

講師は、神戸大学大学院の教授や神戸市立病院の医師らが務める。開始当初は女性の参加が多かったが、次第に男性も増加。テーマは幅広く、回によっては介護や学生など若い世代も自立している。

16年度も「師がんと治療について」手術を中心に「最新の認知症診療、現況と今後の見通し」な

健康啓発続けて500回

市民の関心を呼びよせよう。6カ月1回開く。同協会が5月12日は無料で開催できる。神戸大名誉教授で阪生らしい情報を取り入れ、学者の岡田安弘さん。が、市民の健康のため「医学の歴史からみた啓発していきたい」とす。れまでの健康科学」と題して話す。申し込み不要。毎回午後1時半〜3時。同協会 ☎078・855・2716

神戸大学 神戸市兵庫区 健康ライオンプラザ



18年間続いてきた土曜健康科学セミナー。今年1月、健康ライオンプラザ（兵庫県予防医学協会提供）

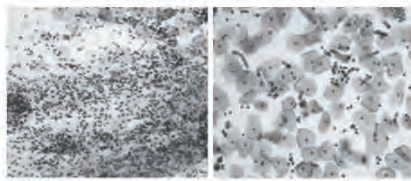
神戸新聞 2016年3月11日付け

ぐ、御影の建物を神戸市市民健診の会場および保健環境検査センターとして使用するため、2014（平成26）年1月から改修工事を始めました。同年6月に改修工事は終了し、8月1日から保健環境検査センター業務を開始しました。同年12月には、旧事務所棟と旧保健環境センターの建物を取り壊し、借地を返還いたしました。

土曜健康科学セミナー500回

神戸市健康づくりセンター健康ライオンプラザ開設時の1998（平成10）年4月から、疾病に関する知識や予防法の普及啓発を目的に、一般市民を対象に始めた「土曜健康科学セミナー」が、2016（平成28）年3月12日（土）に500回を迎えました。

このセミナーでは、神戸大学大学院医学研究科教授や神戸市民病院機構の医師など、各分野の第一線で活躍されている先生方を講師にお招きし、参加者は18年間で延べ3万2千人を超えています。



子宮頸(けい)がん検診で採取した細胞の顕微鏡写真。細胞や核(黒い点)の形状などを確かめる。昨年度までの「直接塗抹法」(左)に比べ、「液状処理細胞診(LBC)」(右)では細胞の重なりが少なく、見分けがつきやすい(いずれも兵庫県予防医学協会提供)

神戸市導入

子宮頸がん検診 高精度に

神戸市は本年度、子宮頸がん検診に、より精度の高い検査法「液状処理細胞診(LBC)」を採用した。細胞の採取と病理標本の作製がより確実になるため、受診者に負担のかかる再検査の発生を減らせるという。検査を請け負う兵庫県予防医学協会によると、LBCの導入は県内

の市町で初。子宮頸がん検診は、国が20歳以上の女性を対象に2年に1回、受診を勧めており、胃大腸、肺、乳がんとともに各市町が検診を実施している。神戸市では、市内の産婦人科など87の医療機関で受けられる。昨年度までの検査は「直接塗抹法」と呼ばれ、医師が棉棒で子宮口付近の細胞を採取し、スライドガラスに塗布して標本を作製していたが、医師の技量によって細胞量やスライドガラスへの固定具合などに差が出るため、日本産婦人科医会が「精度管理の点から万全とはいえない」と指摘。同協会によると、昨年度、標本が「不適合」となったケースは、全受診者2万6759人のうち、2.5%の669人にとった。4月から導入したLBCは、細胞を採りやすい専用のブラシを使用し、ブラシごと保存液の入った容器に入れて、標本は同協会の専門技師が作製するため、精度のばらつきを抑えられる。今年4月6日に受診し

県内初 再検査が大幅減少

子宮頸(けい)がん 胎児が宿る子宮(子宮)と膈(ちつ)の間の子宮頸部(けい)に、入り口付近にできるとが、多いため検査しやすく、がんの中でも発見しやすいとされる。患者は20代から増え始め、比較若い世代でも発症。大半が、ヒトパピローマウイルス(HPV)の感染原因とされる。早期に発見できれば9割以上で回復するとされ、初期であれば子宮口周辺の切除だけの治療も可能になる。

た5240人中、検査に適さない標本は0.69%の36人分まで減少。医療機関に偏りはなく、受診者が高齢で細胞数が少ないなど別の理由が考えられるという。

同市産婦人科医会長の益子和(いせのり)医師(68)は「不適合になって再検査なども費用がかかり、精神的な負担もある。4月からは再検査とならずにスグ減り、より正確に結果を出せるようになった」と評価する。

受診者の負担額は、従来と同じ1回1700円。本年度は1998年4月2日、97年4月1日生まれは無料クーポンを使える。母子医師は早期に発見できれば手術を含めた治療も軽くなる。がんになる可能性も把握できるため、必ず受けてほしい」と呼び掛けている。

(山路 進)

神戸新聞 2017年8月31日付け

記念すべき500回目の講演は、セミナー開始時から企画・運営にご協力いただいた岡田安弘神戸大学名誉教授に「医学の歴史からみたこれからの健康科学」と題してお話いただきました。

神戸市子宮頸がん検診液状処理細胞診開始

これまでの神戸市子宮頸がん検診では、自治体が行う対策型の子宮頸がん検診で一般的に用いられている「直接塗抹法」という、採取した細胞を直接スライドガラスに塗りつけ標本を作成する方法で行っていました。しかしこの方法では、採取した細胞の乾燥や重なり、量の不足など不適正標本となるケースがありました。

そのため、神戸市産婦人科医会からはより精度の高い検査法「液状処理細胞診(LBC)」での実施を求められていました。「液状処理細胞診」では、専

用のブラシと保存液を使用して、多くの細胞を回収し、顕微鏡での観察に最適な標本を作製でき、精度のばらつきも抑えられるからです。

しかし、「液状処理細胞診」は「直接塗抹法」に比べ、消耗品などの費用が高くなるため、対策型検診で実施している自治体はまだ少数でした。

検査精度を高め、不適正標本で再検査となってしまう受診者の負担を減らすため、神戸市、神戸市産婦人科医会、子宮がん細胞診を受託している当協会の3者で検討を重ねた結果、2017(平成29)年4月に神戸市は兵庫県内では初めて、子宮頸がん検診に「液状処理細胞診」を採用しました。

その結果、検査に適さない標本は、2.5%から0.69%に減少しました。

『赤ちゃんの四季』出版

2017(平成29)年4月、書籍『赤ちゃんの四季』(神戸大学医学部名誉教授 中村肇著・神戸新聞総合出版センター)を出版しました。

『赤ちゃんの四季』は、当協会機関誌『あすの健康』に2001(平成13)年から連載した中村肇神戸大学名誉教授執筆のコラムです。全160ページを通して、ベテラン小児科医が子どもの持つ能力のすばらしさ、子育てだけにとどまらない人と人とのふれ合いの大切さを述べた、子育て中の親だけでなく、普段は育児に関わりがない方にも読んでいただける内容になっています。

出版に際し、神戸市立の各区図書館、兵庫県立図書館、市内の幼稚園、保育所、神戸市医師会所属の産科・小児科など約500カ所に寄贈しました。



書籍『赤ちゃんの四季』

新型コロナウイルス感染症の記録

2019（令和元）年末に中国武漢市から報告された原因不明の肺炎は、その後新型コロナウイルスによるものであると判明し、世界各地に拡大していきました。

世界保健機関（WHO）は、2020（令和2）年1月30日に「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」であると宣言、2月11日に新型コロナウイルス感染症の正式名称を「COVID-19（coronavirus disease 2019）」とすると発表し、さらに3月11日には新型コロナウイルスの世界的な感染拡大について「パンデミック（世界的な大流行）と見なせる」と表明しました。

日本の状況

日本では2020（令和2）年1月16日に国内1例目となる感染者発生が発表され、2月中旬頃からは札幌や東京などでクラスターの発生が報告されるようになり、全国でマスクやアルコール消毒液などが品薄になってきました。

2月27日には首相が全国すべての小中高等学校と特別支援学校について、3月2日から春休みまで一斉休校の要請を行いました。

3月21日には国内の感染者が1,000人を超え、24

日に東京2020オリンピック・パラリンピックの延期が決まりました。

兵庫県内で初の感染者

神戸市は2月28日、国からの要請を受け3月3日より市立学校園の休校を決定しました。兵庫県内で3月1日に1例目（西宮市）の感染者が報告された後、3日に神戸市で初めての感染者が発生、感染拡大防止のため、地域福祉センターや区民・勤労市民センターなどの市の施設の休閉館が決まりました。

当協会が受託している神戸市市民健診集団健診と開催を予定していた講演会（土曜健康科学セミナー）も中止となりました。

その後も感染拡大は収まらず、4月7日に政府は「改正新型インフルエンザ等対策特別処置法」に基づく緊急事態宣言を発出し、兵庫県を含む7都府県を5月6日まで緊急事態措置をすべき区域として公示、4月16日にはその対象を全都道府県に拡大しました。

当協会の対応

当協会では、4月1日に新型コロナウイルス感染症対策本部を設置し、緊急事態宣言発出後も来所者



DIYで健診受付カウンターに飛沫感染防止対策を行う



の体調チェック、体温測定、手指消毒や健診機器の都度消毒などの感染対策・環境整備を講じながら健診業務を継続していました。しかし、4月13日に兵庫県が、生活を維持する上で必要なものを除く施設・店舗に対して4月15日から5月6日までの休業要請を行ったため、健診センター（灘区）、健康ライフプラザ健診センター（兵庫区）の両館を4月13日から5月6日まで休館とし、職員（一部を除く）の休業、自宅待機を指示しました。

休館期間中に、飛沫感染防止対策として、健診の受付カウンターや職員事務室などにパーティションの設置を行いました。当時はマスクや消毒液だけでなく、感染予防対策に必要なあらゆる物品が不足しており、パーティションはホームセンターで購入した材料を使い、職員で手作りしました。

その後も、4月18日には国内感染者が1万人を超えるなど、感染拡大が止まらず、5月4日に31日までの緊急事態宣言延長が決まりました。それに伴い、当協会でも休館および職員の自宅待機を5月31日まで延長し、労働安全衛生法に基づく健康診断（一般定期健診、特殊健診など）のみ5月11日より再開することになりました。

その後、国内の新規感染者が減少してきたため、5月14日に39県で緊急事態宣言が解除され、21日に兵庫県を含む近畿3府県が、25日には国内で全面的解除となり、5月26日に兵庫県は「6月1日より全ての業種で休業要請を解除する」と表明しました。

兵庫県の緊急事態宣言の解除を受け、当協会では通常よりも1日あたりの受診者枠を減らして、健康ライフプラザ健診センターが5月23日から、健診センターは6月1日から健診業務を再開し、その後徐々に受診者枠を広げていきました。

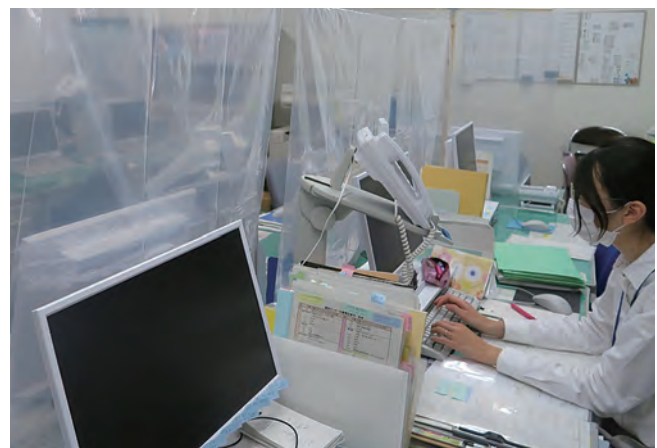
5月25日には、3月より中止となっていた神戸市市民健診集団健診の再開が7月1日からと決まりました。これにより、当協会の健診業務は全て再開されることになりました。しかし、感染拡大予防の観点から、2020（令和2）年度の講演会（土曜健康科



1日当たりの受診者数を抑え、密を防止

学セミナー、いきいきライフセミナー、予防医学フォーラム、がんをよく知るための講座）は、全て中止としました。

新型コロナウイルスの拡大により世界各国で入国制限措置が取られていましたが、7月22日、日本では国際的な人の往来再開の検討が始まりました。出国には相手国の要請に基づき、新型コロナウイルスの陰性証明書の提出を条件とする場合があり、当時兵庫県内では3カ所の医療機関が証明書の発行を行っていました。神戸市内においてもビジネス渡航に伴う陰性証明のニーズが増加することが想定されるため、当協会は8月17日よりビジネス目的の海外渡航者向けに、唾液によるPCR検査と陰性証明書発行を開始しました。この業務は、民間医療機関をはじめ多くの検査機関で同様の業務が行われるようになったため、2021（令和3）年10月末で終了しました。



事務所内も飛沫感染防止対策



パンデミックから2年目の受付カウンター 当初とはパーテーションが異なっている。

4回目の緊急事態宣言が発出され、9月30日まで続きました。そのため2021年度後期に開催を予定していた講演会（土曜健康科学セミナー、がんをよく知るための講座）は中止とし、11月に開催を予定していた創立50周年記念講演会は2月に再延期を決めました。

国内ではマスクの着用と手指消毒などの予防対策の徹底に加えて、5月から始まった新型コロナウイルスワクチンの接種も進み、10月に入り感染者が減少してきました。12月になると神戸市の感染者数も1桁が続き、2年ぶりに年末年始の人の移動が活発となりました。

長らく緊急事態宣言

2021（令和3）年1月7日、首都圏の1都3県に2回目の緊急事態宣言が発出され、その後14日には兵庫県を含む7府県が対象に追加されました。当初の期限は2月7日まででしたが、ウイルスの感染拡大に歯止めがかからないため、栃木県を除く10都府県は3月7日まで延長となりました。兵庫県を含む6府県は2月28日で解除されましたが、首都圏の1都3県は再延長となり3月21日に解除となりました。しかし、再び感染が拡大し、4月5日から兵庫県にもまん延防止等重点措置が実施されました。その後も感染は拡大し続け、4月25日に兵庫県に3回目緊急事態宣言が発出されました。

この状況を踏まえ、当協会では2021年度前期に開催を予定していた講演会（土曜健康科学セミナー、がんをよく知るための講座）を中止とし、9月に予定していた創立50周年記念講演会は11月に延期としました。

3回目の緊急事態宣言は約2カ月という長い期間となり6月20日ようやく解除となりましたが、翌21日から引き続きまん延防止等重点措置が始まり、7月11日まで続きました。ほどなくして重症化率の高いデルタ株による感染が広がり、再び8月2日からまん延防止等重点措置が開始となり、20日からは

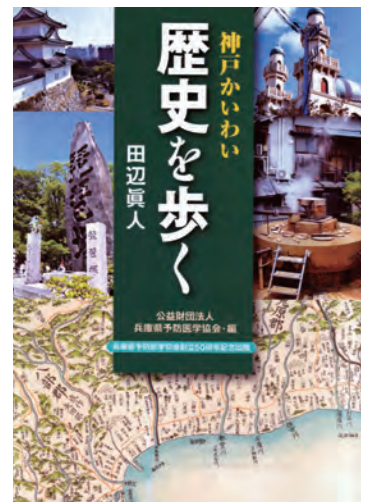
オミクロン株での感染者再拡大

2022（令和4）年1月、成人の日の3連休が明けただ直後から、感染力の強いオミクロン株による感染者が連日予想を超えるスピードで倍増していき、神戸市の感染者数も過去最高をどんどん更新していきました。兵庫、大阪、京都の関西3府県は、21日に揃って国にまん延防止等重点措置を要請し、27日に適用開始となりました。

今回の措置により、創立50周年記念事業として予定していた、神戸市健康局長、神戸市医師会会長、当協会会長の3者による鼎談は中止となり、個別インタビューに変更されました。また、2度の延期を経て2月に開催予定だった記念講演会も中止が決まりました。

約2カ月続いた4回目のまん延防止等重点措置は、3月21日で終了しました。

何度も繰り返される感染拡大により、当初予定していた創立50周年記念事業は



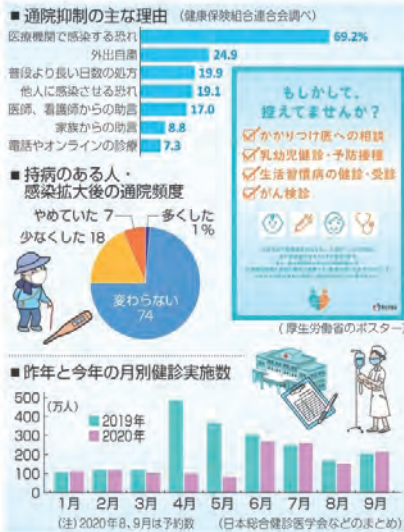
書籍『神戸かいわい 歴史を歩く』

5つ（講演会、祝賀会、鼎談、書籍出版、記念誌発行）のうち講演会と祝賀会が中止、鼎談が個別インタビューに変更となりました。

しかし、そのような中でも、当協会機関誌『あすの健康』に25年間にわたり田辺真人氏に連載いただいた「歴史を歩く」の100話を1冊にまとめた書籍

を3月末に出版することができました。『神戸かいわい 歴史を歩く』（田辺真人著：神戸新聞総合出版センター）というタイトルで出来上がった書籍は、神戸市内の図書館や小・中・高等学校、特別支援学校の図書室約350カ所に寄贈させていただきました。

受診控えによる健康リスク



新 ひょうごの医療

コロナ禍を生きる

通院抑制で持病悪化1割 内視鏡検査減、がん発見遅れ懸念



個人防護具姿で内視鏡検査を行う医師ら。検査をしなければ、がんの発見が遅れる恐れがある＝6月、神戸市中央区植町6、田中内科クリニック



ご意見、ご感想をお寄せください
神戸新聞社報道部医療・科学チーム
「新・ひょうごの医療」係 千650-8571（住所不要）
☎078-362-7040、FAX078-360-0629、
メールアドレス iryou@kobe-np.co.jp

感染対策徹底し賢く共存を

石原享介会長に聞く
新型コロナウイルス感染症の感染予防について語る
兵庫県予防医学協会 石原享介会長
「これまで未知だった部分が恐怖を増大させてきたが、第1波の経験が



生後、抗ウイルス薬の使用、ステロイドの投与などによる、重症化や死者の割合は減ってきている。重症化や死者がほとんどいなくなり、若年層にも及ぶような事態になれば、感染対策がないうちの予想死数を回った。以前は未知のウイルスだったのに、緊急事態宣言がある程度やむを得なかったが、経済活動を止めることによる被害は大きく、一義的に行政が準備できなかった。行政、社会責任もあるが、一義的には個人や組織が感染対策を十分にすべき。社会経済を止めずに感染対策を徹底し、賢く共存を図る必要がある。

■ 健診休止3割弱
コロナ禍の影響は、定期健診の機会も減らしている。日本総合健診医学会（東京）によれば、全国1000機関から回収された調査で、緊急事態宣言後に約4割が健診を完全に中止し、一部休止させたが全体の85%に達した。この影響で、4、5月の健診実施数は、いずれも前年同月の割合まで急減。10月の健診実施率は、約1400万人で、前年同期の

■ 生死分ける要の検査
急激な感染や健診抑制で健康リスクを減らすと、予防策を徹底する。内視鏡検査も実施する兵庫県予防医学協会・健診センター（神戸市中央区）では、施設入り口で体温を測り、症状がないことを示す「入館検診票」を配布している。検査室には、換気扇や空気清浄機を設置。検査機器をシートで覆い、ベッドにも対象者以外にスタッフが入室をさせず、スタッフが個人防護着を着て対応している。一方、西宮市の内科・消化器内科「ますふクリニック」では、内視鏡検査への不安などに応えるため、無料通信アプリLINE Eライン）で相談窓口を設けた。

各自治体 胃、大腸など5種類のがん検診推進

がん検診は、厚生労働省の指針で、推進する5種類のがんと対象年齢などが示されている。それぞれ1～2年に1回の受診で、胃がん＝50歳以上▽肺がん、乳がん、大腸がん＝40歳以上となっている。国立がん研究センター（東京）は、がん検診についてホームページで解説。症状がない人が検診を受けることで「がんを早期発見し、適切な治療で死者を減らすことにつながる」としている。検診は自治体から委託された医療機関などで受けられ、対象となる年齢や時期、費用などは自治体によって異なる。例えば、神戸市では各種検診が2千円以内で受けられる制度がある。

前島賞制定のエピソード

当協会の創設者のひとり前島健治先生は、80歳まで当協会の常勤役員を続けられ、その後もいくつかの事業所の産業医や、出張健診の協力医師として執務されました。先生は「現役を退いた80歳以降に得た報酬は天恵であり個人のものではない」というお考えから、それらには一切手を付けずに置いておかれたそうです。

ある日、前島先生はそのお金を当協会に寄付したいと青井立夫会長（当時）に相談しました。

医学研究に真摯に取り組み、職員の調査研究を熱心に指導してこられた前島先生に対し、青井会長は「その寄付を基金にして、内外を問わず優れた研究業績に対して与える賞を制定し、前島賞と名付けたい」と即答されたそうです。

賞を制定することにはすぐに賛成された前島

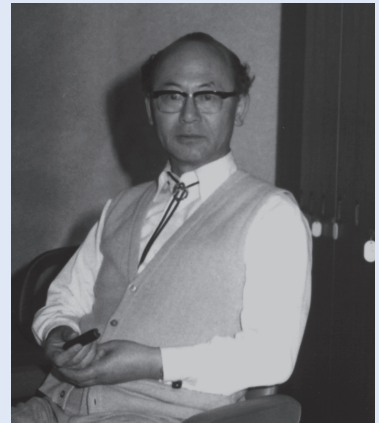
先生でしたが、ご自分の名前を冠することは強固に辞退されました。しかし、最後には何とか承知していただきました。

こうして、2005（平成17）

年12月前島先生

からの寄付金（1千万円）を基金に、「県民の保健向上にかかわる職域において、職務に精励し、学術研究に意欲顕著なるものを顕彰する」を目的に前島賞が制定されました。

前島先生は2010年9月に亡くなりました。



前島健治先生

これまでの前島賞受賞者

年度	所属	氏名	授賞理由
2006	兵庫県予防医学協会	山浦 泰子	2001～2005年学会発表実績（9題）
2006	兵庫県予防医学協会	朴 貴志	2001～2004年学会発表実績（7題）
2014	兵庫県予防医学協会	田中美津江	血管迷走神経反応（VVR）を未然に防ぐための取り組み －若年者の採決に対する看護の実際－（2009年度発表）
2014	兵庫県予防医学協会	藏原ふみ子	当協会における血管迷走神経反応（VVR）の発生状況 －記録データから見た誘因因子の分析－（2010年度発表）
2014	兵庫県予防医学協会	橋本さおり	健診における潜在性甲状腺機能低下症に関する研究（2012年度発表）
2014	兵庫県予防医学協会	伊加加奈子	健診における甲状腺超音波検査の有用性について（2011年度発表）
2016	兵庫県予防医学協会	池窪 勝治	健診における甲状腺結節の早期診断とメディカルマネージメント －超音波検査を中心に－

回 想



解体途中の旧御影役場



細胞診センターと
仮事務所



新館披露式





昔は休業日の銭湯を会場に、市民健診を行っていたらしい。



予防医学事業推進全国大会での懐かしい人たち

健康ライフプラザのひとコマ



トレーニングジムの上にあるランニングトラックで運動指導



ライフキッチンでの料理教室



やすらぎとくつろぎのセミナー

集合写真あれこれ

昭和56年度



平成3年度



昭和46年度



平成30年度



▲御影事務所棟(2号館)と保健環境検査センター(3号館)の敷地内にあった桜の木。毎年きれいに咲いていた。建物解体前、最後の春には近隣の住民の方々とお花見をして別れを惜しんだ。奥には集団健診センター(1号館)が見える。

X線車今昔





胸部X線車今昔

事務局課長
富永 恒雄



今年も、瀬神戸生協から胸部X線車を寄贈していただくこととなり、大変有難く思います。私には、協会でのX線車にまつわる色々な思い出がありますので、ご披露したいと思います。

それは協会が健診事業を開始した頃の話です。

昭和47年に神戸市から、耐用年数もすぎた中古の胸部X線車をもって、健診事業を始めたのですが、この車が大変なおんぼろ車で、住民健診の途中でX線装置が故障して、あわててメーカーをよんで修理している間、受診者に待ってもらったという泣くにも泣けないような事もありました。

又、あるときは、三木方面に健診に行くのに、西神戸有料道路の峠を登る際、オーバーヒートをするので、一升ビン二本に水をつめて、峠で一服し、その水をラジエーターに入れて走ったことが一週間位続いたこともあります。

東灘区の事業所から、じん肺の出張検診の依頼があり、X線車内で直接撮影は出来るものの、カセットのフィルムを入替えるために、乗用車で協会まで帰り、又事業所へとって返し、漸く

の思いで仕事をすませたこともありました。

或るときは、道路の真中で胸部X線車が故障して、乗っている者全員で道路の端まで後押しをして、修理をしたこともありました。

昭和48年10月に瀬神戸生協から、新しい胸部X線車をいただくまでは、仕事を開拓することよりも、胸部X線車が、きげんよく、動いてくれるかどうかの心配とのたたかひの日々でした。

この度、瀬神戸生協から頂くことになった胸部X線車が完成すれば、協会のX線車は、胃部100% X線車が2両、胸部間接(100%)専用X線車が1両、胸部間接(70%)専用X線車が1両、胸部直接・間接(100%)併用X線車が1両、胸部直、間接・胸、腰椎併用X線車が2両になり、合計7両が勢揃いしたところは、なかなかの壮観でしょう。

お蔭様で学校関係及び事業所等の需要にも十分に答えることができるようになったことは、昔を知る私にとっては、本当に夢のような思いがいたします。

▲機関誌『あすの健康』第6号 昭和60年3月31日発行より

变 迁

歴代会長



初代
(1971年4月～1991年5月)
渡邊 一 九



二代目
(1991年5月～2007年5月)
青 井 立 夫



三代目
(2007年5月～2010年8月)
近 藤 武 久



四代目
(2010年8月～2013年3月)
松 村 陽 右



五代目
(2013年4月～2017年6月)
南 部 征 喜



六代目
(2017年6月～2021年6月)
石 原 享 介



七代目
(2021年6月～現在)
深 谷 隆

歴代会長・常務理事

任 期	1971.4月～1973.5月		1973.5月～1975.5月		1975.5月～1977.5月	
会 長	渡邊 一九		渡邊 一九		渡邊 一九	
副 会 長			志賀 一清		志賀 一清	
常務理事	石垣 四郎		石垣 四郎		石垣 四郎	
	青井 立夫		青井 立夫		青井 立夫	
	鹿野 昭二		鹿野 昭二		鹿野 昭二	
	志賀 一清			田中 隆男	田中 隆男	
	前島 健治					伊達 和男

任 期	1977.5月～1979.5月		1979.5月～1981.5月		1981.5月～1983.5月	
会 長	渡邊 一九		渡邊 一九		渡邊 一九	
副 会 長	志賀 一清		志賀 一清		中村 温	
常務理事	石垣 四郎		石垣 四郎		石垣 四郎	
	青井 立夫		青井 立夫		青井 立夫	
	鹿野 昭二	岸戸 隆義	岸戸 隆義		田中 隆男	
	田中 隆男		田中 隆男		伊達 和男	
	伊達 和男		伊達 和男		岸戸 隆義	大浪 渡

任 期	1983.5月～1985.5月		1985.5月～1987.5月		1987.5月～1989.5月	
会 長	渡邊 一九		渡邊 一九		渡邊 一九	
副 会 長	中村 温	吉栖 正之	吉栖 正之	吉川 正	吉川 正	
				石垣 四郎	石垣 四郎	
常務理事	石垣 四郎		石垣 四郎		青井 立夫	
	青井 立夫		青井 立夫		大浪 渡	
	田中 隆男		田中 隆男		田中 隆男	軽部 泰則
	伊達 和男		伊達 和男		伊達 和男	
	大浪 渡		大浪 渡		小林 治一郎	

変遷

任 期	1989.5.1～1991.5.29		1991.5.30～1993.5.29		1993.5.30～1995.5.29	
会 長	渡邊 一九		青井 立夫		青井 立夫	
副 会 長	吉川 正	宮本 包厚	柴谷 昭治		柴谷 昭治	
	石垣 四郎	青井 立夫	宮本 包厚		宮本 包厚	
常務理事	青井 立夫	柴谷 昭治	中村 温		中村 温	
	前元 成文	前島 健治	前島 健治		前島 健治	
	軽部 泰則		森脇 潤		森脇 潤	
		中村 温				

任 期	1995.5.30～1997.5.29		1997.5.30～1999.5.29		1999.5.30～2001.5.29	
会 長	青井 立夫		青井 立夫		青井 立夫	
副 会 長	前島 健治		前島 健治		前島 健治	
	坪井 修平		阿久津成一郎		阿久津成一郎	森脇 潤
		阿久津成一郎	坪井 修平		坪井 修平	
常務理事	中村 温		中村 温		中村 温	
	森脇 潤		森脇 潤	宮本 包厚	雨宮 武彦	津川 亨
	雨宮 武彦		雨宮 武彦		片岡 治	
	阿久津成一郎		片岡 治		宮本 包厚	

任 期	2001.5.30～2003.5.29		2003.5.30～2005.5.29		2005.5.30～2007.5.29	
会 長	青井 立夫		青井 立夫		青井 立夫	
副 会 長	片岡 治		片岡 治		片岡 治	
	森脇 潤		野喜 正夫		野喜 正夫	
		中村 三郎	中村 三郎		中村 三郎	
常務理事	中村 温		高島 英世	石井 昌生	石井 昌生	
	野喜 正夫		中作 清臣	近藤 武久	近藤 武久	
	宮本 包厚			森 哲夫	松村 陽右	
	中作 清臣				森 哲夫	
						池窪 勝治

任 期	2007.5.30~2009.5.29		2009.5.30~2011.6.23		2011.6.24~2013.3.31	
会 長	近藤 武久		近藤 武久	松村 陽右	松村 陽右	南部 征喜
副 会 長	松村 陽右		松村 陽右		南部 征喜	
	桜井 誠一		桜井 誠一	雪村 新之助	西田 芳矢	
		西田 芳矢	西田 芳矢		雪村 新之助	
常務理事	石井 昌生		石井 昌生		馬場 國藏	
	池窪 勝治		池窪 勝治		池窪 勝治	
	馬場 國藏		馬場 國藏		米澤 俊雄	
	森 哲夫	永沢 章好	永沢 章好		泉 佳延	
	石田 輝子		石田 輝子			

任 期	2013.4.1~2015.6.19		2015.6.19~2017.6.23		2017.6.23~2019.6.21	
会 長	南部 征喜		南部 征喜		石原 享介	
副 会 長	西田 芳矢		西田 芳矢		西田 芳矢	
	槇村 博之		槇村 博之		岡田 泰長	白 鴻泰
常務理事	西尾 利一		岡 秀次		田上 勝清	
	安田 敏成		安田 敏成		深谷 隆	
	米澤 俊雄	岡 秀次			安田 敏成	

任 期	2019.6.21~2021.6.23		2021.6.23~			
会 長	石原 享介		深谷 隆			
副 会 長	西田 芳矢		平田 結喜緒			
	白 鴻泰		白 鴻泰			
常務理事	田上 勝清		田上 勝清			
	深谷 隆		安田 敏成			
	安田 敏成					

建物移り変わり

1970 1971 1972 1973 1974 1975 1976 1977 1978 1979 1980 1981 1982 1983 1984 1985 1986 1987 1988 1989 1990 1991 1992
 昭和45年 昭和46年 昭和47年 昭和48年 昭和49年 昭和50年 昭和51年 昭和52年 昭和53年 昭和54年 昭和55年 昭和56年 昭和57年 昭和58年 昭和59年 昭和60年 昭和61年 昭和62年 昭和63年 平成1年 平成2年 平成3年 平成4年



◀1972年～ 健診事業が本格的に始まった旧御影町役場。東灘区役所発祥の地でもある。(神戸市東灘区)



◀1979年～ 最新の医療機器を整備し、人間ドックを開始した。(神戸市東灘区)

本 部



▲1971年～ 神戸市衛生研究所内に場所を借りて、児童・生徒の寄生虫卵検査から事業が開始した。(神戸市生田区)

保健環境検査センター



▲1978年～ 新館建設のための葺合保育所跡地の仮事務所。(神戸市葺合区)



▲1987年～ 旧神戸市土木局東部事務所東灘分室庁舎。震災で全壊となった。(神戸市東灘区)



▲1993年～ 集団健診センターから徒歩2分の場所に、医局、事務部門が独立。(神戸市東灘区)

▶1995年～ 中央区役所内に健康ライフプラザ準備室を開設。(神戸市中央区)



1990年～ 健康ライフプラザの整備をはかる目的で、健康開発部を開設し分室を設置。当時分室のあったビルは震災で被災し、今は残っていない。(神戸市中央区)

1993 1994 1995 1996 1997 1998 1999 2000 2001 2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2022
 平成5年 平成6年 平成7年 平成8年 平成9年 平成10年 平成11年 平成12年 平成13年 平成14年 平成15年 平成16年 平成17年 平成18年 平成19年 平成20年 平成21年 平成22年 平成23年 平成24年 平成25年 平成26年 令和4年



▶2014年～
現在の健診センター。
(神戸市灘区)



▲1995年～ 全壊から10カ月後、事務所棟南向いに場所を移転した。(神戸市東灘区)

事務所棟



▲2014年～ 集団健診センターを改修し、御影健診センターとした。(神戸市東灘区)

灘分室



▲2006年～ 住民健診の業務量増大に対応するため、灘区民ホール3階に灘分室を開設。(神戸市灘区)

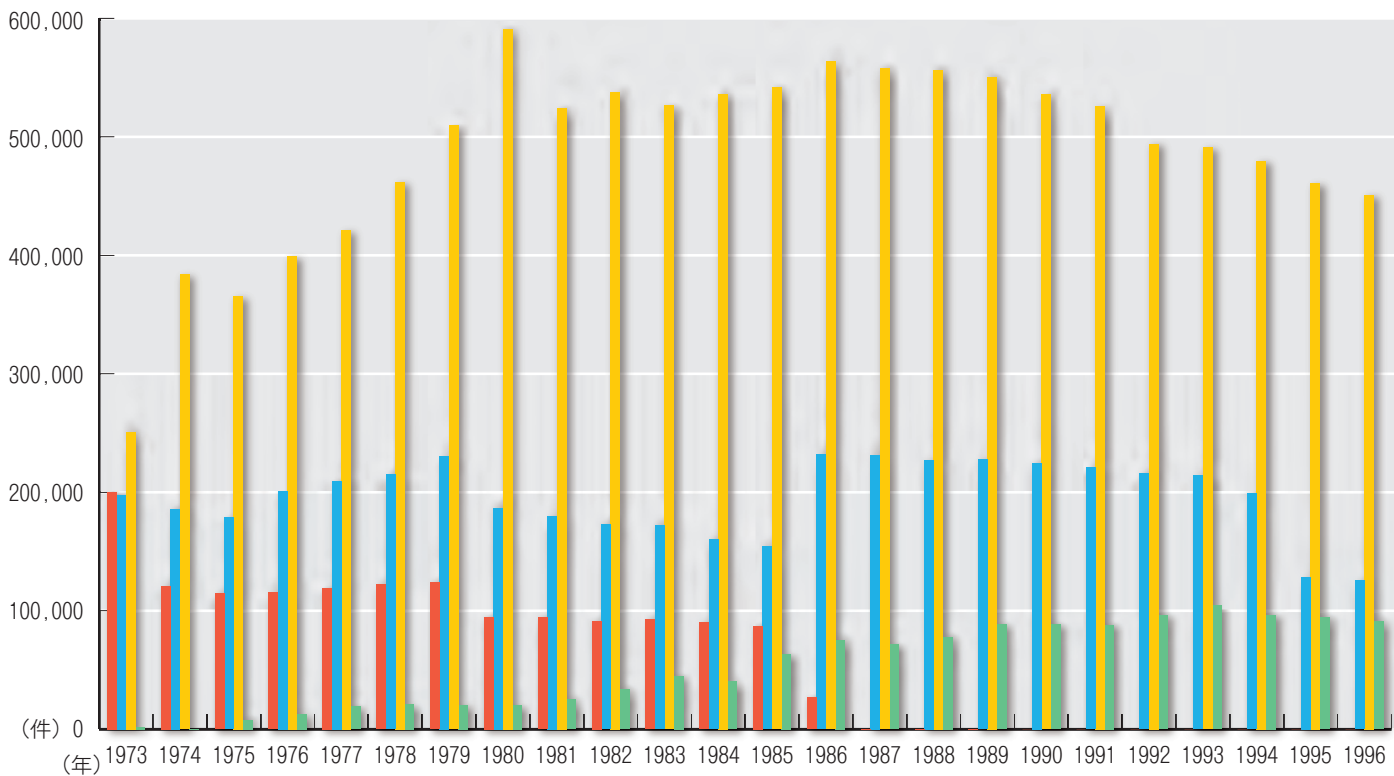
健康ライフプラザ

▶1998年～ 神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ。健診の他、健康づくり教室や講演会なども企画・実施していた。(神戸市兵庫区)

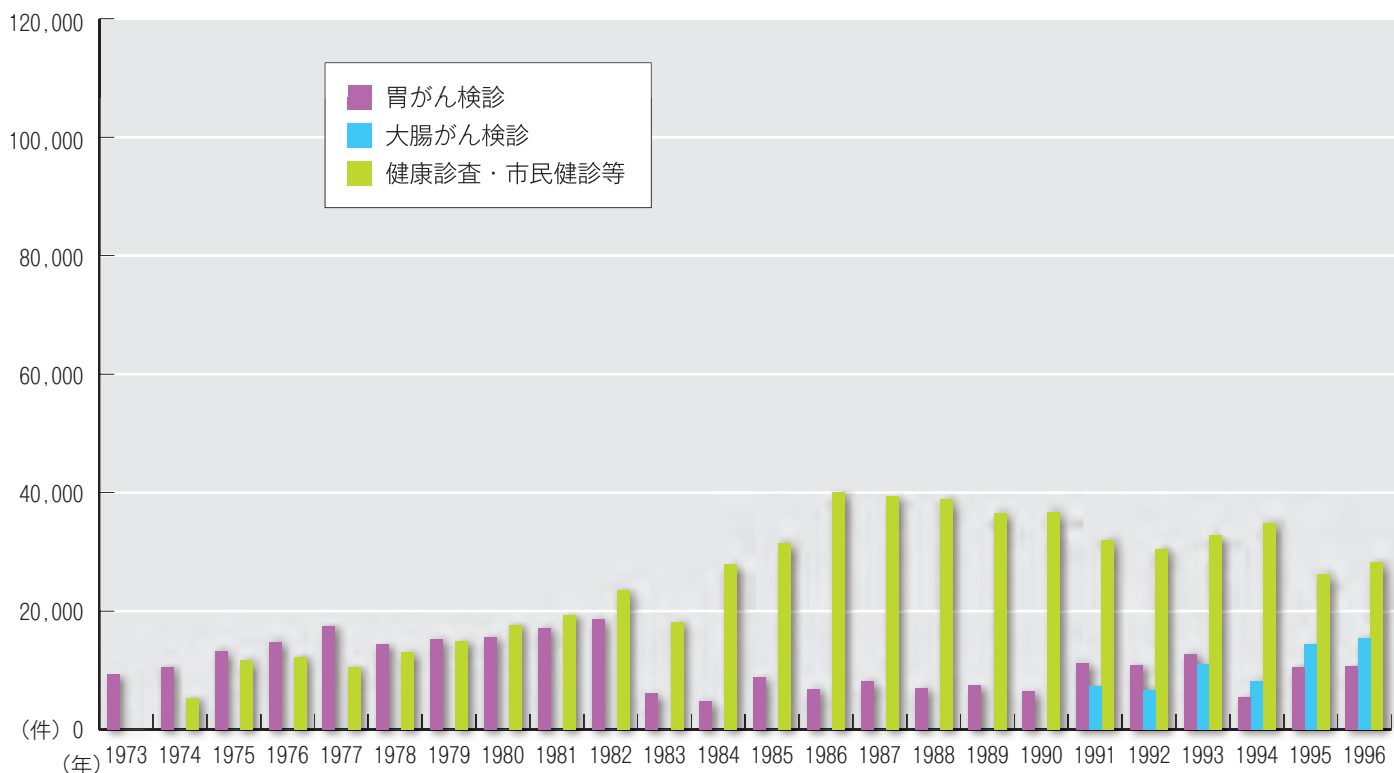


事業実績の推移

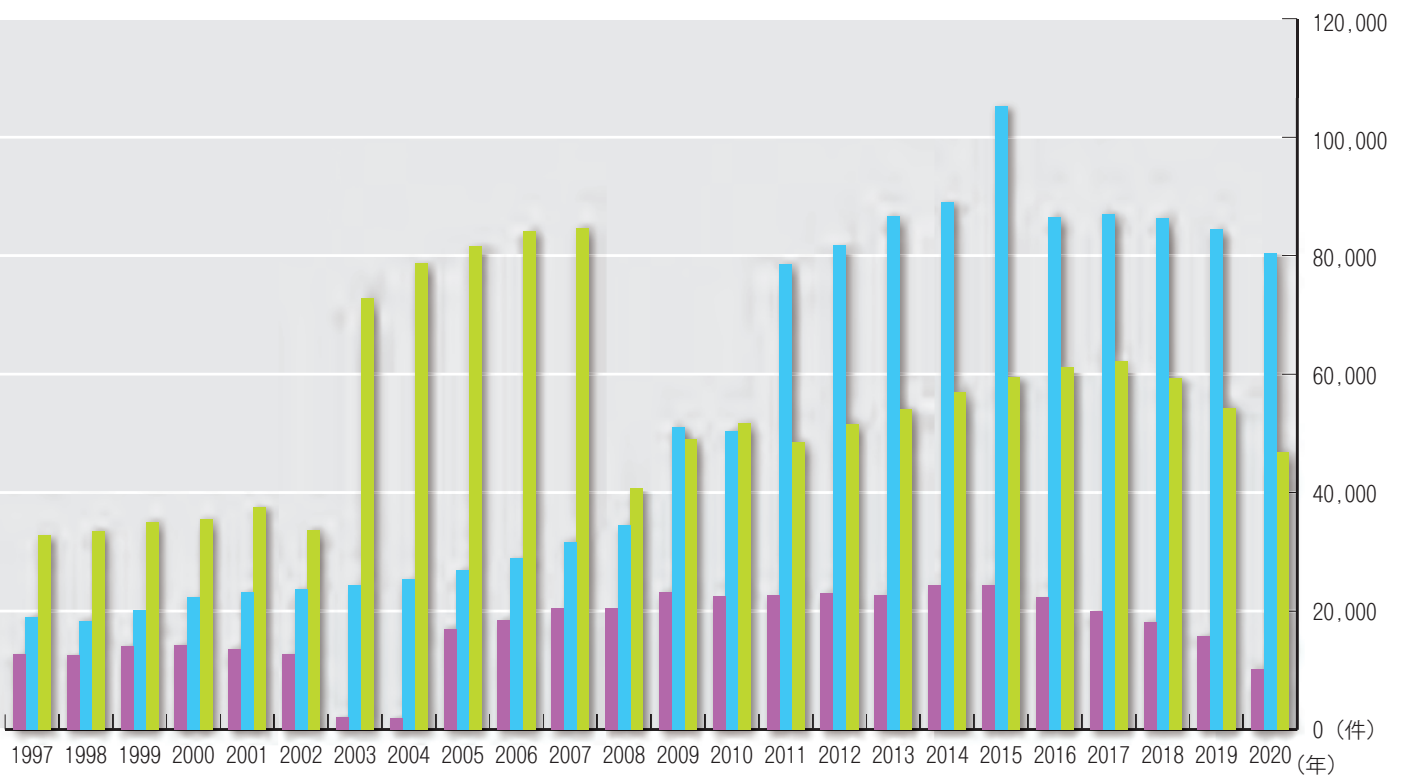
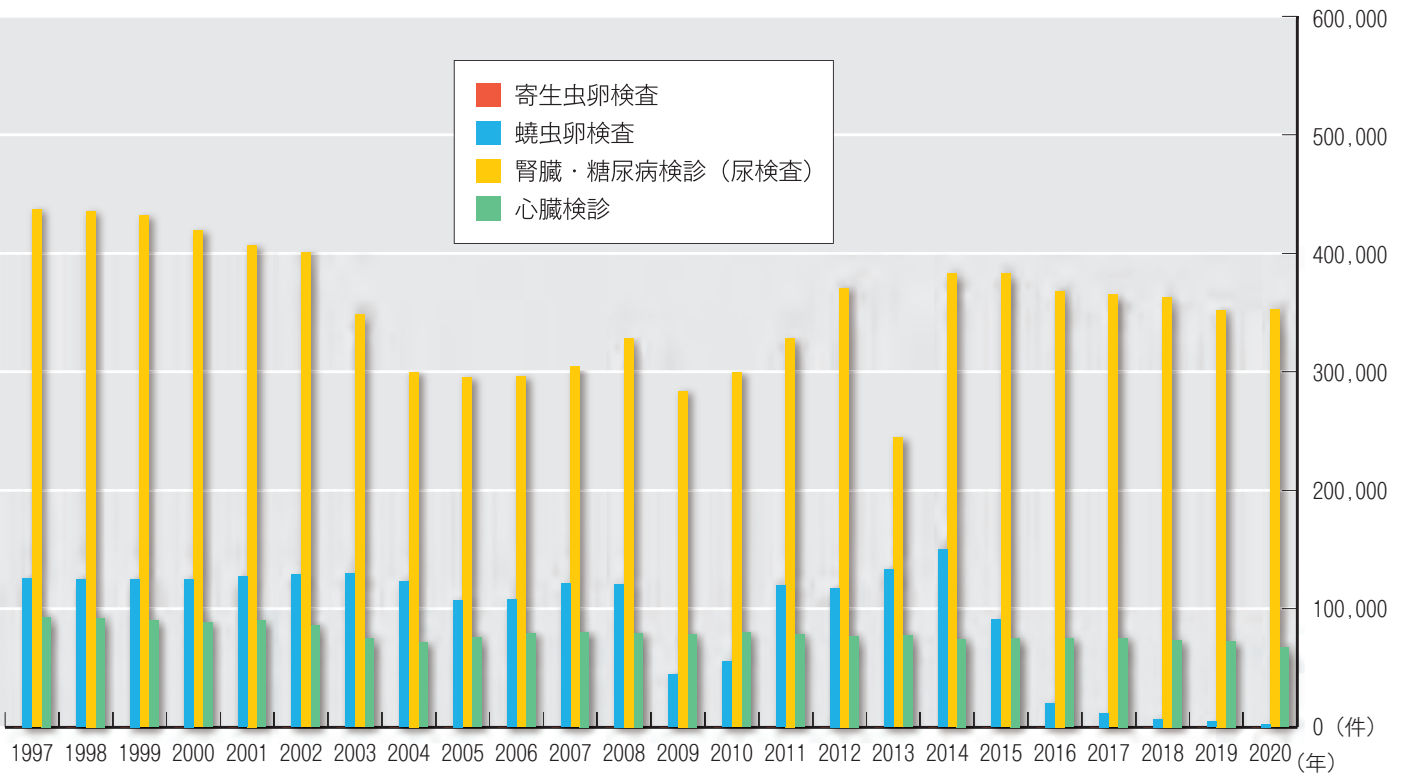
学校保健



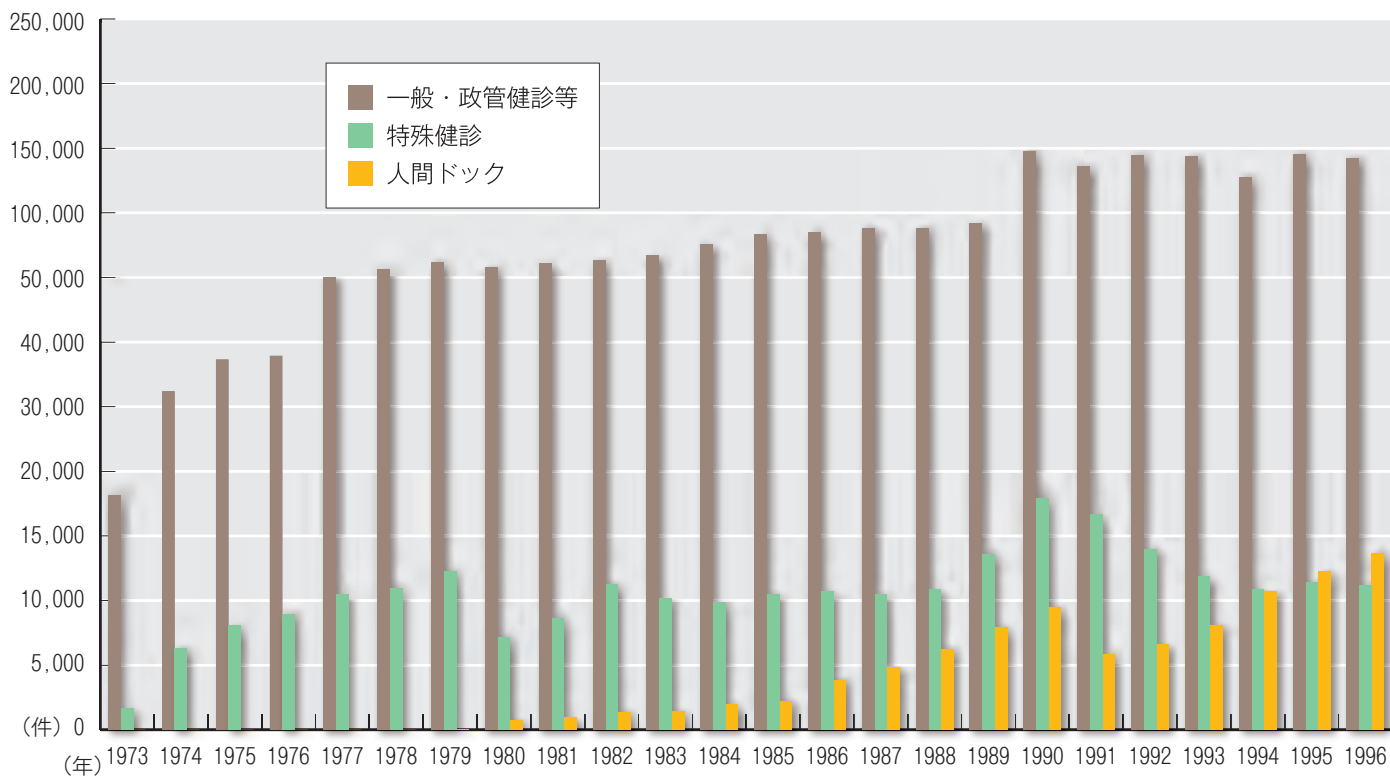
地域保健



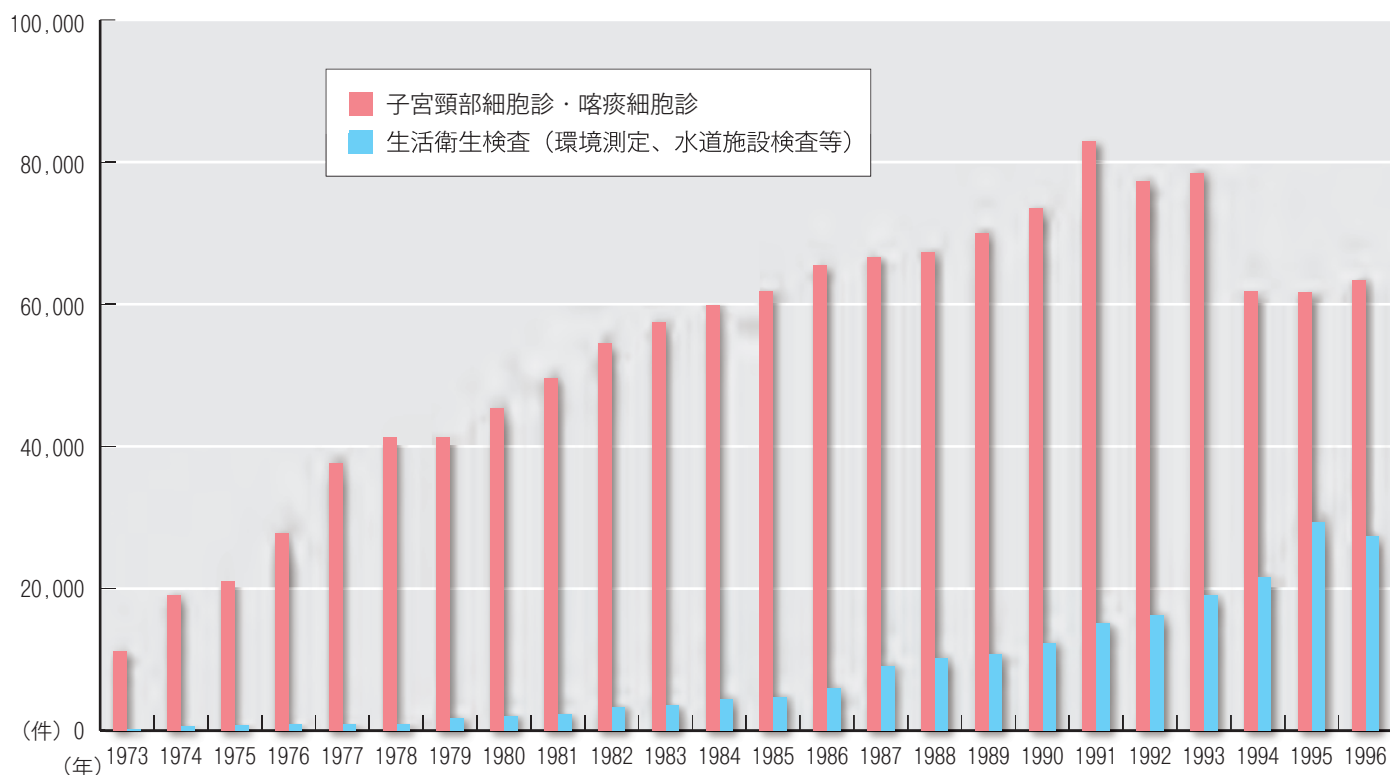
※主な事業のみ掲載

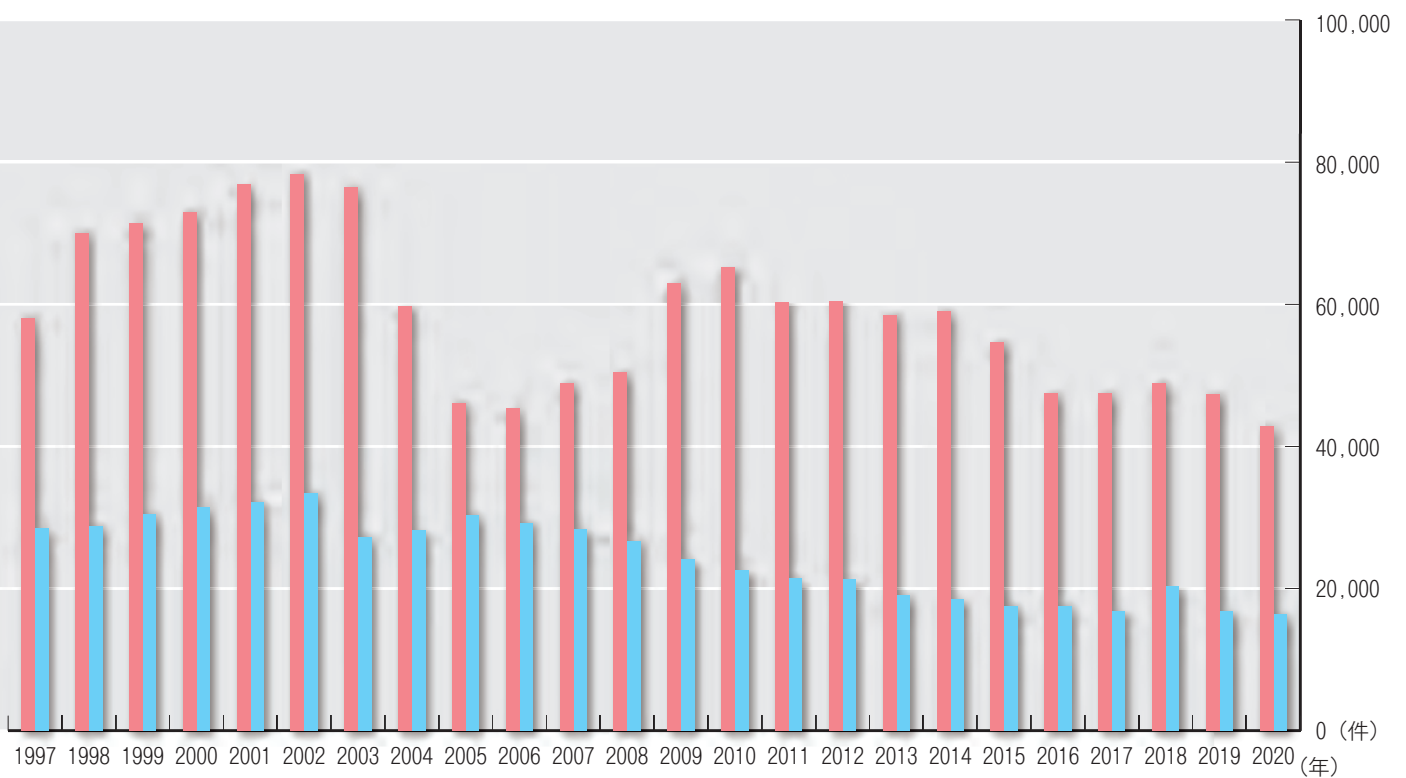
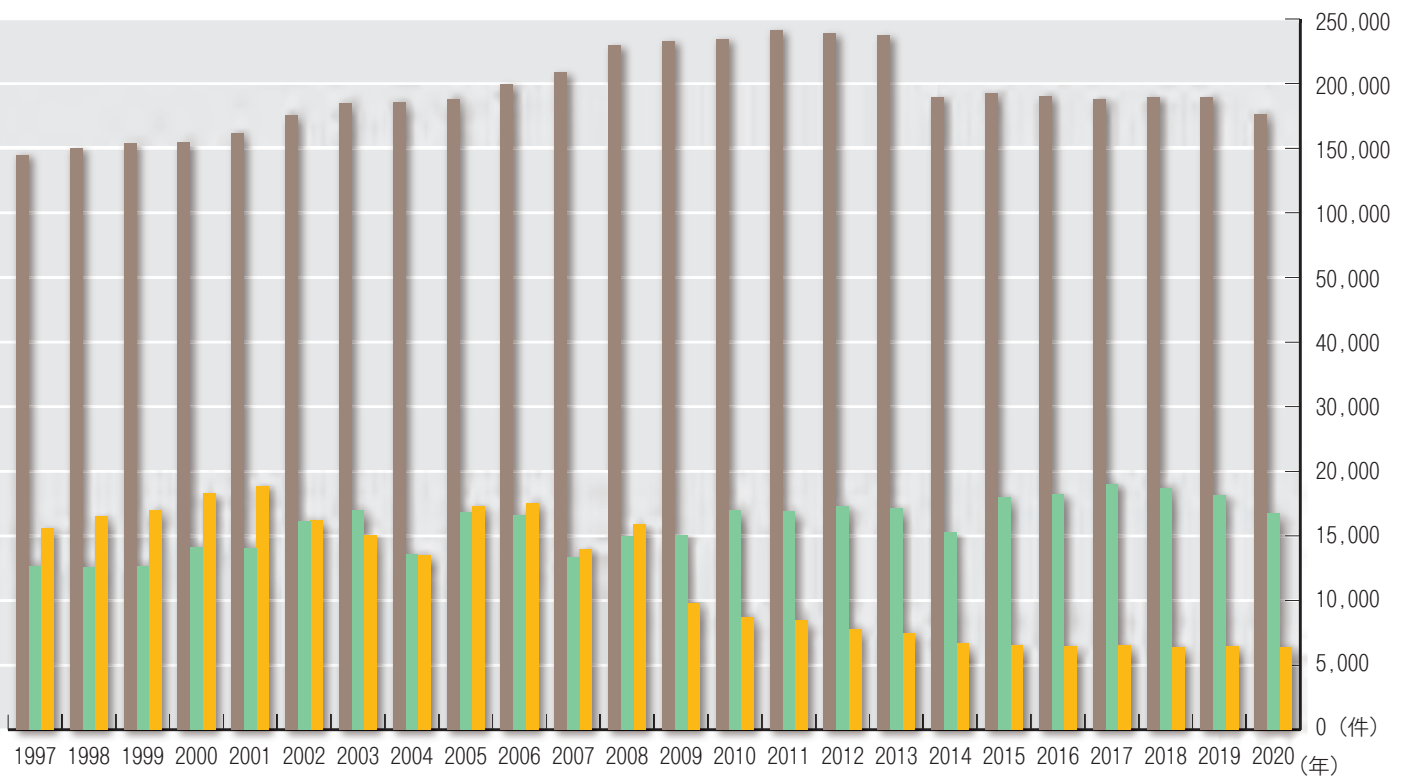


産業保健等



検査





コラム 兵庫県予防医学協会の謎 4

御影健診センターにある碑は何？

「医は愛なり」

この言葉は、協会創立から20年にわたり会長を務められた渡邊一九先生の座右の銘でした。

1995（平成7）年、渡邊先生が亡くなられた後、遺言により先生が揮毫されていた言葉をご遺族が記念碑として、渡邊外科病院（神戸市灘区）の内庭に建てられました。

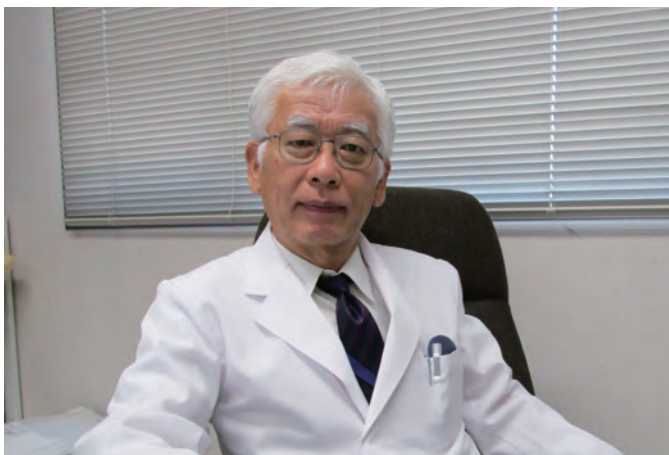
渡邊外科病院の閉院にあたり、ご遺族が当協

会への移築を希望され、2010年12月に集団健診センター（現御影健診センター）南に設置しました。

この碑から少し西の当協会と浜御影保育所との間には、「東灘区役所発祥の地（旧御影町役場跡）」のプレートと旧御影町役場で使用していた大理石のカウンターを用いたと言われている「旧御影町役場跡」の碑も設置されています。



飛躍



予防医学について

副会長・
健康ライフプラザ健診センター長

平 田 結喜緒

2020年以降は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による未曾有のパンデミックが全世界を襲い、国内でも感染拡大による医療体制がひっ迫し社会的不安をもたらしました。当協会も健診事業を一時的に休業や縮小を余儀なくされましたが、今後はCOVID-19と共存して感染症対策を維持しながら社会活動を営むという新しい局面を迎えました。兵庫県予防医学協会は2021年4月設立50周年という記念すべき年を迎えました。これを機会に当協会の基本理念である「健康保持・増進のために予防医学を実践して社会に貢献する」ことの意味を改めて見直してみたいと思います。

フランスの有名な細菌学者ルイ・パスツールの格言で「予防に勝る治療なし」（“Prevention is better than cure”）があります。そこで予防医学ならびに健診・検診の意義について厚労省2015年厚生科学審議会（健康診査等専門委員会）を参考に述べてみたいと思います。当協会が標榜する「予防医学」とは病気の予防や健康の維持増進を図ることを目的とする医学であり、それを実践する医療といえます。予防医学には病変が出現する前段階で食事・栄養・運動指導など行動変容により発症リスクを軽減させる一次予防、病変が出現し始めた段階で健診、検診、人間ドックなどで早期発見・早期介入して病気の進行を抑制する二次

予防、そして病気が発生した段階で病気の進行や再発を抑制する三次予防の三つのステップに分かれますが、当協会が主に関与するのは一次予防と二次予防です。

ここで「健診」と「検診」の違いについて考えてみましょう。健診（健康診断あるいは健康診査）は主に将来の病気のリスクを確認する検査です。健診は必ずしも病気自体を確認するものではありませんが、健康づくりの観点から経時的に測定値を把握して将来の病気のリスクを確認し、リスクに応じた指導によりリスクの低下を目指します。特定健診・特定保健指導がこれにあたります。2008年から開始された特定健診はメタボリック症候群とその予備軍を早期に見つけて適切な介入（保健指導・治療）により生活習慣病・心血管病の発症予防を目的とします。

一方検診は主に現在の病気自体を確認する検査で、がん検診が典型です。特定のがんの存否を確認し、陽性なら精密検査で存在が確定されれば治療を、陰性なら次の検診まで経過観察を行います。現在わが国で実施されている対策型がん検診（胃、大腸、肺、乳房、子宮頸部）は早期発見・早期治療を行うことによりがんの死亡率の減少効果を目的としたものです。健診と検診いずれも共通して個人の健康維持と集団全体の公衆衛生の向上を図ることを目的としています。したがってそ

の目的の達成度を評価する必要があります。

健診・検診における個々の検査法の有効性やスクリーニングの評価には主に感度・特異度といった指標による精度評価を行います。検診での検査の感度は病気のある人（真陽性）をいかに良く拾い上げるかを、また特異度は病気のない人（真陰性）をいかに良く識別できるかを見ます。感度が高い検査では陰性であればその病気を除外できますが、逆に病気でないのに陽性（偽陽性）が増えてしまい不必要な精密検査をしてしまう危険があります。一方特異度が高い検査では陽性であれば本当の病気がある可能性が高いですが、逆に病気があるのに陰性（偽陰性）が増えてしまい病気を見逃してしまう危険があります。感度と特異度はトレードオフの関係にあり、両者のバランスが取れた検査法が用いられます。

システム全体の評価については特定健診であれば検査結果に応じたリスクの階層化と受診勧奨・治療、生活習慣の保健指導など事後措置を講じた結果、生活習慣病・心血管疾患発症や重症化の予防効果が得られているかのアウトカム評価が必要です。一方がん検診であれば検査で陽性と判定された人が精密検査を受け、がんと診断された場合は治療を受けて治癒したかのアウトカム評価です。がん検診の目的であるがんによる死亡率減少効果というアウトカムが得られているかは事後措置を含めたシステム評価が重要となります。このようなシステム全体を通じて目的の達成度の有効性、安全性、効率性などを評価できる科学的エビ

デンスが重要となります。

予防医学では健康の維持増進を目的に元来健康な人を対象とするため健診・検診で実施する検査・介入は利益（効果）が不利益（害、費用）を上回るという科学的エビデンスが必要です。予防医学では科学的エビデンスに基づいて五つの推奨レベルが提唱されています。その強さによりAとBは利益が不利益を上回ることから推奨され、Cは両者がほぼ同じか極めて小さいために個別に判断し、DとIはその強さにより不利益が利益を上回ることから推奨されません。現在わが国で実施されている五つの対策型がん検診は科学的エビデンスに基づいていずれもA、Bの推奨レベルです。がん検診には他にもいくつかの検査法がありますが、対策型がん検診には利益（死亡率減少効果）が不利益（費用も含めて）を上回るという科学的エビデンスが必要条件となります。

兵庫県予防医学協会が誕生して50年を迎えました。孔子は論語で人間の年齢に合った人の生き方を示していますが、50歳では「五十にして天命を知る」と論じています。すなわち50歳には天から与えられた自分の運命を理解し、それを受け入れることができるように意識して生きていきましようとして解釈されます。50周年を迎えた当協会働く全職員の皆さんは今後もそれぞれの職場で自分に与えられた職務を天職ととらえて、誇りと情熱をもって遂行することこそ、予防医学を通して兵庫県民の皆さんの健康保持・増進に貢献しているのだという自負を持っていただければ幸いです。



創立50周年 —これまでとこれから—

常務理事・健診センター長・
保健環境センター長

安田 敏成

令和3年（2021）4月当協会は、創立50周年を迎えました。本来ならば、今日までご支援ご協力賜りました皆様と役職員が一堂に会してこれまでを振り返り思い出を共有したいところでしたが、新型コロナウイルス感染症パンデミックによりかなわぬこととなりました。

そこで、これからの方々の記憶に残していただくために設立発起人の一人である青井立夫先生（2代目会長）から直接伺ったお話をご紹介します。

今でこそ大学、医師会その他多くの医師の協力で事業が成り立っていますが、設立当時は健診出務医師の確保が今以上に極めて困難であったそうです。そんな時に、県主催の会議で青井先生と私の恩師で創立されたばかりの兵庫医科大学第4内科下山孝教授が出会い意気投合、その結果教授以下医局を挙げて協力することになり事業拡大につながったそうです（その分大学病院では、主治医不在のことが多く不評だったようですが）。

私が当協会に入職した昭和63年（1988）当時は、現在では到底考えられませんが下山教授自らが週3日午前中、胃X線検査撮影をしたうえで受診者への説明もし、必要に応じて大学病院の自身に宛てた紹介状を作成していました。胃・大腸内視鏡検査（注腸検査含む）も助教授、講師等が出務し研修医を含む若手医師は検診車で出張健診に

も出務していました。

そのため一時期大学の病棟患者の多くが当協会からの紹介患者であったように記憶しています。お陰で私も当協会に勤務しながら内視鏡検査や読影の指導を受けることができましたが、今思えば注腸検査を温水洗浄器が設置されていないトイレしかない施設で実施していたことは受診者に大変申し訳なかったと反省しています。それ故、灘健診センター建設では快適なトイレにこだわったつもりです。

そんなおらかな昭和の時代から平成バブル経済期を経て、震災、不況と息つく暇なく令和となり現在は新型コロナウイルス感染症パンデミックの収束が見通せず大変厳しい状況が続いています。しかし我々はこの禍の中でも前を向き、先人たちが築き上げた誇るべき歴史を胸に必ず新たな知見を見出し、新健診基幹システムの導入や全役職員の努力や工夫により新しい時代にふさわしい健診機関となるべく精進を重ねていく所存でございます。

最後になりましたが皆様におかれましても諸事多難な折とは存じますが今後ともご指導ご高配賜りますようお願い申し上げます。



持続可能性

理事・品質管理センター長

浅香 隆久

1990年代ころから、外務省の経済協力に関する公電・公信に「持続可能性」(sustainability)という言葉をよく見かけるようになったという記憶がある。日本のODA(政府開発援助)に箱モノが多く、十分活用されていないという批判が上がっていたころと一致する。確かに初任地のS国で大きな箱モノの病院があり、管理運営の問題もあって有効に利用されておらず、問題になっていた。

10数年後JICA(国際協力事業団)の技術参与として、アフリカU国の地域医療計画策定に関わった。市ヶ谷のJICA研究所で他の長期派遣専門家向け研修に参加し、医療の品質管理としてPDCAサイクル、5S等の話を初めて聞き、それらがT自動車の品質管理(カイゼン)が元になっていると知った。調査団の技術参与として3週間ずつU国に2回滞在し、現地調査した時に持続可能性の問題と品質管理について考えざるを得なくなった。U国の地域医療計画は2期目で、1期目の成果を非公式に評価する役目もあった。1期目の技術参与はJ医科大学救急医学S教授で元々のご専門が麻酔科であったこともあり、機材供与の中でU国が要求している高額な麻酔機材をバツサリとカットしてあった。確かに我々の調査時点で、その機材が存在したとしても有効活用されていなかっただろうと想像された。機材の問題を要

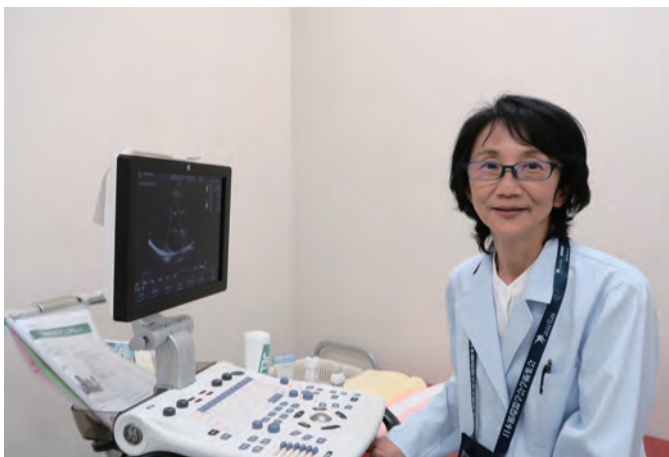
請国側は「資金の問題」と考えている部分が多い。しかし、実際には人材の問題に行き着く。人材を養成するには時間がかかる。今日本の医師は6年間の医学教育(以前に比して専門教育が早くから行われている)と2年間の初期研修、その後専門によって異なるが3年間ほどの専門研修で、ようやく一人前とみなされる。一人の医師を育てるのに最低11年程度の年月が掛かる。箱モノや機材が有効活用されるように医療分野の無償資金協力では、多くの場合技術協力を付け加え、人材育成や技術移転をすることが多かった。

品質管理においても「人」の要素が重要である。例えば、先程書いた5S等は、そのSの一つの「躰」の問題に集約できると思う。親のせいにする訳ではないが、私などは「5S」は全く苦手である。PDCAの中では、計画の立案がまずはしっかりしていないと如何にPDCAサイクルを回そうと効率は悪い。

今、50周年を迎えた兵庫県予防医学協会が次の25年間にどのような未来を描くのか、反語的に言えば描くことができるのか、転換点にあるのではないかと思う。健診分野ではAIを中核とするデジタルトランスフォーメーションが待ち構えている。これからの5年間の変化を取り込んで将来計画を立てられるか、そしてそれを実行する力があるのか。日々の実践活動を行うのは「持続可能

性」や「カイゼン」の考え方と繋がっていなければならぬと改めて思う。

協会の次の25年を考えれば、加速度的に革新されるデジタル技術で健診の形も大きく変化していくことと思われる。持続可能性を考えるなら、将来を見据えながら協会が組織として人材を育て、支えていくことが重要である。



研究者の「目」と「意識」を持つこと

理事・事務局参与（公益事業担当）

山 浦 泰 子

創立50周年に際し、兵庫県予防医学協会・綱領2つめの「常に新しい医学の研究に取り組み、技術の向上を怠らず、正確で迅速な健診検査業務を行うとともに、保健知識の普及に努めます。」について改めて考えてみました。

諸先輩方に倣って、私自身も、健診・検診等の日常業務とともに、医学研究も大事な仕事として取り組んできました。健診・検診の場で、日常業務と医学研究は切り離せるものではなく、高い技術と精度を持つ良い健診・検診のためには、日々の業務を丁寧に懸命に遂行することと共に、研究者としての「目」と「意識」が必要と考えられるからです。

私たちは、健診・検診等について、その方法や判定基準・解釈などは、現時点で確立されている科学的根拠や学会の最新ガイドライン等に基づいて行っています。けれども、これらは、あくまで現時点の根拠・ガイドラインであり、絶対的なものではありません。私たちは、常に「真実は違うかもしれない」と疑う「目」を持ち、「これが最善なのか」と検証する「意識」を持ちながら、日々の仕事に向き合う必要があります。このような、研究者としての「目」と「意識」を持って仕事を行うことは、検者の知識や技術の向上を促し、丁寧に正確な健診に結びつくと考えられます。

実際の研究は、日常業務の中で、上述の「目」と「意識」から生まれた「疑問」や「気づき」がきっかけで始まることが多いと思います。自分の抱いた「疑問」や「気づき」が、研究に発展させるに値するかどうかは、それらについて、客観的な事実から正しい論理に基づいて得られるであろう答えが、今まで誰も報告していない新しいことであり（新規性・独創性）、それが分かることに医学的・臨床的・公衆衛生的な意義があるものである、ということが重要になってきます。そのことを見極めるためには、その分野について、常に勉強し知識を持つとともに、最新の情報も知っている必要があります。

その上で、まずは、先行研究を調べ、自分が抱いた「疑問」や「気づき」について現時点でどこまで解明されているのかを詳しく調査し、自分のやろうとしている研究の、新規性・独創性・意義等について考えることから始まります。仲間とのディスカッションや、外部の専門家に相談したり教を請うことも大事であると思います。協会内の研究倫理委員会でも、研究倫理面のみならず、新規性・独創性・意義等について議論・助言が行われます。そのようなことを積み重ねて、どんなに小さなことでも、研究を組み立て、結果を出し、学会で発表し、論文1本を完成させるには、相当なエネルギーと時間がかかります。けれど

も、完遂した達成感や喜びがあり、兵庫県予防医学協会（Hyogo Health Service Association）の研究結果として広く発信されることは大変意義のあることです。そして、その過程で多くの知識・思考方法・技術などを得ることができます。また、同じテーマに興味を持つ仲間や、教えてくれる先達との結びつきが得られます。さらに、その成果を、これからの仕事や業務に生かして発展させていくこともでき、そこから新たな研究が生まれる可能性もあります。

「常に新しい医学の研究に取り組む」姿勢とその過程が、「技術の向上・正確に迅速な健診検査業務・保健知識の普及」を促進し、さらに新しい研究を生み・・・と良い循環が生まれ、職員個々人も協会全体も、ますます活性化していくことを目指して、これからも皆で頑張っていきましょう。

コラム 兵庫県予防医学協会の謎 5

協会旗が表すものは？

2011（平成23）年、松村陽右会長（当時）の発案で、「協会の象徴として、様々なイベント等において掲示する」ことを目的に協会旗を作成することになりました。

これまでの協会のイメージを継承しつつ新しい発想のデザインを求めて、2012（平成24）年1月に神戸芸術工科大学デザイン学部デザイン制作を依頼しました。

ビジュアルデザイン学科の赤崎正一教授、あかざきしょういち高台泳助教が担当されることに決まり、入念な打ち合わせを行った結果、4つの楕円を花びらに見立て、放射状に配置したデザインに決まりました。

4つの楕円のそれぞれの色は、協会の設立趣旨と理念を反映し、青：健診事業、ピンク：危



機管理、黄：啓発、緑：検査を表現しています。

こうして完成した協会旗は、2013（平成25）年1月18日に生田神社会館（神戸市中央区）で開催した職員交流会にて披露されました。

講演会のあゆみ

講演会のあゆみ

1971（昭和46）年11月（神戸国際会館小ホール）

あすの健康予防医学講演会「ハシカの予防」

映 画 正しい予防接種－：ママの心配：

講 演 「ハシカの予防について」

日本小児科学会兵庫県地方会会長 石垣 四郎

健康体操

大阪音楽大学教授・一の瀬社会体育研究会主宰

一の瀬 安里

講 演 「生命の泉－牛乳」

日本乳業協議会事務局長 前田 恒子

1973（昭和48）年7月（神戸国際会館大ホール）

法人設立記念講演会

「健康を守る婦人大会・食生活と健康」

挨 拶 兵庫県知事 坂井 時忠

神戸市長 宮崎 辰雄

灘神戸生活協同組合組合長 次家 幸徳

兵庫県予防医学協会会長 渡邊 一九

事業説明 「主婦の健康と協会の事業」

集団健診センター長 小林治一郎

講 演 「食生活と健康」

料理研究家 江上 トミ

1976（昭和51）年5月（神戸国際会館小ホール）

第1回予防医学講座 「胃の疾患」

講 演

「胃の疾患」－主として胃がんについて

神戸市立中央市民病院副院長・内科部長

北浦 保智

「胃集団検診について」

前兵庫県がんセンター集検部長 島本 雄一

1976（昭和51）年5月（神戸国際会館大ホール）

創立5周年記念 「健康をめざす婦人大会」

座 談 会 「あすの健康と健診」

司会 兵庫県予防医学協会理事 永谷 晴子

神戸市立中央市民病院産婦人科部長 浅野 定

兵庫県予防医学協会集団健診センター長 伊達 和男

1976（昭和51）年5月（神戸国際会館小ホール）

第2回予防医学講座

「職場における精神衛生」

映 画 「脳卒中～その治療と予防」

講 演 「高血圧について」

神戸市立中央市民病院内科部長 高山 英世

講 演 「職場における精神衛生」

湊川病院院長 久山 照息

1977（昭和52）年6月（神戸国際会館小ホール）

第3回予防医学講座

「最近注目されている職業病」

講 演 「最近注目されている職業病」

兵庫県予防医学協会理事 田中 隆男

講 演 「レントゲン集団検診による早期がんの診断」

神戸大学医学部放射線科教授 植林 和之



1979（昭和54）年6月（兵庫県民会館大ホール）

健康教育講演会

「健康教育の方向転換とその実践活動」

映 画 「健康」

講 演 「健康な家庭をつくるために」

バルモア病院院長 三宅 廉

特別講演

「健康教育の方向転換とその実践」

財団法人ライフプランニングセンター理事長

聖路加看護大学学長 日野原重明



1985（昭和60）年10月

（神戸国際会議場メインホール）

予防医学事業推進全国大会

「暮らしのなかの健康」

主催：予防医学事業中央会・日本寄生虫予防
会・兵庫県予防医学協会

シンポジウム 「学校健診の事後指導」

座長 兵庫県医師会学校保健委員会委員長・
兵庫県予防医学協会常務理事 石垣 四郎

シンポジスト

学校現場から

西宮市立浜脇中学校養護教諭 大西 道子

医師の立場から

神戸市立中央市民病院小児科医長 馬場 國藏

医師の立場から

神戸市医師会学校保健部委員 掘松 喬

保護者の立場から

神戸市北区星和台 井上 洋子

行政の立場から

神戸市教育委員会体育保健課学校保健係長

大勝 俊一

健診機関の立場から

東京都予防医学協会理事・業務部長

山内 邦昭

記念講演 「がんの予防」

座長

兵庫県予防医学協会常務理事 伊達 和男

講師 兵庫医科大学教授 下山 孝

シンポジウム 「主婦と健康」

座長 予防医学事業中央会理事長 須川 豊

シンポジスト

食生活と疾病

神戸大学医学部教授・同附属病院院長
馬場 茂明

主婦健診の現場から

兵庫県予防医学協会婦人保健部長 軽部 泰則

主婦健診から家族健康管理へ

灘神戸生活協同組合理事 湯浅 夏子

主婦健康教育から家族健康管理へ

神戸市婦人団体協議会専務理事 妹尾美智子

主婦の家族健康管理の方法について

関西医科大学名誉教授 東田 敏夫

特別講演 「忘れえぬ人々」

NHKチーフアナウンサー 福島 幸雄

予防医学事業推進神戸大会、予防医学フォーラム

1985（昭和60）年の予防医学事業推進全国大会を記念し、当協会独自公益事業として予防医学事業推進神戸大会を開始した。

1986（昭和61）年11月（神戸勤労会館大ホール）

第1回予防医学事業推進神戸大会

「家庭内のメンタルヘルス」

シンポジウム

「家庭内のメンタルヘルス」

－父親の果たすべき役割－

座長

兵庫県小児科医会会長・兵庫県予防医学協会副会長

石垣 二郎

シンポジスト

児童臨床心理研究家 黒田 健次

神戸新聞論説委員 古山 桂子

精神科医 松川 善彌

神戸市外国語大学外国人教師 H.A.ウイルソン

特別講演 「心といのち」

NHKチーフプロデューサー 澁谷 康生

講演 「眼科医からみたVDT症候群」

座長

兵庫県予防医学協会産業保健部長 小林治一郎

講師 神戸市立中央市民病院眼科部長 近藤 武久



1987（昭和62）年11月（神戸国際会議場）

第2回予防医学事業推進神戸大会

「老後の健康を考える」

シンポジウム 「老後の健康を考える」

座長 神戸新聞論説委員 古山 桂子

シンポジスト

神戸大学医学部教授・同附属病院院長 福崎 恒

神戸市立中央市民病院副院長 小松 隆

兵庫医科大学教授 下山 孝

特別発言

兵庫県予防医学協会整形外科部長 笠井 実人

特別講演 「大黄河悠久の旅」

NHKチーフプロデューサー 上野 克二

1988（昭和63）年12月（神戸国際会議場）

第3回予防医学事業推進神戸大会

「女性40代からの夢」－健康と美しさ－

パネルディスカッション

「女性40代からの夢」

座長 神戸新聞論説委員 古山 桂子

パネリスト 兵庫医科大学教授 堀 清記

神戸大学医学部教授 岡田 安弘

大阪回生病院皮膚科部長 須貝 哲郎

国立民族学博物館助教授 大丸 弘

1989（平成元）年より予防医学事業推進神戸大会を神戸新聞社と共催にし、予防医学フォーラムと改称した。

1989（平成元）年11月

（神戸国際交流会館メインホール）

第4回予防医学フォーラム 「老いを明るく楽しく」

講演と対談 「老いを明るく楽しく」

神戸新聞論説委員 古山 桂子

神戸大学医学部教授 岡田 安弘

鼎 談 「百歳人生を語る」

特別ゲスト 弁護士・神戸市名誉市民 中井 一夫

1990（平成2）年11月（神戸国際会館8階ホール）

第5回予防医学フォーラム 「水と生活」

講演 「地球と水」

神戸大学理学部教授 安川 克巳

講演 「神戸と水」

神戸市水道局技術部水質試験所長 針間矢研二

講演 「からだと水」

神戸大学医学部教授 岡田 安弘

パネルディスカッション 「生活と水」

コーディネーター

神戸新聞論説委員 古山 桂子

1991（平成3）年11月（神戸文化ホール中ホール）

第6回予防医学フォーラム

「生きるということ」-21世紀への生きがい-

講演 「自分の自然に従いたい」

作家 佐藤 愛子

講演 「ヒトと人 生物のいのち」

神戸大学医学部教授 岡田 安弘

講演 「人のいのち」

国際日本文化研究センター所長 梅原 猛

司会

神戸新聞論説委員 古山 桂子



高齢社会の進展に伴って、高齢者の増加は、今後ますます進むと見込まれる。高齢者の増加は、社会生活に与える影響は、決して軽視できない。高齢者の増加は、社会生活に与える影響は、決して軽視できない。高齢者の増加は、社会生活に与える影響は、決して軽視できない。

老いを明るく楽しく



百歳人生を語る中井一夫さん

中井一夫さん特別ゲストに 予防医学フォーラム



古山桂子神戸新聞論説委員

「生きるということ」-21世紀への生きがい- 講演 「自分の自然に従いたい」 作家 佐藤 愛子

カギは「諦・夢・友」
食べ過ぎず怒らず...



岡田安弘神戸大学教授

「生きるということ」-21世紀への生きがい- 講演 「自分の自然に従いたい」 作家 佐藤 愛子

神戸新聞 1989年12月8日付け



1992（平成4）年11月

（神戸国際会議場メインホール）

第7回予防医学フォーラム

「ゆたかに生きるために」-生と死を考える-

講演 「科学者の立場から」

神戸大学医学部教授 岡田 安弘

講演 「人間学の立場から」

上智大学文学部教授 アルフォンス・デーケン

パネルディスカッション

コーディネーター

神戸新聞論説委員 古山 桂子

1993（平成5）年11月

（神戸国際会議場メインホール）

第8回予防医学フォーラム

「医学-最近のトピックス」

特別講演 「中国人の健康観」

作家 陳 舜臣

講演 「エイズは人間を減ぼすか」

神戸大学医学部教授 本間 守男

講演 「脳といのち」

神戸大学医学部教授 岡田 安弘

聞き手 神戸新聞論説委員 古山 桂子

1994（平成6）年11月（神戸文化ホール中ホール）

第9回予防医学フォーラム

「人とことば」

特別講演 「日本語のこころ」

国語学者 金田一春彦

講演 「脳とことば」

神戸大学医学部教授 岡田 安弘

鼎談 神戸新聞論説委員 古山 桂子

1995（平成7）年11月（神戸文化ホール中ホール）

第10回予防医学フォーラム

「自然のなかで生きる」

特別講演 「苦難を生きた日々」

作家 黒岩 重吾

講演 「地球のなりたちと地震」

神戸大学理学部教授 伊東 敬祐

聞き手 神戸新聞論説委員 古山 桂子

講演 「生き物と自然」

神戸大学医学部教授 岡田 安弘

1996（平成8）年11月（神戸新聞松方ホール）

第11回予防医学フォーラム

「生きることとリズム」

特別講演 「森に生きる」

エッセイスト・林業 宇江 敏勝

講演 「からだとりズム」

神戸大学医学部教授 岡田 安弘

鼎談 神戸新聞論説委員 古山 桂子

1997（平成9）年11月（神戸新聞松方ホール）

第12回予防医学フォーラム

「小さな生きものと人間」

講演 「微生物と人間のかかわり」

神戸大学医学部教授 岡田 安弘

講演 「生き物としての病原菌」

東京慈恵会医科大学教授 益田 昭吾

鼎談 神戸新聞論説委員 古山 桂子

1998（平成10）年11月（神戸新聞松方ホール）

第13回予防医学フォーラム

「生きることと環境」

講演 「地球の温暖化と生物」

神戸大学内海域機能教育研究センター助教授 兵頭 政幸

講演 「環境ホルモン（内分泌かく乱化学物質）と生物」

神戸大学医学部教授 岡田 安弘

鼎談 神戸新聞論説委員 古山 桂子

1999（平成11）年11月（神戸新聞松方ホール）

第14回予防医学フォーラム

「“夢見る脳”－からだと眠り」

講演 「その1 体のリズムと睡眠」

「その2 夢みる脳の秘密」

神戸大学医学部名誉教授 岡田 安弘

対談 元神戸新聞論説委員 古山 桂子

2000（平成12）年11月（神戸新聞松方ホール）

第15回予防医学フォーラム

「生きることと遺伝子」

講演 「生命を形づくる遺伝子」

神戸大学医学部名誉教授 岡田 安弘

講演 「遺伝子治療の現状と展望－国内第一例を中心に－」

北海道大学大学院医学科遺伝子治療講座客員教授

崎山 幸雄

鼎談 元神戸新聞論説委員 古山 桂子

2001（平成13）年11月（神戸新聞松方ホール）

第16回予防医学フォーラム 「こころとからだ」

講演 「こころと身体のかかわり」

神戸大学医学部名誉教授 岡田 安弘

講演 「からだの病いところ－心身医療とセルフコントロール」

九州大学大学院心療内科教授 久保 千春

鼎談 元神戸新聞論説委員 古山 桂子

2002（平成14）年11月（神戸新聞松方ホール）

第17回予防医学フォーラム

「食と健康－私たちはなぜ食べるのか－」

講演 「生きものはなぜ食べるのか」

神戸大学医学部名誉教授 岡田 安弘

講演 「食べることと健康」

甲南女子大学人間科学部環境学科教授 奥田 和子

鼎談 元神戸新聞論説委員 古山 桂子

2003（平成15）年11月（神戸新聞松方ホール）

第18回予防医学フォーラム

「眼のはたらきと脳」

講演 「ものはどのようにして見えるのだろう－眼と脳のはたらき－」

神戸大学医学部名誉教授 岡田 安弘

講演 「眼の病気と治療－白内障、糖尿病－」

滋賀医科大学眼科学講座教授 可児 一孝

鼎談 元神戸新聞論説委員 古山 桂子

2004（平成16）年11月（神戸新聞松方ホール）

予防医学事業推進全国大会開催記念

第19回予防医学フォーラム

特別講演 「神戸医療産業都市構想と健康を楽しむまちづくり」

神戸市長 矢田 立郎

講演 「聴く脳と話す脳－ことばの不思議－」

神戸大学医学部名誉教授 岡田 安弘

対談 元神戸新聞論説委員 古山 桂子



講演会のあゆみ

2005（平成17）年11月（神戸新聞松方ホール）

第20回予防医学フォーラム 「歩くことと健康」

講演 「歩くこととからだ」

神戸大学医学部名誉教授 岡田 安弘

講演 「靴と健康」

株式会社アシックススポーツ工学研究所

人間特性研究チームマネージャー 勝 眞理

鼎談 元神戸新聞論説委員 古山 桂子

2006（平成18）年11月（神戸新聞松方ホール）

第21回予防医学フォーラム

講演 「おしゃべりと健康－ことばを生みだす脳－」

神戸大学医学部名誉教授 岡田 安弘

対談 元神戸新聞論説委員 古山 桂子

2007（平成19）年11月（神戸新聞松方ホール）

第22回予防医学フォーラム

講演 「感情の脳科学－恋するところ－」

神戸大学医学部名誉教授 岡田 安弘

対談 元神戸新聞論説委員 古山 桂子

2008（平成20）年11月（神戸新聞松方ホール）

第23回予防医学フォーラム

講演 「音声ときこえの不思議－脳の科学－」

神戸大学医学部名誉教授 岡田 安弘

対談 元神戸新聞論説委員 古山 桂子

2009（平成21）年11月（神戸新聞松方ホール）

第24回予防医学フォーラム

講演 「脳のはたらきと不思議－発達と加齢－」

神戸大学医学部名誉教授 岡田 安弘

対談 元神戸新聞論説委員 古山 桂子

2010（平成22）年11月（神戸新聞松方ホール）

第25回予防医学フォーラム

講演 「老いの時間を生きる－ゾウの時間
ネズミの時間から考えたこと－」

東京工業大学大学院生命工学研究科

生体システム専攻教授 本川 達雄

対談 元神戸新聞論説委員 古山 桂子

2011（平成23）年11月（神戸新聞松方ホール）

第26回予防医学フォーラム

講演 「健康は‘健口’からはじまる－口
腔衛生のいま－」

神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科教授 足立 了平

対談 元神戸新聞論説委員 古山 桂子

2012（平成24）年11月（神戸新聞松方ホール）

第27回予防医学フォーラム

講演 「百寿からわかったこと－長生
き力とは－」

慶応義塾大学医学部老年内科講師 広瀬 信義

対談 元神戸新聞論説委員 古山 桂子

2013（平成25）年11月（神戸新聞松方ホール）

第28回予防医学フォーラム

講演 「疲れは体からの警報－そのつき
あい方－」

札幌医科大学医学部細胞生理学講座教授 當瀬 規嗣

対談 元神戸新聞論説委員 古山 桂子





2014（平成26）年11月（神戸新聞松方ホール）

第29回予防医学フォーラム

講演 「認知症は予防できるかーもの忘れ、軽度認知障害のとらえ方ー」

国立長寿医療研究センターもの忘れセンター長

櫻井 孝

対談 元神戸新聞論説委員 古山 桂子

2015（平成27）年11月（神戸新聞松方ホール）

第30回予防医学フォーラム

講演 「脳と腸の不思議な関係」

東北大学大学院医学系研究科行動医学分野教授

福土 審

対談 元神戸新聞論説委員 古山 桂子

2016（平成28）年11月（神戸新聞松方ホール）

第31回予防医学フォーラム

講演 「こわい物忘れ、こわくない物忘れー認知症の予防と早期発見」

神戸大学名誉教授 前田 潔

対談 元神戸新聞論説委員 古山 桂子

2017（平成29）年11月（神戸新聞松方ホール）

第32回予防医学フォーラム

講演 「体内時計を味方につけて、いきいき健康！」

京都府立医科大学生理学教室統合生理学部門教授

八木田和弘

2018（平成30）年11月（神戸新聞松方ホール）

第33回予防医学フォーラム

講演 「食べかた上手ー健康長寿のコツ」

神奈川県立保健福祉大学学長・日本栄養士会会長

中村 丁次

2018（令和元）年11月（神戸新聞松方ホール）

第34回予防医学フォーラム

講演 「（あまり）病気をしない暮らしーがんは運である？」

大阪大学大学院医学系研究科病理学教授 仲野 徹

認知症の治療薬などについても報告されたフォーラム＝神戸新聞松方ホール

認知症を受け入れる社会に
神戸で予防医学フォーラム

認知症をテーマにし「忘れ、こわくない物忘れー認知症の予防と早期発見」と題して講演した。神戸市中央区の神戸新聞松方ホールであった。神戸大学名誉教授で神戸学院大総合リハビリテーション学部の前田潔教授が「こわい物忘れ、こわくない物忘れー認知症の予防と早期発見」と題して講演した。県予防医学協会と神戸新聞社の主催で約700人が耳を傾けた。前田教授は海外の研究結果などを示し、「有名な名前が出てこないというような物忘れではなく、自身で自覚し、記憶について不安を伴う主観的な記憶障害は認知症へ進行するリスクがある」などと解説した。

75歳以上では、介護が必要になる原因は認知症がトップといひ、前田教授は「介護の問題は認知症の問題。介護保険制度を守るためにも認知症対策が必要になる」と指摘。「医療・介護以外に、商店や金融機関などでの対応も充実させ、認知症の人でも社会貢献できるようなまちが優しいまち」と語った。

（紺野大樹）

神戸新聞 2016年11月13日付け

いきいきライフセミナー

1994（平成6）年よりがん征圧月間にちなむ公益事業として「いきいきライフセミナー」を開始した。

1994（平成6）年9月

（神戸国際会議場メインホール）

第1回いきいきライフセミナー

講演 「がん治療の最前線－がんはここま
で治る－」

国立がんセンター名誉総長 末舩 恵一

1995（平成7）年9月（神戸文化ホール中ホール）

第2回いきいきライフセミナー

「医から学ぶ」

講演 「人の生き様－生き生きと生きるた
めに－」

高松宮妃がん研究基金理事長

国立がんセンター顧問 和田 武雄

1996（平成8）年9月（神戸新聞松方ホール）

第3回いきいきライフセミナー

講演 「がんの治療－放射線の役割－」

神戸大学医学部教授 河野 通雄

対談 神戸新聞論説委員 古山 桂子

1997（平成9）年9月（神戸新聞松方ホール）

第4回いきいきライフセミナー

講演 「医学の進歩の中で－がんと検診を
考える－」

大阪大学医学部教授 多田羅浩三

対談 神戸新聞論説委員 古山 桂子

1998（平成10）年9月（神戸新聞松方ホール）

第5回いきいきライフセミナー

講演 「がん－最近わかってきたこと－そ
の治療と予防－」

兵庫県立成人病センター名誉院長 木村 修治

対談 神戸新聞論説委員 古山 桂子

1999（平成11）年3月（うはらホール）

第6回いきいきライフセミナー

講演 「面白い出会いの数々－絵と歌と話－」

洋画家 中西 勝

講演 「腰痛と肩こり」

兵庫県予防医学協会常務理事 片岡 治

1999（平成11）年9月（神戸新聞松方ホール）

第7回いきいきライフセミナー

講演 「100歳までのすこやか人生」

国立がんセンター名誉院長 市川平三郎

対談 元神戸新聞論説委員 古山 桂子

時事解説 「劇症肝炎」

国立神戸病院内科系診療部長 由宇 芳才

2000（平成12）年3月（うはらホール）

第8回いきいきライフセミナー

講演 「夢ある老後－ボケ予防とリハビリ
テーション－」

神戸大学医学部名誉教授 岡田 安弘

講演 「中年以後の膝の痛み－変形性膝関
節症－」

兵庫県予防医学協会常務理事 片岡 治



2000（平成12）年9月（神戸新聞松方ホール）
 第9回いきいきライフセミナー
 「がん克服にどう立ち向かうかーがんの予防から治療までー」
 埼玉県立がんセンター総長 石井 勝
 対 談 元神戸新聞論説委員 古山 桂子

2001（平成13）年3月（うはらホール）
 第10回いきいきライフセミナー
 講 演 「痛みとその治療」
 神戸市立中央市民病院麻酔科部長 加藤 浩子
 講 演 「心筋梗塞の最も新しい治療」
 神戸大学医学部第二外科学教室教授 大北 裕

2001（平成13）年9月（神戸新聞松方ホール）
 第11回いきいきライフセミナー
 講 演 「大腸がんと食生活」
 神戸大学大学院医学系研究科教授 佐藤 茂秋
 対 談 元神戸新聞論説委員 古山 桂子

2002（平成14）年2月（うはらホール）
 第12回いきいきライフセミナー
 講 演 「ホルモンとはなんだろうーホルモン発見100周年に際してー」
 神戸大学医学部名誉教授 岡田 安弘
 講 演 「インスリンというホルモンー血糖の調節と糖尿病ー」
 神戸大学医学部保健学科教授 谷口 洋

2002（平成14）年9月（神戸新聞松方ホール）
 第13回いきいきライフセミナー
 講 演 「肝がんの予防と今日の治療」
 東京大学大学院医学系研究科教授 小俣 政男
 講 演 「PETによるがんの診断について」
 財団法人先端医療振興財団映像医療研究部長 千田 道雄

食べ過ぎず適度な運動を

がんは、心筋梗塞（こころそく）や脳卒中と同様、年齢とともに発生する確率が高くなる。最近日本で増えている大腸がんは、加齢のほかに遺伝的因子や潰瘍（かいよう）性大腸炎などの炎症性疾患、寄生虫症、そして食習慣などが発生に関連しているといわれる。

実際、ハワイに移住した日本人は、日本人に多い胃がんが減り、欧米人に多い大腸がんが増加。ニュージーランドやアメリカ、カナダなど肉の消費量の多い国ほど大腸がんの発生率が高いなど、食生活との関連を示すデータは多い。

恐れず生きることも

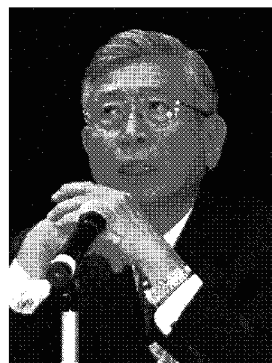
食事の中で大腸がんの促進因子として可能性が高いのが、赤肉やアルコール性飲料。このほか肥満や高身長、糖分や全脂肪、卵なども可能性が助からない。さらに、平均寿命まで生きた人の二人に一人はがんになるものは運動と野菜だ。食品添加物や遺伝子組み換え食品の影響については、厚生労働省の基準から考えると、まず心配はないと思う。

がんの予防には一次から三次まである。一次は、がんにならないようにすること。すなわち、脂肪や食塩の摂取量を抑え、野菜やカルシウムに富む食品をとる。大事ではないか。

食事の中で大腸がんの超え、最低の臓器（すい臓）が、がんは50%ほど。全部位では50%近い。だが、見方によっては、二人に一人は治療しても助からない。さらに、平均寿命まで生きた人の二人に一人はがんになるものは運動と野菜だ。食品添加物や遺伝子組み換え食品の影響については、厚生労働省の基準から考えると、まず心配はないと思う。

がんの予防には一次から三次まである。一次は、がんにならないようにすること。すなわち、脂肪や食塩の摂取量を抑え、野菜やカルシウムに富む食品をとる。大事ではないか。

早期に発見・治療



「大腸がんと食生活」をテーマに話す佐藤茂秋教授—神戸新聞松方ホール

標準体重を維持し、適度な運動をする。

二次予防は、早期発見早期治療。一般に行われている大腸がん検診でかなり発見される。また大腸がんの治療後五年の生存率は50%ほどだが、早い段階での発見ならもっと高い。乳がんは80%を

「大腸がんと食生活」

健康で豊かな暮らしに向けた「いきいきライフセミナー」（兵庫県予防医学協会、神戸新聞社主催）がこのほど、神戸・ハーバーランドの神戸新聞松方ホールで開かれた。九月のがん制圧月間に合わせ、神戸大学大学院医学系研究科の佐藤茂秋教授が「大腸がんと食生活」をテーマに講演。予防に効果のある食生活や上手な付き合い方などを話した。講演後は元神戸新聞論説委員の古山桂子さんと対談し、さまざまな疑問点などに答えた。要旨は次の通り。

神戸大・佐藤茂秋教授が講演

講演会のあゆみ

2003（平成15）年3月（うはらホール）

第14回いきいきライフセミナー

講演 「イスラームとは何か」

関西大学文学部教授 小田 淑子

講演 「お年寄りに見られるもの忘れ」

神戸大学大学院医学系研究科教授 前田 潔

2003（平成15）年9月（神戸新聞松方ホール）

第15回いきいきライフセミナー

講演 「アルコールと肝臓病」

東京大学大学院医学系研究科教授 小俣 政男

対談 元神戸新聞論説委員 古山 桂子

2004（平成16）年3月（うはらホール）

第16回いきいきライフセミナー

講演 「宇宙と私たちの生活」

兵庫県立西はりま天文台公園長 黒田 武彦

講演 「ご存知ですか“生活機能病”－すこやかに年を重ねるために－」

兵庫県予防医学協会副会長 片岡 治

2004（平成16）年9月（神戸新聞松方ホール）

第17回いきいきライフセミナー

講演 「健康寿命とホルモン－すこやかな老後のために－」

神戸大学大学院医学系研究科教授 千原 和夫

講演 「禅と健康」

祥福寺僧堂師家 河野 太通

2005（平成17）年9月（神戸新聞松方ホール）

第18回いきいきライフセミナー

シンポジウム 「より健康により健やかに

－これからの市民の健康を考える－」

シンポジスト

市民の健康づくりへの取り組み

神戸市助役 梶本日出夫

経済と健康 神戸大学名誉教授 高橋 秀行

食と健康 料理研究者・神戸大使 白井 操

デスカッション

コーディネーター

元神戸新聞論説委員 古山 桂子

ゲストスピーカー

兵庫県予防医学協会副会長常務理事 松村 陽右

2006（平成18）年9月（神戸新聞松方ホール）

第19回いきいきライフセミナー

講演 「ものわすれの科学－記憶とはなんだろう－」

神戸大学医学部名誉教授 岡田 安弘

対談 元神戸新聞論説委員 古山 桂子

2007（平成19）年9月（神戸新聞松方ホール）

第20回いきいきライフセミナー

講演 「健康寿命をアップする－よりすこやかに生きるために－」

兵庫県予防医学協会理事・保健指導センター長

南部 征喜

対談 元神戸新聞論説委員 古山 桂子

2008（平成20）年9月（神戸新聞松方ホール）

第21回いきいきライフセミナー

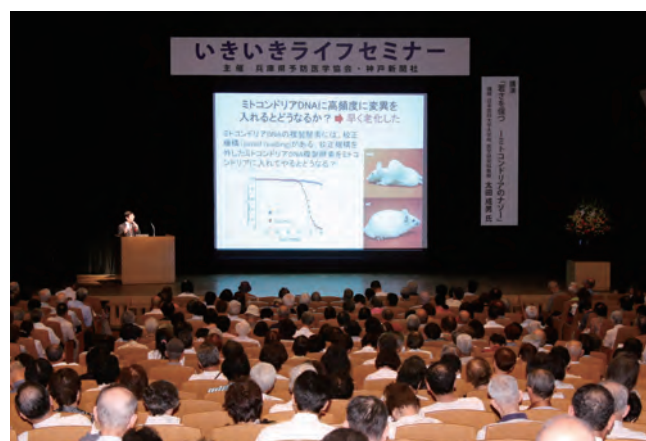
講演 「体内時計と健康－病気にならないために知っておきたい未病と仮面病－」

東京女子医科大学東医療センター内科教授 大塚 邦明

鼎談 元神戸新聞論説委員 古山 桂子

兵庫県予防医学協会副会長 松村 陽右





2009（平成21）年9月（神戸新聞松方ホール）
 第22回いきいきライフセミナー
 講 演 「宗教と健康－日本人の心の主食と
 は？－」
 曹洞宗安泰寺住職 ネルケ無方
 対 談 元神戸新聞論説委員 古山 桂子

2013（平成25）年9月（神戸新聞松方ホール）
 第26回いきいきライフセミナー
 講 演 「笑顔を取りもどすがん治療－放射
 線治療のすべて－」
 神戸大学大学院医学研究科内科系講座放射線医学分野
 放射線腫瘍学部門特命教授 佐々木良平
 対 談 元神戸新聞論説委員 古山 桂子

2010（平成22）年9月（神戸新聞松方ホール）
 第23回いきいきライフセミナー
 講 演 「免疫と長生き」
 順天堂大学医学部免疫学名誉教授 奥村 康
 対 談 元神戸新聞論説委員 古山 桂子

2014（平成26）年9月（神戸新聞松方ホール）
 第27回いきいきライフセミナー
 講 演 「睡眠の話－すこやかに生きる
 ために－」
 大分大学医学部公衆衛生・疫学講座教授 兼板 佳孝
 対 談 元神戸新聞論説委員 古山 桂子

2011（平成23）年9月（神戸新聞松方ホール）
 第24回いきいきライフセミナー
 講 演 「『幸』 齢期を生きる」
 兵庫県予防医学協会副会長・保健指導センター長
 南部 征喜
 対 談 元神戸新聞論説委員 古山 桂子

2015（平成27）年9月（神戸新聞松方ホール）
 第28回いきいきライフセミナー
 講 演 「がんを遠ざける生活習慣－予防の
 ための正しい知識－」
 国立研究開発法人国立がん研究センター
 がん予防・検診研究センターセンター長 津金昌一郎
 対 談 元神戸新聞論説委員 古山 桂子

2012（平成24）年9月（神戸新聞松方ホール）
 第25回いきいきライフセミナー
 講 演 「若さを保つ－ミトコンドリア
 のナゾ－」
 日本医科大学大学院医学研究科教授 太田 成男
 対 談 元神戸新聞論説委員 古山 桂子

2016（平成28）年9月（神戸新聞松方ホール）

第29回いきいきライフセミナー

講演 「おいしさの秘密-科学の目で解く-」

龍谷大学農学部教授 伏木 亨

対談 元神戸新聞論説委員 古山 桂子

2018（平成30）年9月（神戸新聞松方ホール）

第31回いきいきライフセミナー

講演 「健康長寿を実現するための新常識
-中之条研究から見えてきた、“病
気にならない生活法”-」

東京都健康長寿医療センター研究所

社会参加と地域保健研究チーム専門副部長 青柳 幸利

2017（平成29）年9月（神戸新聞松方ホール）

第30回いきいきライフセミナー

講演 「健康長寿の秘訣-フレイル予防か
ら考える-」

国立長寿医療研究センター副院長 荒井 秀典

2019（令和元）年9月（神戸新聞松方ホール）

第32回いきいきライフセミナー

講演 「腸と健康-腸内細菌は旧友!?-」

札幌医科大学医学部消化器内科学講座消化器内科学講座教授

仲瀬 裕志



健康長寿に向け
医師が秘訣解説
神戸
いきいきセミナー
健康な暮らしを目指す
「いきいきライフセミナー」
（県予防医学協会、神戸新
聞社主催）が9日、神戸ハ
ーランドの神戸新聞松
方ホールで開かれ、国立長
寿医療研究センター副院長
の荒井秀典さんが「健康長
寿の秘訣-フレイル予防か
ら考える-」をテーマに講演
した。写真。
健康な状態と要介護状態
の間は「フレイル」と呼ば
れ、荒井さんは危険性や予
防法を説明。「精神的、社会
的、身体的に活力が衰え、フ
レイルに陥ることで転倒率
や死亡率が通常より著しく
上がる」とデータを示した。
一度フレイルになって
も、治療すると元に戻るこ
とができるといい、荒井さ
んは「そのサインを見つけ
て適切な治療をすることが
大事」と指摘。「健康状態を
保つためには運動と栄養と
社会参加が重要。閉じこも
らずに毎日外出し、積極的
に人と交流してほしい」と
呼び掛けた。
講演後には県予防医学協
会が、歌いながら体を動か
す健康表現体操を紹介し
た。（勝浦美香）

神戸新聞 2017年9月10日付け

がんをよく知るための講座

1998（平成10）年より、日本人の死因のトップであるがんについての知識を深めるため「がんをよく知るための講座」を開始した。

1998（平成10）年7月

（神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室）

第1回がんをよく知るための講座 「肺がん」

講 演 「肺がんについて」

兵庫県予防医学協会健診センター参与 鴨志田正五

講 演 「タバコの害」

兵庫県予防医学協会健診センター医師 石崎 泰江

講 演 「胸部検診精密検査の結果から考えられること－保健婦の立場から」

兵庫県予防医学協会保健婦 中尾恵美子

1998（平成10）年10月

（神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室）

第2回がんをよく知るための講座 「乳がん」

講 演 「乳がんについて」

兵庫県予防医学協会健診センター参与 野喜 正夫

講 演 「乳房自己検診法について」

兵庫県予防医学協会保健婦 中尾恵美子



1999（平成11）年2月

（神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室）

第3回がんをよく知るための講座 「胃がん」

講 演 「胃癌」

国立神戸病院内科系診療部長 由宇 芳久

講 演 「胃集団検診について」

兵庫県予防医学協会健診センター副医長 安田 敏成

1999（平成11）年6月

（神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室）

第4回がんをよく知るための講座 「大腸がん」

講 演 「大腸がんの検査と治療」

神戸大学医学部助教授 青山 伸郎

講 演 「大腸集検について」

兵庫県予防医学協会健診センター副医長 安田 敏成

「がん」もっと知ろう

神戸で講座スタート

初回はたばこの害指摘

日本人の死因第一位を占める「がん」についてシリーズで考える「がんをよく知るための講座」が予防医学協会神戸新法正徳の第一回が十九日、神戸市兵庫区の健康ライフプラザで開かれ、同協会の医師や保健婦が「肺がんについて」をテーマに、たばこの有害性や検診の大切さなどについて解説した。

肺がんは現在、がんを追い越して、がん死のトップ。講座ではまず、保健婦の中尾恵美子さんが、精密検査で肺がんが発見した事例を紹介しながら、検診の重要性を説いた。続いて、医師の石崎泰江さんがたばこの害について説明。たばこは約五十の発がん性物質が含まれ、喫煙者の肺がん発症率が通常の約四・一倍、いん頭がんでは二〇・三倍に上るとを指摘した上、「肺がんを防止するにはたばこをやめることが大切」とした。



肺がんについてさまざまなデータが示された「がんをよく知るための講座」。神戸市兵庫区駅南通5、健康ライフプラザ

神戸新聞 1998年7月30日付け

1999 (平成11) 年10月

(神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室)

第5回がんをよく知るための講座 「肝臓がん」
講演 「診療と内科的治療」

神戸大学医学部助手 尹 聖哲

2000 (平成12) 年10月

(神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室)

第8回がんをよく知るための講座 「すい臓がん」
講演 「診断から治療まで」

神戸市立中央市民病院外科部長 梶原 建熙

2000 (平成12) 年2月

(神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室)

第6回がんをよく知るための講座 「皮膚がん」
講演 「健康と紫外線」

神戸大学医学部教授 市橋 正光

2001 (平成13) 年2月

(神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室)

第9回がんをよく知るための講座
「血液のがん」

講演 「白血病と悪性リンパ腫」

神戸大学医学部講師 松井 利充

2000 (平成12) 年6月

(神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室)

第7回がんをよく知るための講座 「子宮がん」
講演 「子宮がんはこわくない」

兵庫県予防医学協会健診センター参与 高島 英世

2001 (平成13) 年6月

(神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室)

第10回がんをよく知るための講座 「食道がん」
講演 「食道がんについて」

神戸市立中央市民病院外科医長 宮原 勅治

2001 (平成13) 年10月

(神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室)

第11回がんをよく知るための講座
「前立腺がん」

講演 「前立腺がんについて」

神戸大学大学院医学系研究科助教授 荒川 創一

2002 (平成14) 年3月

(神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室)

第12回がんをよく知るための講座
「甲状腺がん」

講演 「甲状腺がんについて」

神戸市立中央市民病院核医学科部長 池窪 勝治

2002 (平成14) 年6月

(神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室)

第13回がんをよく知るための講座
「咽頭・喉頭がん」

痛みのない血尿 要注意

ぼうこうがん
神戸で講演会



一般を対象にした講座「ぼうこうがんについて」(兵庫県予防医学協会、神戸新聞社主催)がこのほど、神戸市兵庫区の健康ライフプラザで開かれた。写真。市立中央市民病院の川喜田睦司・泌尿器科部長代行が、症状や診断、治療について説明した。要旨は次の通り。

ぼうこうは、内側に粘膜、その回りを筋肉が覆っている。粘膜に腫瘍(しゅよう)ができるのがぼうこうがん、痛みはないが目で見ても分かる血尿が出る。男性に多く、五十歳以上の発症が多い。

原因はたばこや染料、ぼば、腫瘍の深さを診断するため、尿道から内視鏡を入れて切除する。

ぼうこうがんには、粘り、再生医療によるぼうこうの再建などの研究も進んでいる。

性がある。表在性の場合、ぼうこうを摘出する必要がある。ただし繰り返してよい。ただし繰り返して発生する場合は、ぼうこうの中に抗がん剤などを投入して治療する。また粘膜にとどまるがんもあり、尿が近いなどぼうこう炎に似た症状が出る。浸潤性は内視鏡をいれてもすべて切除することはできない。リンパ節や肺、肝臓、骨に転移しやすい。ぼうこうの摘出が必要で、新しく尿の通り道を作り直すことになる。最近、遺伝子治療や、再生医療によるぼうこうの再建などの研究も進んでいる。

講演 「咽頭・喉頭がんについて」
新須磨病院耳鼻咽喉科部長 牧野 邦彦

2003（平成15）年6月
（神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室）

2002（平成14）年10月
（神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室）
第14回がんをよく知るための講座 「膀胱がん」
講演 「膀胱がんについて」

第16回がんをよく知るための講座 「肺がん」
講演 「肺がんについて…肺がん検診は有効か」
兵庫県予防医学協会健診センター参与 福島 泰資

神戸市立中央市民病院泌尿器科部長代行 川喜田睦司

2003（平成15）年10月
（神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室）

2003（平成15）年2月
（神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室）
第15回がんをよく知るための講座 「胃がん」
講演 「ピロリ菌治療の功罪…胃潰瘍、胃がんとの関連」
神戸大学医学部附属病院助教授 青山 伸郎

第17回がんをよく知るための講座
「胆のうがん」
講演 「胆のうがんについて」
神戸市立中央市民病院消化器内科部長 織野 彬雄

2004（平成16）年2月
（神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室）

第18回がんをよく知るための講座
「乳がん」
講演 「乳がんについて」
神戸市立西市民病院外科部長 小西 豊

2004（平成16）年7月
（神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室）

第19回がんをよく知るための講座
「骨のがん」
講演 「骨のがんについて」
神戸労災病院院長 水野 耕作

2004（平成16）年10月
（神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室）

第20回がんをよく知るための講座
「がんの粒子線治療」
講演 「闘病しなくてもがんは治る」
兵庫県立粒子線医療センター院長 菱川 良夫

がん治療の柱の一つ、放射線療法。神戸市兵庫区の健康ライフプラザで「がんをよく知るための講座」（兵庫県予防医学協会、神戸新聞社主催）が開かれ、兵庫県立粒子線医療センター（掛保郡新宮町）の医療部長、村上昌雄さんが同療法の効果などについて語った。（奥原大樹）

県立粒子線医療センター 村上昌雄部長が講演



村上昌雄部長

放射線療法は、手術療法、化学療法とともにがん治療の三つの柱であり、放射線を照射した範囲内の細胞にしか影響を与えず、傷を付けないのが特徴。放射線は、紫外線や光と同じ電磁波に属する「光子線」と、電子や陽子、重イオンなどの粒子を高速に加速して得られる「粒子線」に大別される。粒子線のうち、特に「陽子線」と「炭素イオン線」を用いた治療を粒子線療法と呼ぶ。

統計によると、国内で年間六十万人ががんと診断され、三十万人が死にます。村上さんは「逆に言うと、半分の方が治る時代になっている」と力を込めた。

がんの半数を治る時代に

「がん細胞に照射すると、細胞の中の遺伝子が破壊し、細胞自身が複製できなくなってしまう」と説明。さらに「がん細胞周辺の正常組織には極力影響を及ぼさないよう配慮することが大原則。これが可能な場合のみ成り立つ療法だ」と強調した。

放射線療法 細胞内の遺伝子を破壊

は、ほかの治療法と同様に再発の可能性があるほか、改善されつつあるが副作用が起きるケースがある点などだ。粒子線療法は、世界で二十五施設、日本では県立粒子線医療センターを含む六施設が実施。同センターは陽子線治療と炭素イオン線治療の二つを行う「世界唯一」の施設で、二〇〇一年の開院から今年五月までに六百五十六人の患者を治療してきた。村上さんは「粒子線療法は費用が高額なことなどが欠点として、一粒子線には、照射する全体の奥深くで止まり、そこでエネルギーを集中的に発するなどの優れた特性がある」と力を込めた。

講演会のあゆみ

2005（平成17）年3月

（神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室）

第21回がんをよく知るための講座 「抗がん剤」

講演 「抗がん剤について」

神戸市立中央市民病院外科医長 正井 良和

講演 「高度医療を組み入れた最新の肝がん治療」

神戸大学医学部先端医療探索応用分野

肝臓・移植外科教授 具 英成

2005（平成17）年7月

（神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室）

第22回がんをよく知るための講座

「放射線治療」

講演 「放射線治療について」

兵庫県立粒子線医療センター医療部長

村上 昌雄

2007（平成19）年10月

（神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室）

第27回がんをよく知るための講座 「膵臓がん」

講演 「膵臓がんについて」

神戸大学大学院医学系研究科外科学講座教授

黒田 嘉和

2005（平成17）年10月

（神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室）

第23回がんをよく知るための講座 「肝臓がん」

講演 「肝臓がんの特徴と診断、治療そして予防対策」

神戸市立西市民病院副院長 小森 英司

2008（平成20）年3月

（神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室）

第28回がんをよく知るための講座 「脳腫瘍」

講演 「脳腫瘍について」

神戸大学大学院医学系研究科医学系研究科外科系講座教授

脳神経外科学分野教授 甲村 英二

2006（平成18）年3月

（神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室）

第24回がんをよく知るための講座 「肺がん」

講演 「肺がんの診断と治療の最前線」

財団法人先端医療振興財団総合腫瘍科部長 片上 信之

2008（平成20）年7月

（神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室）

第29回がんをよく知るための講座 「大腸がん」

講演 「大腸がんについて」

兵庫医科大学消化器内科内科学下部消化管科教授

松本 誉之

2006（平成18）年8月

（神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室）

第25回がんをよく知るための講座

「がんの痛み」

講演 「がんの痛みについて」

兵庫医科大学疼痛制御科学教室教授 村川 和重

2007（平成19）年3月

（神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室）

第26回がんをよく知るための講座 「肝臓がん」



2009（平成21）年2月

（神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室）
 第30回がんをよく知るための講座 「口腔がん」
 講 演 「口腔がんについて」
 西神戸医療センター歯科口腔外科部長 大西 正信

2009（平成21）年7月

（神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室）
 第31回がんをよく知るための講座
 「鼻・副鼻腔がん」
 講 演 「鼻・副鼻腔がんについて」
 神戸市立医療センター中央市民病院耳鼻咽喉科医長
 篠原 尚吾

2010（平成22）年3月

（神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室）
 第32回がんをよく知るための講座 「食道がん」
 講 演 「食道がんについて」
 神戸市立医療センター中央市民病院外科医長
 小林 裕之

2010（平成22）年7月

（神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室）
 第33回がんをよく知るための講座 「胃がん」
 講 演 「胃がんについて」
 兵庫医科大学内科学上部消化管科教授 三輪 洋人

2011（平成23）年3月

（神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室）
 第34回がんをよく知るための講座
 「前立腺がん」
 講 演 「増えつつある前立腺がん、その診
 断と治療」
 神戸大学医学研究科外科系講座
 腎泌尿器科学分野准教授 三宅 秀明

2011（平成23）年7月

（神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室）
 第35回がんをよく知るための講座
 「甲状腺がん」
 講 演 「甲状腺がんについて－放射線の利
 用と被曝－」
 兵庫県予防医学協会常務理事 池窪 勝治

2012（平成24）年3月

（神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室）
 第36回がんをよく知るための講座 「口腔がん」
 講 演 「口腔がんについて」
 神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科教授 足立 了平

2012（平成24）年7月

（神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室）
 第37回がんをよく知るための講座
 「子宮頸がん」
 講 演 「子宮頸がんについて－検診と予防
 ワクチン－」
 大阪がん循環器病予防センター婦人科検診部部长
 植田 政嗣

2013（平成25）年2月

（神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室）
 第38回がんをよく知るための講座
 「放射線治療」
 講 演 「からだにやさしい放射線治療」
 神戸市立医療センター中央市民病院放射線治療科部長
 小久保雅樹

2013（平成25）年7月

（神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室）
 第39回がんをよく知るための講座 「血液のがん」
 講 演 「血液がんとその治療について」
 医療法人社団神鋼会神鋼病院血液病センター長
 高橋 隆幸

2014（平成26）年2月

（神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室）

第40回がんをよく知るための講座

「がんの内視鏡治療」

講演 「早期胃・大腸がんの内視鏡治療—早く見つけ早く治療しよう—」

神戸大学大学院医学研究科内科学講座

消化器内科学分野教授 東 健

2014（平成26）年8月

（神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室）

第41回がんをよく知るための講座

「皮膚がん」

講演 「皮膚がんの話」

神戸大学大学院医学研究科内科学講座

皮膚科学分野教授 錦織千佳子

2015（平成27）年2月

（神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室）

第42回がんをよく知るための講座

「肺がん」

講演 「肺がんの予防と早期発見とは？」

神戸市立医療センター中央市民病院呼吸器内科部長

富井 啓介

2015（平成27）年7月

（神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室）

第43回がんをよく知るための講座

「胃がん」

講演 「知っておいて得する胃がんの知識—予防から治療まで—」

兵庫医科大学外科学上部消化管外科主任教授

笹子三津留

2016（平成28）年1月

（神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室）

第44回がんをよく知るための講座 「抗がん薬」

講演 「ここまでよくなった抗がん薬」

神戸大学大学院医学研究科内科学講座

腫瘍・血液内科学分野教授 南 博信

日本人の2人に1人がかかり、3人に1人が亡くなるがん。その中で最も多いのが肺がんだ。神戸市兵庫区の健康ライフプラザで開かれた「がんをよく知るための講座」（兵庫県予防医学協会、神戸新聞社主催）では、神戸大医学部の真庭謙昌教授（51）が呼吸器外科学分野で、肺がんの検査や治療について解説した。要旨は次の通り。

◆ 肺は呼吸に欠かせない。心臓と同じく全ての血液が集まり、治療が難しい臓器。だが、手術法の進化、画像診断技術の向上、抗がん剤の開発などで、肺がんになっても悲観する必要はなくなってきた。

真庭・神大教授が神戸で講演 最新検査や治療法を紹介

タイプは小細胞肺がん、非小細胞肺がんの2種類。小細胞肺がんは発見時、全身に広がっていることが多く、抗がん剤がよく効き、手術よりも抗がん剤を中心に治療する。

非小細胞肺がんは転移が比較的遅く、がんの大きさが転移の状況で進行度をみて治療法を変える。咳や胸の痛みなどの症状が出た時は進行がんであることが多い。早期で見つかるほど、手術で治せる確率は高いが、早期発見は全体の約半数止まり。検診が大切になる。

検診には、胸のエックス線検査とたんに混じるがん細胞を調べる喀痰細胞診がある。異常があれば、「CT（コンピュータ断層撮影）」、「PET（陽電子放出断層撮影）」「CT」で大きさが転移の状況を調べ、さらに口から細い管を入れて腫瘍を取り、タイプを調べて診断を進めていく。

かつての手術は、胸を開き、肺を掴む筋肉や肋骨を高解像度の映像を見ながら、いったん切断して、がんのある側の肺を全て取っていた。約15年前に、先端にカメラの付いた棒状の胸腔鏡が導入され、傷口を小さくできるようになった。今では、肺に4力所前後開けた穴から胸腔鏡などの器具を差し入れ、モニターの

肺がん診療の今を語る神戸大医学部の真庭謙昌教授＝神戸市兵庫区、健康ライフプラザ



行つた完全鏡視下手術が一般化した。肺は右に上中下、左に上下の「葉」に分かれる。がんがある葉ごとに切除するのが今の主流。葉をさらに細かく分けた「区域」だけを切除する方法の研究も進む。呼吸をつかさどる肺をできるだけ残し、患者の負担を少なくすることが大切だ。

化学療法では、約20年前抗がん剤は1種類だけだったが、分子レベルでがん増殖を抑える「分子標的薬」や免疫機能に作用する「免疫チェックポイント阻害薬」も登場。放射線治療もがんの部分だけを攻撃できるようになってきた。体力やがんの状態に合った治療法を組み合わせ、患者にやさしい確実な治療の開発が進んでいる。（まとめ・山路 進）

肺がん、悲観の必要なし

神戸新聞 2017年3月13日付け

2016（平成28）年7月

（神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室）

第45回がんをよく知るための講座

「膀胱がん」

講演 「膀胱がん－低侵襲治療、尿路変向から再発予防まで」

西神戸医療センター泌尿器科部長 伊藤 哲之

2017（平成29）年2月

（神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室）

第46回がんをよく知るための講座

「肺がんの外科的治療」

講演 「肺がん診療の最前線－体にやさしい治療のために」

神戸大学大学院医学研究科外科学講座

呼吸器外科学分野教授 眞庭 謙昌

2017（平成29）年7月

（神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室）

第47回がんをよく知るための講座

「大腸がんの外科的治療」

講演 「知って得する大腸がんの最新情報－予防から治療まで」

兵庫医科大学外科学講座

下部消化管外科主任教授 富田 尚裕

2018（平成30）年2月

（神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室）

第48回がんをよく知るための講座

「脳腫瘍」

講演 「あなたの知らない脳腫瘍の世界」

関西労災病院副院長・脳神経外科部長 瀧 琢有

2018（平成30）年7月

（神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室）

第49回がんをよく知るための講座

「胆管がん」

講演 「胆管がんについて」

神戸大学医学部附属国際がん医療研究センター

センター長 味木 徹夫

2019（平成31）年2月

（神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室）

第50回がんをよく知るための講座 「胃がん」

講演 「胃がん治療の最新情報」

兵庫県立がんセンター消化器内科部長 津田 政広

2019（令和元）年7月

（神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ多目的室）

第51回がんをよく知るための講座

「がんゲノム」

講演 「がんゲノム医療の現状」

神戸市立医療センター中央市民病院腫瘍内科部長

安井 久晃

2020（令和2）年2月

（兵庫県予防医学協会健診センター多目的室）

第52回がんをよく知るための講座 「口腔がん」

講演 「口の中のがん」

神戸大学大学院医学研究科外科系講座

口腔外科学分野教授 明石 昌也



土曜健康科学セミナー

1998（平成10）年、神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザの開設に合わせ、多目的室を会場に「土曜健康科学セミナー」を開始した。

1998（平成10）年4月11日

生命のからくり－生きるということ－

神戸大学医学部教授 岡田 安弘

1998（平成10）年4月18日

阪神大震災と心のケア

神戸大学医学部助手 田中 究

1998（平成10）年4月25日

酒と健康－（甘辛しゃん）酒づくりの話－

神戸大学名誉教授 新家 龍

1998（平成10）年5月9日

どうしてガンはおこるか

神戸大学医学部助教授 林 祥剛

1998（平成10）年5月16日

骨粗しょう症と元気な骨づくり

健康ライフプラザ所長 片岡 治

1998（平成10）年5月23日

心臓の病気 健康ライフプラザ医師 山根 暁一

1998（平成10）年5月30日

生命の誕生 生命科学の話

甲南大学理学部教授 中村 運

1998（平成10）年6月6日

器官のなりたちとはたらきI－細胞－組織－器官－

神戸大学医学部教授 岡田 安弘

1998（平成10）年6月13日

糖尿病の話 神戸大学医学部教授 谷口 洋

1998（平成10）年6月20日

器官のなりたちとはたらきII

神戸大学医学部教授 岡田 安弘

1998（平成10）年6月27日

人工物の中に生きる人間

神戸大学工学部教授 坂口 忠司

1998（平成10）年7月4日

器官のなりたちとはたらきIII－腎臓の話－

神戸大学医学部教授 岡田 安弘

1998（平成10）年7月11日

高齢者の病気と健康

神戸大学医学部教授 横野 浩一

1998（平成10）年7月18日

人類－その過去と将来－神経生物学者の思い－

ドイツ・デュツツガルト・ホーヘンハイム大学教授

ホーヘンハイム大学動物学研究所所長 H Rahmann

1998（平成10）年7月25日

神戸の都市発展と外国人居留地

元神戸大学副学長 神木 哲男

1998（平成10）年8月1日

生命の誕生を自分の目で見るとウニの受精と発生－（実習）

神戸大学医学部教授 岡田 安弘

1998（平成10）年8月8日

日本と西洋－文化に現れる世界観の違い－

甲南大学ドイツ語講師 B.B.ゲッシュ



1998（平成10）年8月22日

ストレスと健康 筑波大学医学部講師 谷川 武

1998（平成10）年8月29日

体の中のコミュニケーションⅡ－自律神経の話－ 神戸大学医学部教授 岡田 安弘

1998（平成10）年9月5日

たべものの消化と吸収－胃、腸のはたらき－ 神戸大学医学部教授 岡田 安弘

1998（平成10）年9月12日

皮膚と太陽 神戸大学医学部教授 市橋 正光

1998（平成10）年9月19日

生き甲斐について（神谷美恵子）を読んで－みんなで考える－ 神戸大学医学部教授 岡田 安弘

1998（平成10）年9月26日

肥満とダイエット 日本肥満学会会長・九州大学名誉教授 大村 裕

1998（平成10）年10月3日

脳とはなんだろう－そのなりたちとはたらき－ 神戸大学医学部教授 岡田 安弘

1998（平成10）年10月17日

あなたの食べているものは安全か－食の安全性を守ろう－ 神戸大学名誉教授 西川 欣一

1998（平成10）年10月24日

肺のはたらきと病気 健康ライフプラザ所長 中井 準

1998（平成10）年10月31日

宗教と健康 英知大学学長 岸 英司

1998（平成10）年11月7日

脳のはたらきと物質－シナプスと神経伝達物質－ 神戸大学医学部教授 岡田 安弘

1998（平成10）年11月21日

がんは予防できるか 神戸大学医学部教授 佐藤 茂秋

1998（平成10）年11月28日

地震の話 神戸大学理学部教授 伊藤 敬祐

1998（平成10）年12月5日

寄生虫の話 神戸大学医学部教授 松村 武男

1998（平成10）年12月12日

腰痛があなたをねらっている 兵庫県予防医学協会常務理事 片岡 治

1998（平成10）年12月19日

記憶の話－頭のよくなる薬はできるか－ 神戸大学医学部教授 岡田 安弘

1999（平成11）年1月16日

脳とホルモン－体の中のコミュニケーション－ 神戸大学医学部教授 岡田 安弘

講演会のあゆみ

- 1999（平成11）年1月23日
心筋梗塞の話 健康ライフプラザ医師 山根 暁一
- 1999（平成11）年1月30日
肝臓のはたらきと病気
国立神戸病院内科系診療部長
神戸大学医学部臨床教授 由宇 芳才
- 1999（平成11）年2月6日
夢みる脳－睡眠の話－
神戸大学医学部教授 岡田 安弘
- 1999（平成11）年2月13日
よくある小児の病気－腎臓病の話－
神戸大学医学部助手 飯島 一誠
- 1999（平成11）年2月20日
祭りと人間
神戸大学発達科学部教授（音楽表現論） 岩井 正浩
- 1999（平成11）年2月27日
糖尿病の話 神戸大学医学部教授 谷口 洋
- 1999（平成11）年3月6日
心臓移植と人工心臓の話
神戸大学医学部助教授 山下長司郎
- 1999（平成11）年3月13日
源氏・平家と神戸
園田学園女子大学短期大学部教授 田辺 真人
- 1999（平成11）年3月20日
「存在と時間」を知る大脳－動物と人間の違
い－
神戸大学医学部教授 岡田 安弘
- 1999（平成11）年4月10日
生命とは何だろう 神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 1999（平成11）年4月17日
体のなりたち－体の組織を眼と顕微鏡でみる－
神戸大学医学部助教授 林 祥剛
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 1999（平成11）年4月24日
教育－最近の深刻な問題（いじめ、学級崩
壊）－
神戸大学発達科学部教授 土屋 基規
- 1999（平成11）年5月8日
運動の障害－筋肉、小脳、大脳・大脳基底核の
病気－
神戸大学医学部助手 荻田 典生
- 1999（平成11）年5月15日
スポーツ医学－スポーツによる障害－
神戸大学医学部助教授 黒坂 昌弘
- 1999（平成11）年5月22日
運動のメカニズム 神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 1999（平成11）年5月29日
生きることと遺伝子－遺伝子治療の最先端－
神戸大学医学部講師 永田 正男
- 1999（平成11）年6月6日
脳の老化と予防 神戸大学医学部教授 前田 潔
- 1999（平成11）年6月12日
口腔機能と健康－歯と口腔の病気－
神戸大学名誉教授 島田 桂吉
- 1999（平成11）年6月19日
21世紀、世界の健康：WHO神戸センターの新
ビジョン
WHO（世界保健機関）健康開発総合研究センター所長
川口 雄次

- 1999（平成11）年6月26日
日本文化と仏教
国際日本文化研究センター教授 頼富 本宏
- 1999（平成11）年7月3日
女性化する生物 – 内分泌攪乱物質 –
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 1999（平成11）年7月10日
肝臓のはたらきと病気
神戸大学医学部助手 尹 聖哲
- 1999（平成11）年7月17日
神戸の歴史（Ⅱ）
園田学園女子短期大学部助教授 田辺 真人
- 1999（平成11）年7月24日
生活習慣病の予防
健康ライフプラザ所長 宮本 包厚
- 1999（平成11）年8月7日
生物の発生 – ウニの受精と発生 –（実習）
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
西宮東高校教諭 阪口 正樹
- 1999（平成11）年8月21日
眼と健康 – 眼の成人病（白内障、緑内障など） –
神戸大学医学部助教授 井上 正則
- 1999（平成11）年8月28日
瀬戸内海生物の特性
神戸大学名誉教授 榎本 幸人
- 1999（平成11）年9月4日
免疫と病気 神戸大学医学部教授 熊谷 俊一
- 1999（平成11）年9月18日
脳卒中の成因と予防
西神戸医療センター副院長 藤田 勝三
- 1999（平成11）年9月25日
生物の生と死 神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 1999（平成11）年10月9日
生命のなりたちと細胞
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 1999（平成11）年10月16日
各臓器の細胞 – その形とはたらき（実習）目で見える細胞 –
神戸大学医学部助手 林 祥剛
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 1999（平成11）年10月23日
健診と健康
兵庫県予防医学協会健診センター長 中村 温
- 1999（平成11）年10月30日
遺伝子組換え食品はどのようにしてつくられるか？安全か？ 神戸大学農学部教授 大川 秀郎
- 1999（平成11）年11月6日
中高年の膝の痛み – 変形性膝関節症 –
兵庫県予防医学協会常務理事・国立神戸病院名誉院長 片岡 治
- 1999（平成11）年11月20日
西洋人の生命観 – 古代ギリシャ人の生命と宇宙観 –
神戸大学文学部教授 真方 忠道
- 1999（平成11）年11月27日
老化とホルモン 神戸大学医学部教授 千原 和夫

講演会のあゆみ

1999（平成11）年12月4日

自分で守る糖尿病

神戸大学医学部教授 谷口 洋

2000（平成12）年2月12日

リュウマチと膠原病

神戸大学医学部教授 塩沢 俊一

1999（平成11）年12月11日

国際保健からみたアジアの人達の健康

神戸大学医学部教授 川端 真人

2000（平成12）年2月19日

栄養と健康

兵庫県成人病センター内科部長 南部 征喜

1999（平成11）年12月18日

頭痛の話－脳神経外科の立場から－

神戸大学医学部講師 長嶋 達也

2000（平成12）年2月26日

血液のはたらきと病気

神戸大学名誉教授 山口 延男

2000（平成12）年1月8日

中国人の生死観－魯迅から毛沢東まで－

福岡大学教授 山田 敬三

2000（平成12）年3月4日

高血圧、心不全

健康ライフプラザ予防健診センター長 山根 暁一

2000（平成12）年1月22日

中高年をすこやかに－ホルモン補充療法－

神戸通信病院産婦人科部長 多祢 正雄

2000（平成12）年3月11日

放射線の医学－病気の発見と治療－

神戸大学医学部講師 山崎 克人

2000（平成12）年1月29日

消化器（胃腸）のなりたちとはたらき

神戸大学名誉教授 岡田 安弘

2000（平成12）年3月18日

健康は自分でつくるもの－生活習慣病の予防－

健康ライフプラザ所長 宮本 包厚

2000（平成12）年2月5日

消化器（胃腸）の病気

兵庫県予防医学協会健診センター副医長 安田 敏成

2000（平成12）年3月25日

脳死・臓器移植からみた日本人の生死観

神戸大学名誉教授 岡田 安弘



2000（平成12）年4月8日

やさしい健康科学（I）

神戸大学名誉教授 岡田 安弘

2000（平成12）年4月15日

痛みの話 森川ペインクリニック院長 森川 定雄

- | | |
|---|--|
| 2000（平成12）年4月22日
パーキンソン病とその周辺疾患
神戸大学医学部助手 荻田 典生 | 2000（平成12）年7月8日
生活習慣病の予防
健康ライフプラザ所長 宮本 包厚 |
| 2000（平成12）年5月13日
やさしい健康科学（Ⅱ）
神戸大学名誉教授 岡田 安弘 | 2000（平成12）年7月22日
予防医学とは何か
神戸大学医学部教授 佐藤 茂秋 |
| 2000（平成12）年5月20日
ヨーロッパの原点
神戸大学文学部教授 鈴木 利章 | 2000（平成12）年7月29日（100回）
ウニの発生（実習）
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
西宮東高校教諭 阪口 正樹 |
| 2000（平成12）年5月27日
消化管の内視鏡-胃と腸の病気-
神戸大学医学部助手教授 青山 伸郎 | 2000（平成12）年8月5日
甲状腺とその病気
神戸大学保健管理センター教授 馬場 久光 |
| 2000（平成12）年6月3日
やさしい健康科学（Ⅲ）
神戸大学名誉教授 岡田 安弘 | 2000（平成12）年8月19日
やさしい健康科学（Ⅴ）
神戸大学名誉教授 岡田 安弘 |
| 2000（平成12）年6月10日
生命発生の神秘 高知医科大学教授 瀬口 春道 | 2000（平成12）年8月26日
高脂血症と動脈硬化
神戸大学医学部教授 石川 雄一 |
| 2000（平成12）年6月17日
神戸の歴史（Ⅲ）-戦国末期の神戸-
園田学園女子大学教授 田辺 真人 | 2000（平成12）年9月2日
心筋梗塞の話
健康ライフプラザ予防健診センター長 山根 暁一 |
| 2000（平成12）年6月24日
やさしい健康科学（Ⅳ）
神戸大学名誉教授 岡田 安弘 | 2000（平成12）年9月9日
腰痛の自己管理
兵庫県予防医学協会常務理事 片岡 治 |
| 2000（平成12）年7月1日
血糖の調節-糖尿病の原因-
神戸大学医学部教授 谷口 洋 | 2000（平成12）年9月16日
生命と遺伝子 甲南大学名誉教授 中村 運 |

講演会のあゆみ

2000（平成12）年9月30日 やさしい健康科学（Ⅵ） 神戸大学名誉教授 岡田 安弘	2000（平成12）年11月18日 歯と健康－顎関節症について－ 山崎歯科医院院長 山崎 宏
2000（平成12）年10月7日 喉頭のはたらきと病気 神戸大学医学部教授 天津 睦郎	2000（平成12）年11月25日 腎臓のはたらきと病気 高砂市市民病院名誉院長 後藤 武男
2000（平成12）年10月14日 肺のはたらきと病気 兵庫県立成人病センター呼吸器内科部長 加堂 哲治	2000（平成12）年12月2日 やさしい健康科学（Ⅸ）「脳と心」（3） 神戸大学名誉教授 岡田 安弘
2000（平成12）年10月21日 やさしい健康科学（Ⅶ）「脳と心」（1） 神戸大学名誉教授 岡田 安弘	2000（平成12）年12月9日 肝炎ウイルスについて 神戸大学医学部教授 堀田 博
2000（平成12）年10月28日 たべものと健康－果物の話－ 頌栄短期大学教授 福岡 誠行	2000（平成12）年12月16日 「肩こり」について 神戸大学医学部教授 水野 耕作
2000（平成12）年11月4日 やさしい健康科学（Ⅷ）「脳と心」（2） 神戸大学名誉教授 岡田 安弘	2001（平成13）年1月13日 膵臓のはたらきと病気 神戸大学医学部教授 谷口 洋

神戸市健康づくりセンター「健康ライフプラザ」J R兵庫駅前「土曜健康科学セミナー」が二十九日、通算百回を迎える。内容は、さまざまな病気の知識や予防対策のほか、身体の仕組み、生がいづくりと幅広く、一般市民向け健康講座で、週一回開いているのは全国でも珍しい。百回目は、ウニやメダカを使った受精・発生の観察実習を行い、生命を実感してもらおう。

同プラザは、市が財団法人・兵庫県予防医学協会に運営を委託する形で、一九九八年五月に開設した。健康診断や栄養指導、禁煙セミナー、エクササイズ教室を行っている。

健康科学セミナーは、神戸大名誉教授（生理学）で同プラザ・健康科学センター顧問の岡田安弘さんが、一貫して全体をコーディネートしてきた。

体のなりたちと働き▽病

気と心の対策▽生がい・て、質問や要望に丁寧に教養を三本柱に、遺伝子治療、環境ホルモンなどの最新の話題から、糖尿病や腰痛など身近な病気、神戸の歴史まで、第一線の講師を招いてきた。

前期（四月開講）、後期（十月開講）各二十回単位だが、一回だけでも参加でき、毎回、三十五人が受講している。

今年三月には、受講生の茶話会を開いて、講座の感想や今後の希望テーマを聞いた。継続した講座とあって、

同協会の青井立大会長は「コスト面は赤字だが、意義のある講座なので、何とか今のスタイルで続けたい。予防医学の観点から、若い人にもっと参加してほしい」と話す。

二十九日の記念セミナー「生命の誕生」は午後一時半～三時半。参加費五百円、学生無料。詳しくは同プラザ 078・5022・5200。

J R兵庫駅前
ライフプラザ

健康と向き合い、100回目

講29日に 第一線の講師招く



2001（平成13）年1月20日

やさしい健康科学（X）「脳と心」（4）

神戸大学名誉教授 岡田 安弘

2001（平成13）年1月22日

心臓のはたらきと病気－高齢者の心臓病－

鐘紡記念病院院長・神戸大学名誉教授 上羽 康之

2001（平成13）年2月3日

やさしい健康科学（XI）「脳と心」（5）

神戸大学名誉教授 岡田 安弘

2001（平成13）年2月10日

医療における画像診断

神戸大学医学部教授 杉村 和朗

2001（平成13）年2月17日

救急医療体制の現状と課題

神戸大学医学部教授 石井 昇

2001（平成13）年2月24日

生物工学最近の話題

姫路工業大学教授 永吉 照人

2001（平成13）年3月3日

女性ホルモンの話－ホルモン補充療法－

神戸大学医学部教授 足高 善彦

2001（平成13）年3月10日

やさしい健康科学（XII）「脳と心」（6）

神戸大学名誉教授 岡田 安弘

2001（平成13）年3月17日

有機農業とは何か

神戸大学農学部教授 保田 茂

2001（平成13）年3月24日

脳研究の最先端－記憶と「ものわすれ」の科学－

神戸大学名誉教授 岡田 安弘

2001（平成13）年4月14日

やさしい健康科学（I）「体のなりたちとはたらき」の概略

神戸大学名誉教授 岡田 安弘

2001（平成13）年4月21日

「肺結核」について

兵庫県予防医学協会健診センター参与 角田 沖介

2001（平成13）年4月28日

ミツバチの生態 姫路工業大学教授 大谷 剛

2001（平成13）年5月12日

生活習慣病としての虚血性心疾患

兵庫県予防医学協会健診センター医長 山浦 泰子

2001（平成13）年5月19日

やさしい健康科学(II)「脳と心」（7）－運動系と感覚系のはたらき

神戸大学名誉教授 岡田 安弘

2001（平成13）年5月26日

口腔の病気とレーザー治療

神戸大学医学部教授 古森 孝英

2001（平成13）年6月2日

「子どもの心の問題」にどう対処するか

武庫川女子大学教授・前神戸大学医学部助教授

白瀧 貞昭

2001（平成13）年6月9日

臓腑の移植

神戸大学医学部教授 黒田 嘉和

2001（平成13）年6月16日

脳卒中と脳循環障害－脳外科の立場から－

西神戸医療センター副院長 藤田 勝三

2001（平成13）年6月23日

日本の国際化

米国Vanderbilt大学哲学科・京都大学哲学科研究員

Bret Davis

2001（平成13）年6月30日

やさしい健康科学(Ⅲ) 「脳と心」(8)－間
脳のはたらき(自律神経と内分泌)

神戸大学名誉教授 岡田 安弘

2001（平成13）年7月7日

太陽と植物と人間

神戸女子大学教授 橋本 徹

2001（平成13）年7月14日

「骨粗鬆症」について

兵庫医科大学助教授 楊 鴻生



2001（平成13）年7月21日

神戸市の健康管理

園田学園女子大学教授・前神戸市保健福祉局医務監

坪井 修平

2001（平成13）年7月28日

やさしい健康科学(Ⅳ) 生物実習－「細胞分
裂と染色体」を自分の目で見よう

神戸大学名誉教授 岡田 安弘

西宮東高校教諭 阪口 正樹

2001（平成13）年8月4日

やさしい健康科学(Ⅴ) 「脳と心」(9)－間
脳－大脳辺縁系(情動とは何か)

神戸大学名誉教授 岡田 安弘

2001（平成13）年8月18日

「乳がん」について

神戸市立中央市民病院外科参事 小西 豊

2001（平成13）年8月25日

いのちをまなぶ－オリの中からのメッセージ－

元王子動物園飼育技師 亀井 一成

- 2001（平成13）年9月1日
やさしい健康科学（Ⅵ）「脳と心」（10）－大
脳のはたらき（精神と物質－心は物質か？）
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2001（平成13）年9月22日
救急医療体制について
神戸市立中央市民病院副院長 立道 清
- 2001（平成13）年9月29日
アレルギーと健康
関西文化学術研究都市総合健康管理センター理事長
隅田 昌宏
- 2001（平成13）年10月6日
やさしい健康科学（Ⅶ）－生命と健康－
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2001（平成13）年10月13日
形成外科について
神戸大学大学院医学系研究科教授 田原 真也
- 2001（平成13）年10月20日
先端医療センターについて
先端医療振興財団映像医療研究部長 千田 道雄
- 2001（平成13）年10月27日
生命と精神の不思議
京都大学基礎物理学研究所助教授 村瀬 雅俊
- 2001（平成13）年11月10日
免疫性の神経病－重症筋無力症など－
神戸大学大学院医学系研究科講師 苅田 典生
- 2001（平成13）年11月24日
腸の病気－腹痛と下痢、クローン病など－
兵庫医科大学講師 福田 能啓
- 2001（平成13）年12月1日
やさしい健康科学（Ⅷ）－消化器系の話－
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2001（平成13）年12月8日
兵庫の自然を守る 姫路工業大学教授 永吉 照人
- 2001（平成13）年12月15日
C型肝炎について
西神戸医療センター内科部長 小森 英司
- 2001（平成13）年12月22日
胎児の世界 神戸大学医学部教授 三木 明德
- 2002（平成14）年1月12日
移植医療の夢－糖尿病と移植－
神戸大学医学部教授 谷口 洋
- 2002（平成14）年1月19日
気管支ぜんそくの治療
神戸市立西市民病院内科部長 石原 享介
- 2002（平成14）年1月26日
兵庫の淡水魚の話
姫路工業大学助教授 田中 哲夫
- 2002（平成14）年2月2日
やさしい健康科学（Ⅸ）－循環器系の話－
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2002（平成14）年2月9日
心筋梗塞の話
神戸大学大学院医学系研究科教授 秋田 穂東
- 2002（平成14）年2月16日
糖尿病と食生活
神戸市立中央市民病院副院長 倉八 博之

- 2002（平成14）年2月23日
肺の病気
兵庫県立成人病センター呼吸器内科部長 加堂 哲治
- 2002（平成14）年3月2日
やさしい健康科学(X) - 内分泌系の話 -
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2002（平成14）年3月9日
女性のwell being（よき生き方）をめざして -
ピルとホルモン補充療法 -
神戸大学大学院医学系研究科教授 丸尾 猛
- 2002（平成14）年3月16日
災害・事故後の心のケア - PTSD（心的外傷後
ストレス症候群）について -
神戸大学大学院医学系研究科教授 前田 潔
- 2002（平成14）年3月23日
ことばの障害とその治療
神戸大学医学部助教授 関 啓子
- 2002（平成14）年4月13日
これからの健康科学 I - 生命の誕生と人類の将
来
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2002（平成14）年4月20日
潰瘍性大腸炎 - 白血球除去療法について -
兵庫医科大学講師 澤田 康史
- 2002（平成14）年4月27日
花粉症とアレルギー
関西文化学術研究都市総合健康管理センター理事長
隅田 昌宏
- 2002（平成14）年5月11日
これからの健康科学 II - 生きることと遺伝子
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2002（平成14）年5月18日
院内感染について
西神戸医療センター内科医長 矢部 博樹
- 2002（平成14）年5月25日
栄養と健康
神戸女子大学 田中 紀子
- 2002（平成14）年6月1日
これからの健康科学 III - 生きることと調和（ホ
メオスタシス）
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2002（平成14）年6月8日
胃腸の病気
神戸大学保健管理センター助教授 中田 裕久
- 2002（平成14）年6月15日
更年期の過ごし方
神戸市立中央市民病院婦人科部長 伊原 由幸
- 2002（平成14）年6月22日
神戸の歴史 IV 江戸時代の神戸 - 西国街道をた
どる -
園田学園女子大学教授 田辺 真人
- 2002（平成14）年6月29日
薬と正しく付き合おう
神戸大学医学部教授・薬剤部長 奥村 勝彦
- 2002（平成14）年7月6日
おしっこをよく出す話 - 排尿困難、失禁 -
神戸大学大学院医学系研究科助教授 荒川 創一

- 2002（平成14）年7月13日
PETとがん検診について
先端医療振興財団映像医療研究部主任研究員 坂本 攝
- 2002（平成14）年7月27日
これからの健康科学Ⅳ－小さい生命を顕微鏡で見ようゾウリムシの生態（実習）
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
西宮東高校教諭 阪口 正樹
- 2002（平成14）年8月3日
夏の皮膚を大切にしよう
神戸大学大学院医学系研究科教授 市橋 正光
- 2002（平成14）年8月10日
肺がんについて
兵庫県予防医学協会健診センター参与 福島 泰資
- 2002（平成14）年8月24日
イスラムの人と宗教
関西大学文学部教授 小田 淑子
- 2002（平成14）年8月31日
高血圧の話
神戸大学医学部保健学科教授 石川 雄一
- 2002（平成14）年9月14日
これからの健康科学Ⅴ－生きることと環境
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2002（平成14）年9月21日
笑いと人生
吉本興業株式会社常務取締役・大阪本社代表 木村 政雄
- 2002（平成14）年9月28日
都市医学と安全
神戸大学都市安全研究センター教授 鎌江伊三夫
- 2002（平成14）年10月12日
これからの健康科学Ⅵ－ヒトの特徴－ヒトを人間にする脳－
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2002（平成14）年10月26日
生活習慣と眼の病気
社会保険神戸中央病院眼科部長 井上 正則
- 2002（平成14）年11月16日
これからの健康科学Ⅶ－心臓・血管・肺のはたらきと病気
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2002（平成14）年11月30日
聞こえの仕組みと難聴
神戸大学大学院医学系研究科助教授 毛利 光宏
- 2002（平成14）年12月14日
大動脈瘤について
神戸市立中央市民病院胸部外科医長 半田 宣弘
- 2003（平成15）年1月11日
これからの健康科学Ⅷ－肝臓のはたらきと病気
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2003（平成15）年1月25日
狭心症・心筋梗塞の話
神戸労災病院内科部長 大西 一男
- 2003（平成15）年2月8日
これからの健康科学Ⅸ－からだの代謝と病気－糖尿病－
神戸大学名誉教授 岡田 安弘

講演会のあゆみ

- 2003（平成15）年2月22日
外科手術における麻酔の役割
神戸大学大学院医学系研究科教授 尾原 秀史
- 2003（平成15）年3月8日（200回）
長寿と健康 神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2003（平成15）年3月22日
少子化社会の到来
神戸大学大学院医学系研究科教授 西尾 久英
- 2003（平成15）年4月5日
これからの健康科学－腎臓のはたらきと病気－
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2003（平成15）年4月19日
血液のがん－白血病・悪性リンパ腫－
神戸大学大学院医学系研究科講師 松井 利充
- 2003（平成15）年5月10日
血管を若返らせるには
神戸市立中央市民病院副院長 盛岡 茂文
- 2003（平成15）年5月24日
消化器のはたらきと病気－消化器のがん－
神戸大学大学院医学系研究科教授 横崎 宏
- 2003（平成15）年6月14日
これからの健康科学－脳循環と脳卒中－
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2003（平成15）年6月28日
宇宙の神秘を探る－日本の宇宙探査について－
神戸大学大学院自然科学研究科教授 向井 正
- 2003（平成15）年7月12日
皮膚を大切に－アレルギーと皮膚－
神戸大学名誉教授 市橋 正光
- 2003（平成15）年7月26日
これからの健康科学－生命の発生－（実習）
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
西宮東高等学校教諭 阪口 正樹
- 2003（平成15）年8月2日
これからの健康科学－医学の発達とこれからの医療－
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2003（平成15）年8月23日
睡眠と健康
筑波大学社会医学系社会健康医学助教授 谷川 武
- 2003（平成15）年9月13日
これからの健康科学－生活習慣病とこれからの予防医学－
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2003（平成15）年9月27日
心臓・血管の病気と手術
神戸大学大学院医学系研究科教授 大北 裕
- 2003（平成15）年10月11日
これからの健康科学－生きることと環境－
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2003（平成15）年10月25日
頭痛とめまい
神戸大学大学院医学系研究科講師 荻田 典生
- 2003（平成15）年11月8日
甲状腺とその病気
神戸市立中央市民病院核医学科部長 池窪 勝治

- 2003（平成15）年11月22日
 これからの健康科学－筋のはたらきと運動－
 神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2003（平成15）年12月6日
 加齢とホルモン
 神戸大学大学院医学系研究科教授 千原 和夫
- 2003（平成15）年12月13日
 腎炎の治療について
 神戸市立中央市民病院腎臓内科部長 鈴木 隆夫
- 2004（平成16）年1月10日
 腎臓移植の話
 川崎医科大学泌尿器科教授 藤澤 正人
- 2004（平成16）年1月24日
 こころの健康－禅のこころ－
 祥福寺僧堂師家・前花園大学学長 河野 太道
- 2004（平成16）年2月14日
 これからの健康科学－栄養とビタミン－
 神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2004（平成16）年2月28日
 話題のウイルス感染症－SARS、AIDS、肝炎－
 神戸大学大学院医学系研究科教授 堀田 博
- 2004（平成16）年3月13日
 体の代謝と健康－糖尿病－
 神戸大学医学部教授 谷口 洋
- 2004（平成16）年3月27日
 これからの健康科学「21世紀の生命を考える」
 のまとめ－新しい生命論の機軸を求めて－
 神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2004（平成16）年4月10日
 やさしい健康科学－体のなりたちと健康－
 神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2004（平成16）年4月24日
 血液と健康－血液の病気と移植治療－
 神戸市立中央市民病院免疫血液内科参事
 先端医療振興財団診療管理部長 永井 謙一
- 2004（平成16）年5月8日
 やさしい健康科学－ホルモン（内分泌）と健康－
 神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2004（平成16）年5月22日
 経済と健康－産業革命の光と闇－
 神戸大学名誉教授 高橋 秀行
- 2004（平成16）年6月12日
 眼と健康－白内障の手術～過去・現在・未来－
 兵庫県予防医学協会常務理事 近藤 武久
- 2004（平成16）年6月26日
 肺と健康－タバコと肺がん－
 兵庫県立成人病センター院長 坪田 紀明
- 2004（平成16）年7月10日
 夏の健康－食中毒の話－
 神戸大学保健管理センター助教授 中田 裕久
- 2004（平成16）年7月24日
 やさしい健康科学－生命の発生と健康－（実習）
 神戸大学名誉教授 岡田 安弘
 西宮東高等学校教諭 阪口 正樹

- 2004（平成16）年8月7日
やさしい健康科学－血液循環と健康－
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2004（平成16）年8月28日
眠りと健康－睡眠時無呼吸症候群－
前田呼吸器科クリニック院長 前田 均
- 2004（平成16）年9月4日
肥満と健康－正しいダイエット法－
九州大学名誉教授 大村 裕
- 2004（平成16）年9月25日
やさしい健康科学－脳と健康－
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2004（平成16）年10月9日
やさしい健康科学－水・塩（イオン）と健康－
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2004（平成16）年10月23日
肝臓と健康－肝炎と肝がん－
兵庫県立加古川病院消化器科部長 尹 聖哲
- 2004（平成16）年11月13日
やさしい健康科学－呼吸と健康－
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2004（平成16）年11月27日
栄養と健康 神戸大学医学部教授 宇佐美 眞
- 2004（平成16）年12月11日
やさしい健康科学－運動と健康－
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2004（平成16）年12月18日
「健康とは何だろう」貝原益軒の養生観＜気の思想から考える＞
京都大学大学院教育学研究科教授 辻本 雅史
- 2005（平成17）年1月8日
やさしい健康科学－代謝と健康－
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2005（平成17）年1月22日
再生医療の実際と展望
理化学研究所発生・再生科学総合研究センター
副センター長 西川 伸一
- 2005（平成17）年2月12日
最近話題の「メタボリック症候群」－高血圧・高脂血症・肥満・糖尿病－
神戸大学医学部教授 石川 雄一
- 2005（平成17）年2月26日
生涯をみわたしての医療
前六甲病院副院長 多祢 正雄
- 2005（平成17）年3月12日
睡眠と健康－眠りと体のリズム－
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2005（平成17）年3月26日
小児の病気と健康－小児の感染症について－
神戸市立中央市民病院感染症科部長・小児科参事
春田 恒和
- 2005（平成17）年4月9日
これからの健康科学－生命のなりたち～細胞膜と遺伝子の不思議－
神戸大学名誉教授 岡田 安弘

- 2005（平成17）年4月23日
 消化器内視鏡の進歩と消化管診療の最前線－
 お腹を切らないがん手術からカプセル内視鏡
 まで－
 神戸市立中央市民病院消化器内科医長 河南 智晴
- 2005（平成17）年5月14日
 これからの健康科学－体のなりたちとはたらき
 の概略－ 神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2005（平成17）年5月28日
 夏の皮膚を大切に－太陽光と皮膚－
 神戸大学大学院医学系研究科教授 錦織千佳子
- 2005（平成17）年6月11日
 これからの健康科学－消化器系のなりたちとは
 たらき～代謝と健康－
 神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2005（平成17）年6月25日
 神戸の歴史－一の谷とひよどり越え－＜NHK
 大河ドラマによせて＞
 園田学園女子大学教授 田辺 真人
- 2005（平成17）年7月9日
 心臓のはたらきと病気－狭心症と心筋梗塞－
 神戸大学大学院医学系研究科教授
 前神戸大学医学部付属病院院長
 横山 光宏
- 2005（平成17）年7月23日
 これからの健康科学－生命の発生と健康－（実
 習）
 神戸大学名誉教授 岡田 安弘
 西宮東高等学校教諭 阪口 正樹
- 2005（平成17）年8月6日
 眼と健康 神戸大学名誉教授 山本 節
- 2005（平成17）年8月27日
 これからの健康科学－体液の調節と排泄－
 神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2005（平成17）年9月3日
 移植の諸問題－膝髁移植の現状－
 神戸大学消化器外科学医学研究員 辻村 敏明
- 2005（平成17）年9月24日
 エイズ、最近の諸問題
 神戸市立中央市民病院免疫血液内科部長 高橋 隆幸
- 2005（平成17）年10月8日
 これからの健康科学－ホルモンと健康～体の中
 のコミュニケーション－
 神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2005（平成17）年10月22日
 前立腺がんについて
 兵庫県予防医学協会常務理事
 保健環境センターセンター長 松村 陽右
- 2005（平成17）年11月5日
 これからの健康科学－運動と健康～運動のメカ
 ニズム－ 神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2005（平成17）年11月26日
 「におい」と「きこえ」
 神戸大学大学院医学系研究科教授 丹生 健一
- 2005（平成17）年12月10日
 高齢者の病気と生活習慣
 神戸大学大学院医学系研究科教授 横野 浩一

講演会のあゆみ

- 2005（平成17）年12月17日
狭心症・心筋梗塞の手術について
神戸市立中央市民病院胸部外科医長 半田 宣弘
- 2006（平成18）年1月14日
これからの健康科学－肝臓と健康－
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2006（平成18）年1月28日
高次神経のはたらきと病気
神戸大学大学院医学系研究科助教授 苅田 典生
- 2006（平成18）年2月4日
これからの健康科学－血液と健康－
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2006（平成18）年2月25日
生命－生きること、知ること－
兵庫県立大学看護学部教授 石井 誠士
- 2006（平成18）年3月11日
これからの健康科学－おしゃべりと健康～ことばの不思議－
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2006（平成18）年3月25日
脳循環障害と脳卒中
神戸市地域医療振興財団西神戸医療センター副院長
藤田 勝三
- 2006（平成18）年4月8日
脳の科学－脳とは何だろう－
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2006（平成18）年4月22日
肝臓病と肝移植
先端医療振興財団先端医療センター長 田中 絃一
- 2006（平成18）年5月13日
痛みについて 兵庫医科大学教授 村川 和重
- 2006（平成18）年5月27日
脳の科学－頭のよくなる薬はできるか－
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2006（平成18）年6月10日
高血圧と心臓病
神戸市立中央市民病院循環器内科部長 木原 康樹
- 2006（平成18）年6月24日
動物の行動と人間
甲南大学フロンティア研究推進機構客員教授 千田 廉
- 2006（平成18）年7月8日
頭痛について
兵庫県立こども病院脳神経外科部長 長嶋 達也
- 2006（平成18）年7月22日
－生命の発生と健康－（実習）
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
西宮東高等学校教諭 阪口 正樹
- 2006（平成18）年8月5日
ストレスと免疫
神戸大学大学院医学系研究科教授 熊谷 俊一
- 2006（平成18）年8月26日
脳の科学－ヒトはなぜ眠る？－
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2006（平成18）年9月9日
カルシウムと健康 神戸大学名誉教授 藤田 拓男

- 2006（平成18）年9月16日
 脳の科学－情報を運ぶホルモンと脳－
 神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2006（平成18）年10月14日
 生きることと死ぬこと～石井誠士先生が言いた
 かったこと 神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2006（平成18）年10月28日
 生活習慣と健康－メタボリック症候群－
 神戸労災病院副院長 大西 一男
- 2006（平成18）年11月18日
 大脳皮質の発達と病気
 神戸大学大学院医学系研究科教授 寺島 俊雄
- 2006（平成18）年11月25日
 応急手当てガイド
 神戸市立中央市民病院救命救急センター
 救急部長 佐藤 慎一
- 2006（平成18）年12月9日
 脳の科学－脳と運動のメカニズム－
 神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2006（平成18）年12月16日
 250年のモーツァルト
 モーツァルト室内管弦楽団常任指揮者・京都産業大学教授
 門 良一
- 2007（平成19）年1月13日
 脳の科学－見えることと見ることの違い－
 神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2007（平成19）年1月27日
 眼で見る病気 神戸大学医学部教授 渡邊 信
- 2007（平成19）年2月10日
 脳とくすり
 神戸大学大学院医学系研究科助教授 白川 治
- 2007（平成19）年2月24日
 尿の話シリーズⅠおしっこはどのようにしてつ
 ぐられるのだろう 神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2007（平成19）年3月17日
 尿の話シリーズⅡ気になるおしっこの話－尿が
 出にくい、尿がもれる－
 神戸大学大学院医学系研究科教授 藤澤 正人
- 2007（平成19）年3月24日
 尿の話シリーズⅢ腎臓よもやま話－腎臓病、腎
 不全、食事療法など－
 神戸市立中央市民病院腎臓内科部長 鈴木 隆夫
- 2007（平成19）年4月14日
 脳の科学－脳のエネルギー代謝と脳卒中－
 神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2007（平成19）年4月28日
 脳卒中のリハビリテーション
 兵庫医科大学教授 道免 和久
- 2007（平成19）年5月12日（300回）
 生きることと健康－心と身体－
 神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2007（平成19）年5月26日
 鳥インフルエンザウイルスについて
 神戸大学大学院医学系研究科教授 堀田 博
- 2007（平成19）年6月9日
 脳の科学－アルツハイマー病と脳血管性認知
 症－ 神戸大学名誉教授 岡田 安弘

2007（平成19）年6月23日

子どもの感染症

神戸市立中央市民病院小児科部長・感染症科部長 春田 恒和

2007（平成19）年7月14日

生命の誕生－分娩の安全性－

神戸大学大学院医学系研究科准教授 山崎 峰夫

2007（平成19）年7月28日

生命の発生－ウニの受精と発生－（実習）

神戸大学名誉教授 岡田 安弘

西宮東高等学校教諭 阪口 正樹

2007（平成19）年8月4日

脳と運動－運動とは何だろう－

神戸大学大学院医学系研究科准教授 菊田 典生

2007（平成19）年8月25日

エイズウイルス感染の拡がり－世界の現状とすぐできる対策－ 近畿大学医学部教授 宮澤 正顕

2007（平成19）年9月1日

男性泌尿器の疾患

神戸市立中央市民病院泌尿器科部長 川喜田睦司

2007（平成19）年9月22日

神戸の歴史と医療 神戸大学名誉教授 岡田 安弘

2007（平成19）年10月13日

脳の科学－感覚と知覚～五感とは何だろう－

神戸大学名誉教授 岡田 安弘

2007（平成19）年10月27日

血液のがん－白血病と悪性リンパ腫－

神戸大学大学院医学系研究科准教授 松井 利充

2007（平成19）年11月17日

老健施設から眺めた高齢者の健康

愛媛大学名誉教授・介護老人保健施設「れんげ荘」施設長 片岡 喜由

2007（平成19）年11月24日

生命の科学－水と塩（ミネラル）と生命－

神戸大学名誉教授 岡田 安弘

2007（平成19）年12月8日

脳の科学－自律神経と体内調節－

神戸大学名誉教授 岡田 安弘

医師らの講演好評300回に

12日、神戸で記念公開講座

兵庫県予防医学協会
神戸市兵庫区の健康ライ
フブラザで月二回開いて
いる「土曜健康科学セミ
ナー」が、十二日に三百
回を迎える。セミナーは
「体の成り立ちと働き」
「病気とその対策」「生
きがいと教養」のいずれ
かに沿ったテーマで、医
師らが講演する。分か
りやすさなどから好評を集

**県予防医学協会の
「土曜健康科学セミナー」**

めており、スタートした
一九九八年四月からの受
講者は、延べ一万五千人
に上る。

セミナーは、同ブラザ
健康科学センター顧問で
神戸大名誉教授（医学部
の岡田安弘さん）が、
「健康とは何か」「生き
るとは何か」を考えても
らい、予防医学につなげ
ようと企画した。講師は、

岡田さんのほか神戸大や
同大学院の教授、神戸
市立中央市民病院の勤務
医ら。内容は多岐にわた
り、本年度前期には、「鳥
インフルエンザウイル
ス」（五月二十六日）や
「子どもの感染症」（六
月二十三日）などが盛り
込まれている。

スタート時は週一回だ
ったが、〇二年度後期か
ら月二回に。年間の平均
受講者数は、初年度の四
十二人から九十六人に増
加した。当初女性と高齢
者が中心だったが、男性

や若者らも増え、幅広い
層の人が楽しんでいると
いう。岡田さんは「これ
からも、どう生きるかを
考えるのに役立つセミナ
ーを心がけ、継続したい」
と話している。

十二日午後一時半から
は、三百回記念無料公開
講座で、岡田さんが「生き
ることと健康－心と身
体」と題し、これまでのセ
ミナーを振り返りながら
話す。申し込み不要。問い
合わせは、健康ライブラ
ザ ☎078・65025
202（網 麻子）

神戸新聞 2007年5月4日付け

- 2007（平成19）年12月15日
 高齢者医学とメタボリック症候群
 神戸大学大学院医学系研究科教授 横野 浩一
- 2008（平成20）年1月12日
 甲状腺の病気
 兵庫県予防医学協会常務理事
 元神戸市立中央市民病院核医学科部長 池窪 勝治
- 2008（平成20）年1月26日
 寄生虫と人間－ようこそ寄生虫の世界へ－
 神戸大学大学院医学系研究科准教授 齋藤あつ子
- 2008（平成20）年2月9日
 血管内治療と脳卒中センター、新時代の脳卒中診療
 神戸市立医療センター中央市民病院脳神経外科・脳卒中センター
 坂井 信幸
- 2008（平成20）年2月23日
 脳の科学－記憶と脳～学習するということ～
 神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2008（平成20）年3月8日
 いのちを支えるホスピスケア
 金城学院大学学長・元大阪大学人間科学部教授 柏木 哲夫
- 2008（平成20）年3月22日
 生命の科学 生命論・医学の歴史－人は「生命」についてどのように考えて来たのだろうか－
 神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2008（平成20）年4月12日
 “Le juge, entre l'homme et la loi, en vue de la paix” 裁判官－人と法の間で和をめざす－
 元スイス連邦ヴァレー州シオン市裁判所所長 Yves Tabin
- 2008（平成20）年4月26日
 気管支喘息は克服できるのか
 神戸市立医療センター中央市民病院副院長・呼吸器内科部長
 石原 享介
- 2008（平成20）年5月10日
 生命の科学「代謝（メタボリズム）とは何だろう」－
 体の代謝と病気－
 神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2008（平成20）年5月24日
 メタボリック症候群と心筋梗塞
 神戸大学大学院医学系研究科教授 平田 健一
- 2008（平成20）年6月14日
 生命の科学「遺伝子とは何だろう」－進化論からDNAへ－
 神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2008（平成20）年6月28日
 PETによる腫瘍診断とがん健診
 神戸大学大学院医学系研究科講師 坂本 攝
- 2008（平成20）年7月12日
 福原遷都 神戸大学文学部教授 高橋 昌明
- 2008（平成20）年7月26日
 生命の科学「生命のはじまり」－ウニの受精と発生（実習）－
 神戸大学名誉教授 岡田 安弘
 西宮市立西宮東高等学校教諭 阪口 正樹
- 2008（平成20）年8月2日
 肝臓のはたらきと病気シリーズ I 生命の科学－
 肝臓の成り立ちとはたらき－
 神戸大学名誉教授 岡田 安弘

- 2008（平成20）年8月23日
肝臓のはたらきと病気シリーズⅡ慢性肝炎の診断と治療－肝癌にならないために－
神戸市立医療センター中央市民病院消化器内科部長
猪熊 哲朗
- 2008（平成20）年9月13日
肝臓のはたらきと病気シリーズⅢ肝臓の外科－安全、確実な手術がどのようにして可能になったか－
神戸大学大学院医学系研究科教授 具 英成
- 2008（平成20）年9月27日
脳の科学－脳と言語－
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2008（平成20）年10月11日
生命の科学－タンパク質と生命－
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2008（平成20）年10月25日
歯と健康－意外な老化予防－
神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科教授 足立 了平
- 2008（平成20）年11月15日
生命システムと供養
兵庫県立大学環境人間学部教授 岡田真美子
- 2008（平成20）年11月22日
膵臓の恐ろしい病気－膵癌と重症急性膵炎－
神戸市立医療センター中央市民病院外科部長 細谷 亮
- 2008（平成20）年12月13日
紫外線と皮膚
神戸大学大学院医学研究科講師 船坂 陽子
- 2008（平成20）年12月20日
生命の科学－血液の成り立ちとはたらき－
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2009（平成21）年1月10日
ホルモンの話シリーズⅠ体内変化の調節－ホルモンと自律神経－
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2009（平成21）年1月24日
健康をおびやかす高血圧
神戸学院大学栄養学部教授 藤岡 由夫
- 2009（平成21）年2月14日
ホルモンの話シリーズⅡ見逃されやすい甲状腺疾患
神戸市立医療センター中央市民病院
糖尿病・内分泌内科部長 石原 隆
- 2009（平成21）年2月28日
健康な呼吸法
兵庫医科大学病院リハビリテーション部主任技師
真淵 敏
- 2009（平成21）年3月14日
脳の科学－感じる脳－
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2009（平成21）年3月28日
ホルモンの話シリーズⅢホルモンと健康
兵庫県立加古川病院院長・神戸大学名誉教授 千原 和夫
- 2009（平成21）年4月11日
生命の科学－先端医療と生命倫理－
神戸大学名誉教授 岡田 安弘

- 2009（平成21）年4月25日
鳥インフルエンザへの対策
兵庫県予防医学協会理事・保健環境センター長
井上 明
- 2009（平成21）年5月9日
東洋医学について
医療法人社団岐黄会西本クリニック院長
神戸大学総合診療部漢方内科非常勤講師 西本 隆
- 2009（平成21）年6月21日
最近話題の「肺の病気」
兵庫県立加古川病院副院長・内科部長 加堂 哲治
- 2009（平成21）年6月13日
銀河宇宙線と雲
神戸大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻教授
兵頭 政幸
- 2009（平成21）年6月27日
頭痛がおこったら
兵庫県立こども病院脳神経外科部長 長嶋 達也
- 2009（平成21）年7月11日
子どもと老人学－アンチエイジング－
兵庫県予防医学協会常務理事
元神戸市地域医療振興財団西神戸医療センター院長
馬場 國藏
- 2009（平成21）年7月25日
生命の科学－ウニの受精と発生（実習）－
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
西宮市立西宮東高等学校教諭 阪口 正樹
- 2009（平成21）年8月8日
脳の科学脳科学の歴史と展望～脳とは何だろう
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2009（平成21）年8月22日
睡眠時無呼吸症候群－早期発見の意義－
愛媛大学大学院医学系研究科教授 谷川 武
- 2009（平成21）年9月5日
がんの話シリーズⅠがんとは何だろう
神戸大学大学院医学研究科教授 林 祥剛
- 2009（平成21）年9月26日
がんの話シリーズⅡがん検診の利用法～快適な人生を送るために
神戸大学大学院医学研究科教授 東 健
- 2009（平成21）年10月10日
脳研究の最先端シリーズⅠ記憶と認知症の研究
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2009（平成21）年10月24日
加齢と食事
神戸大学大学院医学研究科教授 丹生 健一
- 2009（平成21）年11月14日
膠原病とは…
神戸市立医療センター中央市民病院皮膚科部長代行
藤井 秀孝
- 2009（平成21）年11月28日
腎臓のはたらきと病気
神戸大学大学院医学研究科教授 飯島 一誠
- 2009（平成21）年12月12日
脳研究の最先端シリーズⅡ神経科学と脳神経外科の進歩
神戸大学大学院医学研究科教授 甲村 英二

講演会のあゆみ

- 2009（平成21）年12月19日
運動と健康
神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授 河辺 章子
- 2010（平成22）年5月8日
生命の科学Ⅱ－遺伝子とタンパク質－
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2010（平成22）年1月9日
脳研究の最先端シリーズⅢ脳とイメージ
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2010（平成22）年5月22日
喘息とCOPD
神戸市立医療センター中央市民病院呼吸器内科部長
富井 啓介
- 2010（平成22）年1月23日
免疫力とは…
神戸市立医療センター中央市民病院院長代行・免疫血液内科部長
高橋 隆幸
- 2010（平成22）年6月12日
消化器疾患と感染症
神戸市立医療センター中央市民病院消化器内科医長
河南 智晴
- 2010（平成22）年2月13日
日本の歴史－大正・昭和から現代をみる－
神戸大学大学院人文学研究科准教授 河島 真
- 2010（平成22）年6月26日
万葉集のこころ
京都大学大学院人間・環境学研究科教授 内田 賢徳
- 2010（平成22）年2月20日
脳研究の最先端シリーズⅣ神経疾患の最先端
神戸大学大学院医学研究科教授 戸田 達史
- 2010（平成22）年7月10日
消化管のがん
神戸大学大学院医学研究科教授 横崎 宏
- 2010（平成22）年3月13日
脳研究の最先端シリーズⅤ脳とくすり
近畿大学医学部教授 白川 治
- 2010（平成22）年7月24日
生命の科学Ⅲ－生命の発生－（実習）
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
園田学園女子大学講師 阪口 正樹
- 2010（平成22）年3月27日
新型インフルエンザについて
神戸大学大学院医学研究科教授 岩田健太郎
- 2010（平成22）年8月7日
心臓の働きと病気
神戸大学大学院医学研究科教授 川合 宏哉
- 2010（平成22）年4月10日
生命の科学Ⅰ－意思する細胞－
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2010（平成22）年8月28日
免疫の病気
神戸大学大学院医学研究科教授 塩沢 俊一
- 2010（平成22）年4月24日
女性ホルモンと動脈硬化
神戸大学大学院医学研究科教授 橋本 正良

- 2010（平成22）年9月4日
正しい薬の使い方
神戸大学大学院医学研究科教授 平井みどり
- 2010（平成22）年9月25日
生命の科学Ⅳ－科学と宗教－
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2010（平成22）年10月9日
生命・脳の科学Ⅰ－生命科学の成り立ちと展望－
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2010（平成22）年10月23日
乳がん術後の乳房再建
神戸大学大学院医学研究科教授 田原 真也
- 2010（平成22）年11月13日
生命・脳の科学Ⅱ－脳研究の成り立ちと展望－
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2010（平成22）年11月27日
小惑星の起源と‘はやぶさ’の探査
神戸大学大学院理学研究科准教授 中村 昭子
- 2010（平成22）年12月11日
口の中の病気と治療
神戸大学大学院医学研究科教授 古森 孝英
- 2010（平成22）年12月18日
予防医学とは－その現状と展望－
兵庫県予防医学協会会長 松村 陽右
- 2011（平成23）年1月8日
生命・脳の科学Ⅲ－身体とこころ－
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2011（平成23）年1月22日
流産と早産の予防
神戸大学大学院医学研究科教授 山田 秀人
- 2011（平成23）年2月12日
尿の出方と病気
神戸大学大学院医学研究科教授 藤澤 正人
- 2011（平成23）年2月26日
最近のリウマチ治療
神戸大学名誉教授・医療法人社団 神鋼会
神鋼病院膠原病リウマチセンターセンター長 熊谷 俊一
- 2011（平成23）年3月12日
再生医療の今とこれから
先端医療振興財団先端医療センター病院長 西尾 利一
- 2011（平成23）年3月26日
生命・脳の科学Ⅳ－科学者からみた生命、哲学者からみた生命－
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2011（平成23）年4月23日
頭痛について－上手な付き合い方－
西神戸医療センター神経内科医長 柳原 千枝
- 2011（平成23）年5月28日
高齢者糖尿病と認知症
神戸大学副学長・神戸大学大学院医学研究科教授 横野 浩一
- 2011（平成23）年6月25日
肝臓の働きと病気
兵庫県立加古川医療センター診療部長・消化器内科部長 尹 聖哲

- 2011（平成23）年7月23日
生命の誕生－ウニの発生－（実習）
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
園田学園女子大学講師 阪口 正樹
- 2011（平成23）年8月20日
心臓のはたらきと病気
神戸大学大学院医学研究科教授 平田 健一
- 2011（平成23）年9月24日
脳卒中とそのリハビリテーション－脳卒中からの生還－
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2011（平成23）年10月22日（400回）
健康とは何だろう－体の各臓器のはたらきと病気－
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2011（平成23）年11月26日
肺のはたらきと病気－高齢者社会と肺疾患－
神戸市立医療センター西市民病院院長 石原 享介
- 2011（平成23）年12月17日
寄生虫と病気－身近な新興寄生虫感染症
兵庫医療大学教授 齋藤あつ子
- 2012（平成24）年1月28日
肝臓がんの最新治療
神戸大学大学院医学研究科教授 具 英成
- 2012（平成24）年2月25日
腎臓のはたらきと病気－水と健康－
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2012（平成24）年3月24日
内分泌（ホルモン）のはたらきと病気
兵庫県立加古川医療センター院長・神戸大学名誉教授 千原 和夫
- 2012（平成24）年4月14日
消化器と健康（1）－消化器系の成り立ちと働き－
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2012（平成24）年4月28日
子宮の病気－子宮がん－
神戸大学大学院医学研究科特命教授 山崎 峰夫
- 2012（平成24）年5月12日
気になるおしっこの話－尿もれ、排尿困難、前立腺がん－
神戸大学大学院医学研究科特命教授 荒川 創一
- 2012（平成24）年5月26日
消化器と健康（2）－最近の内視鏡の進歩－
神戸大学大学院医学研究科特定助教 石田 司
- 2012（平成24）年6月9日
心筋梗塞と脳卒中－食事療法と薬物療法－
神戸学院大学栄養学部教授 藤岡 由夫
- 2012（平成24）年6月23日
耳の健康－耳の聴こえ、難聴、耳鳴り－
神戸大学大学院医学研究科教授 丹生 健一
- 2012（平成24）年7月14日
脱水と熱中症－その怖さと予防法－
兵庫県予防医学協会副会長・健康ライフプラザ所長 南部 征喜
- 2012（平成24）年7月28日
腎臓のはたらきと病気
神戸大学大学院医学研究科教授 西 慎一
- 2012（平成24）年8月4日
脳とくすり－不眠と睡眠薬－
近畿大学医学部教授 白川 治

2012（平成24）年8月25日
 消化器と健康（3）－栄養と健康－
 神戸大学大学院保健学研究科教授 宇佐美 真

2012（平成24）年9月1日
 平清盛と大輪田の泊
 神戸大学名誉教授 高橋 昌明

2012（平成24）年9月15日
 鳥インフルエンザについて
 神戸大学大学院医学研究科准教授 新矢 恭子

2012（平成24）年10月13日
 生命の誕生
 神戸大学大学院保健学研究科教授 三木 明德

2012（平成24）年10月27日
 糖尿病治療の新たな展開
 神戸大学大学院医学研究科教授 清野 進

2012（平成24）年11月17日
 中高年の皮膚疾患
 神戸大学大学院医学研究科准教授 岡 昌宏

2012（平成24）年11月24日
 アルツハイマー病と認知症
 神戸大学大学院保健学研究科教授 川又 敏男



2012（平成24）年12月8日
 心臓血管外科の最近の進歩
 神戸大学大学院医学研究科教授 大北 裕

2012（平成24）年12月15日
 下肢関節痛の診断と治療
 神戸大学大学院医学研究科特命准教授 西山 隆之

2013（平成25）年1月12日
 脳卒中の新治療
 神戸市立医療センター中央市民病院脳神経外科部長
 坂井 信幸

2013（平成25）年1月26日
 ロボット手術の現状と課題
 神戸大学大学院医学研究科教授 藤澤 正人

2013（平成25）年2月9日
 放射線医学の最先端－小さく見つけてやさしく
 治すがん治療－
 神戸大学大学院医学研究科准教授 藤井 正彦

2013（平成25）年2月23日
 花粉症と鼻炎
 神戸大学大学院医学研究科助教 土井 清司

2013（平成25）年3月9日
 肝胆膵領域の最先端手術
 神戸大学大学院医学研究科教授 具 英成

2013（平成25）年3月23日
 生きることと健康－現代医療の発展と課題－
 神戸大学名誉教授 岡田 安弘

- 2013（平成25）年4月13日
ここまで進歩した肺がんの最新治療
先端医療センター病院副院長
神戸市立医療センター中央市民病院
呼吸器内科参与 片上 信之
- 2013（平成25）年4月27日
iPS細胞を使った網膜再生医療 最近の進歩
先端医療センター病院眼科医長
発生再生科学総合研究センター客員研究員 平見 恭彦
- 2013（平成25）年5月11日
肺炎は重い病気です－高齢者の誤嚥性肺炎を中心－
西市民病院呼吸器内科部長 富岡 洋海
- 2013（平成25）年5月25日
目の救急－急性緑内障発作と白内障手術－
西神戸医療センター眼科部長代行 三河 章子
- 2013（平成25）年6月8日
健康食品の実力
武庫川女子大学薬学部教授 篠塚 和正
- 2013（平成25）年6月22日
肺の病気－COPD（慢性閉塞性肺疾患）を中心－
神戸大学大学院医学研究科准教授 西村 善博
- 2013（平成25）年7月13日
感染症の基礎知識と対策のポイント
神戸市保健所医師（感染症担当） 三田 晃史
- 2013（平成25）年7月27日
認知症予防－脳と生活習慣との関係について－
国立長寿医療研究センター高齢者総合診療科物忘れセンター
外来部長 櫻井 孝
- 2013（平成25）年8月3日
PETによるアルツハイマー病の早期診断
先端医療センター病院映像診療科部長
分子イメージング研究グループリーダー 千田 道雄
- 2013（平成25）年8月24日
成人のうつ病について－その予防と早期診断－
神戸大学大学院医学研究科助手 山本 泰司
- 2013（平成25）年9月7日
腎臓のはたらきと病気
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2013（平成25）年9月15日
乳がん診察の現状－早期発見の大切さ－
神戸市立医療センター中央市民病院乳腺外科部長
加藤 大典
- 2013（平成25）年10月12日
“メタボ”対策－心血管病予防を目指して－
先端医療センター病院院長・東京医科歯科大学名誉教授
平田結喜緒
- 2013（平成25）年10月26日
慢性腎臓病（CKD）の現況と早期発見・進行
予防対策
神戸大学医学部附属病院腎臓内科特定助教 伊藤 純
- 2013（平成25）年11月2日
健診でわかる肝臓病
兵庫医科大学内科学上部消化管科助教 豊島 史彦
- 2013（平成25）年11月16日
大腸がんについて
兵庫医科大学内科学上部消化管科助教 櫻井 淳

- 2013（平成25）年12月7日
 泌尿器の病気をからだにやさしく治します
 神戸市立医療センター中央市民病院泌尿器科部長
 川喜田睦司
- 2013（平成25）年12月14日
 漢方を使用した内科診療
 早稲田内科院長 早稲田則雄
- 2014（平成26）年1月11日
 歯の健康を考える－インプラントの有用性－
 大阪歯科大学口腔インプラント科専任教授 馬場 俊輔
- 2014（平成26）年1月25日
 大人にも必要な予防接種があります
 兵庫県予防医学協会常務理事
 先端医療センター病院名誉院長 西尾 利一
- 2014（平成26）年2月8日
 肥満と癌を防ぐグット・ダイエット
 大阪大学大学院医学系研究科准教授 前田 和久
- 2014（平成26）年2月22日
 骨は生きている－今から出来る骨粗鬆症対策－
 西神戸医療センター整形外科部長 藤原 正利
- 2014（平成26）年3月8日
 甲状腺の病気－見つけ方と治療法－
 隈病院内科医長 西原 永潤
- 2014（平成26）年3月22日
 脳神経外科における内視鏡手術
 神戸大学大学院医学研究科講師 谷口 理章
- 2014（平成26）年4月12日
 脂質異常症（高脂血症）についてのウソホント
 －動脈硬化を防ぐコツ教えます－
 神戸大学医学部附属病院循環器内科准教授 石田 達郎
- 2014（平成26）年4月26日
 めまいの耳よりな話
 兵庫医科大学耳鼻咽喉科講師 坂 直樹
- 2014（平成26）年5月10日
 高齢者のうつと認知症－高齢者のメンタルヘル
 スを健康に保って充実した毎日を－
 神戸学院大学教授・神戸大学名誉教授 前田 潔
- 2014（平成26）年5月24日
 消化器疾患における新しい診断法について
 神戸大学大学院医学研究科病因病態解析学分野長（准教授）
 吉田 優
- 2014（平成26）年6月14日
 本当に恐ろしいタバコの話－タバコフリーライ
 フの勧め－
 NPO法人日本タバコフリー学会代表理事 菌 潤
- 2014（平成26）年6月28日
 PM2.5による大気汚染とその健康影響
 兵庫医科大学公衆衛生学主任教授 島 正之
- 2014（平成26）年7月12日
 睡眠と健康－眠りについて学ぼう－
 大阪回生病院睡眠医療センター部長 谷口 充孝
- 2014（平成26）年7月26日
 変形性膝関節症とロコモティブシンドローム
 神戸市立医療センター中央市民病院整形外科部長
 安田 義

- 2014（平成26）年8月2日
白内障－どんな病気？どんな治療？－
神戸市立医療センター中央市民病院眼科副医長
下園 正剛
- 2014（平成26）年8月23日
痒みや痛みを伴う皮膚病、伴わない皮膚病
西神戸医療センター皮膚科部長 堀川 達弥
- 2014（平成26）年9月6日
喘息治療で金メダル
神戸市立医療センター中央市民病院呼吸器内科部長
富井 啓介
- 2014（平成26）年9月27日
在宅医療と介護のこれから
神戸市看護大学教授 都筑 千景
- 2014（平成26）年10月11日
身近な救急と災害
神戸市立医療センター中央市民病院
救命救急センターセンター長 有吉 孝一
- 2014（平成26）年10月25日
もしかして認知症？－予防と早期発見のコツ教
えます－
神戸大学医学部附属病院神経内科准教授
古和 久朋
- 2014（平成26）年11月1日
いきいきシルバーライフの食生活－食べる喜び
は元気の源－
武庫川女子大学生活環境学部食物栄養学科教授
前田佳予子
- 2014（平成26）年11月22日
肺炎は老人の友－高齢者の誤嚥性肺炎の予防－
神戸市立医療センター西市民病院呼吸器内科部長
富岡 洋海
- 2014（平成26）年12月6日
炎症性腸疾患 内科治療の最前線
兵庫医科大学炎症性腸疾患内科教授
中村 志郎
- 2014（平成26）年12月13日
緩和ケア、いのちに関わる病気にかかったら－
もしも、の時のことについてあらかじめ話し合
う－
神戸大学医学部附属病院緩和支援治療科特命教授
木澤 義之
- 2015（平成27）年1月10日
寿命は血管の老化から－急性心筋梗塞や脳梗塞
にならないための秘訣－
神戸大学大学院医学研究科内科学講座循環器内科学分野教授
平田 健一
- 2015（平成27）年1月24日
関節リウマチが治せる病気になってきました
医療法人社団神鋼会神鋼病院膠原病リウマチセンター
センター長 熊谷 俊一
- 2015（平成27）年2月14日
高齢者にやさしい低侵襲がん医療
神戸低侵襲がん医療センター理事長・病院長 藤井 正彦
- 2015（平成27）年2月28日
不安障害－パニック障害を中心に－
大野こころのクリニック院長 大野 顕子

2015（平成27）年3月14日

膵臓のがん－最新の診断と治療について－

神戸市立医療センター中央市民病院消化器内科医長

和田 将弥

2015（平成27）年6月27日

再生医療はどこまで進んでいるの？－骨、関節の再生医療－

神戸大学大学院医学研究科整形外科学准教授

黒田 良祐

2015（平成27）年3月28日

かしこいがん検診の受け方

大阪大学大学院医学系研究科予防環境医学専攻

社会環境医学講座教授 祖父江友孝

2015（平成27）年7月11日

女性のライフステージと漢方－女性には女性ならではの様々な愁訴があります－

近畿大学東洋医学研究所所長・教授 武田 卓

2015（平成27）年4月11日

最近話題の感染症について

神戸大学大学院保健学科准教授 亀岡 正典

2015（平成27）年7月18日

あなたの足はむくんでいますか？

神戸市立医療センター中央市民病院総合診療科部長

西岡 弘晶

2015（平成27）年4月25日

腎臓の老化と慢性腎臓病

神戸大学大学院医学研究科腎臓内科教授 西 慎一

2015（平成27）年8月8日

下痢と便秘

兵庫医科大学炎症性腸疾患内科助教 飯室 正樹

2015（平成27）年5月9日

健康に老い生きるためのコツとは？－フレイル予防から考える－

国立長寿医療研究センター副院長 荒井 秀典

2015（平成27）年8月22日

不整脈を知る・診る・防ぐ

神戸市立医療センター中央市民病院循環器内科医長

小堀 敦志

2015（平成27）年5月23日

健康な睡眠とは？

神戸市立医療センター西市民病院精神・神経科部長代行

中元 幸治

2015（平成27）年9月5日

糖尿病の予防と治療

神戸大学大学院医学研究科糖尿病・内分泌内科教授

小川 渉

2015（平成27）年6月13日

パーキンソン病について

神戸市立医療センター中央市民病院神経内科部長

幸原 伸夫

2015（平成27）年9月26日

ホルモン補充療法へのお誘い－女性の更年期障害について－

中野産婦人科医院院長 中野 篤

- 2015（平成27）年10月10日
目がかすむと思ったら－超高齢時代の目の病気－
神戸大学大学院医学研究科眼科学分野教授 中村 誠
- 2015（平成27）年10月24日
危ないっ！寝たきりの一歩手前！－頸椎症は怖い病気？－
神戸労災病院院長 鷺見 正敏
- 2015（平成27）年11月7日
足の瘤、むくみ－下肢静脈瘤について－
神戸大学医学部附属病院血管内治療センター副センター長
野村 佳克
- 2015（平成27）年11月28日
尿のトラブルについて
神戸市立医療センター西市民病院副院長 中村 一郎
- 2015（平成27）年12月5日
「のど」のがんについて
神戸市立医療センター中央市民病院頭頸部外科部長
篠原 尚吾
- 2015（平成27）年12月12日
キズの治り方、キズの治し方
神戸大学大学院医学研究科形成外科学分野教授
寺師 浩人
- 2016（平成28）年1月9日
お薬を安全・効果的に服用するために
神戸学院大学薬学部教授 福島 昭二
- 2016（平成28）年1月23日
高血圧の予防と治療
神戸市看護大学専門基礎科学医科学分野教授 谷 知子
- 2016（平成28）年2月13日
痛みとは？－なぜ痛いのか？痛みの仕組みを考える－
神戸大学大学院医学研究科麻酔科学分野教授 溝渕 知司
- 2016（平成28）年2月27日
飛躍的に進歩したC型肝炎治療
神戸市立医療センター中央市民病院消化器内科医長
鄭 浩柄
- 2016（平成28）年3月12日（500回）
医学の歴史からみたこれからの健康科学
神戸大学名誉教授 岡田 安弘
- 2016（平成28）年3月26日
NO卒中（脳卒中）について
西神戸医療センター脳神経外科部長 武田 直也
- 2016（平成28）年4月9日
頭痛を知って賢く対応
六甲アイランド甲南病院神経内科部長 鎌田 寛
- 2016（平成28）年4月23日
肺がんの治療について－手術を中心に－
神戸市立医療センター中央市民病院呼吸器外科部長
高橋 豊
- 2016（平成28）年5月14日
肝胆膵がんの診療－最新の進歩と課題・高度医療の光と陰を含めて－
神戸大学大学院医学研究科外科学講座肝胆膵外科学分野教授
具 英成
- 2016（平成28）年5月28日
ピロリ菌と胃の病気、お酒と食道がん
兵庫医科大学内科学消化管科主任教授 三輪 洋人



2016（平成28）年6月11日

大腸がん検診を受けよう！

兵庫医科大学炎症性腸疾患内科講師 樋田 信幸

2016（平成28）年6月25日

乳がんの最新治療

西神戸医療センター乳腺外科部長代行 奥野 敏隆

2016（平成28）年7月9日

最近の認知症診療、現況と今後の見通し

神戸大学保健管理センター准教授

医学研究科病態情報学准教授 山本 泰司

2016（平成28）年7月23日

脳動脈瘤について

神戸大学大学院医学研究科脳神経外科学分野准教授

細田 弘吉

2016（平成28）年8月6日

人生の最後まで元気であるために－介護寿命とサルコペニア・フレイルティー

武庫川女子大学生活環境学部食物栄養学科教授 雨海 照祥

2016（平成28）年8月27日

慢性腎臓病と高尿酸血症

神戸市立医療センター中央市民病院腎臓内科部長

吉本 明弘

2016（平成28）年9月3日

歯周病について－全身疾患との関係－

神戸大学大学院医学研究科外科系講座

口腔外科学分野教授 古森 孝英

2016（平成28）年9月24日

気になる皮膚のできもの－皮膚がん？かも…

神戸市立医療センター中央市民病院皮膚科部長

長野 徹

2016（平成28）年10月8日

「逆流性食道炎」ってどんな病気？

兵庫医科大学内科学消化管科教授 渡 二郎

2016（平成28）年10月22日

睡眠薬、精神安定薬の適切な使い方

神戸大学大学院医学研究科

内科系講座精神医学分野教授 曾良 一郎

2016（平成28）年11月5日

見逃してはいけない心臓弁膜症

医療法人社団倫生会みどり病院院長 室生 卓

2016（平成28）年11月26日

ひざの痛みの話－変形性膝関節症－

神戸市立医療センター西市民病院整形外科部長

西口 滋

2016（平成28）年12月3日

神経内科をご存知ですか

西神戸医療センター神経内科部長 高野 真

2016（平成28）年12月10日

「痛み」について知りましょう！

神戸大学大学院医学研究科

外科系講座麻酔科学分野准教授 高雄由美子

- 2017（平成29）年1月14日
食道・胃・大腸がんの外科手術
神戸大学大学院医学研究科
外科学講座食道胃腸外科学分野教授 掛地 吉弘
- 2017（平成29）年1月28日
免疫のしくみ
神戸市立医療センター中央市民病院小児科医長 岡藤 郁夫
- 2017（平成29）年2月4日
たかが痔、されど痔－おしりのトラブルを解決するには？－
大澤病院院長 大澤 和弘
- 2017（平成29）年2月25日
健康食品の落とし穴
神戸学院大学薬学部教授 岡本 正志
- 2017（平成29）年3月11日
超高齢社会における糖尿病
神戸大学大学院保健学研究科
地域保健学領域健康科学分野教授 安田 尚史
- 2017（平成29）年3月25日
糖尿病とその予備軍
神戸市立医療センター中央市民病院
糖尿病内分泌内科部長 松岡 直樹
- 2017（平成29）年4月8日
高齢者に多い神経内科の疾患－パーキンソン病など－
神戸大学大学院医学研究科神経内科学分野教授 戸田 達史
- 2017（平成29）年4月22日
脳卒中の予防と最新治療
社会医療法人榮昌会
吉田病院附属脳血管研究所院長 吉田 泰久
- 2017（平成29）年5月13日
あなたの肝臓は大丈夫ですか？
近畿大学医学部消化器内科講師 矢田 典久
- 2017（平成29）年5月27日
腸内細菌と生活習慣病
神戸大学医学部附属病院循環器内科准教授
山下 智也
- 2017（平成29）年6月10日
子宮がんについて
西神戸医療センター産婦人科医長 佐原裕美子
- 2017（平成29）年6月24日
あなたの腰痛は大丈夫？
神戸大学大学院医学研究科
整形外科学分野准教授 西田康太郎
- 2017（平成29）年7月8日
貧血のあれこれ－血が薄くなったときのために－
神戸市立医療センター中央市民病院血液内科部長
石川 隆之
- 2017（平成29）年7月22日
21世紀の保健課題－グローバル化する感染症に対する保健システムの構築に向けて－
WHO健康開発総合センターテクニカルオフィサー
茅野 龍馬
- 2017（平成29）年8月5日
ロコモと闘うための赤筋と生活スタイル
神戸大学大学院保健学研究科
運動機能障害学分野教授 藤野 英己

2017（平成29）年8月26日

気になるもの忘れ－認知症と認知症の対策について－

六甲アイランド甲南病院

認知症疾患医療センターセンター長 小倉 純

2017（平成29）年9月2日

下肢の血管病変を知る－閉塞性動脈硬化症、下肢静脈瘤－

神戸労災病院副院長・心臓血管外科部長 脇田 昇

2017（平成29）年9月16日

知っておかないと怖いサイレントキラー、大動脈瘤の診断と治療

神戸市立医療センター中央市民病院心臓血管外科部長

小山 忠明

2017（平成29）年10月14日

加齢と聞こえ

神戸大学医学部附属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科

特命教授 柿木 章伸

2017（平成29）年10月28日

関節リウマチ診療の進歩

神戸大学大学院医学研究科免疫内科学部門准教授

森信 暁雄

2017（平成29）年11月18日

この時期に皮膚のこと少し考えてみませんか

市立伊丹病院皮膚科主任部長 南 祥一郎

2017（平成29）年11月25日

気をつけたい肺の病気－肺炎と肺結核－

神戸市立西神戸医療センター呼吸器内科参事 多田 公英

2017（平成29）年12月9日

あなたの骨は大丈夫？－骨粗鬆症の予防と治療－

神戸労災病院骨粗鬆症外来

兵庫医科大学整形外科非常勤講師 楊 鴻生

2017（平成29）年12月16日

胆石症について

神戸大学医学部附属国際がん医療・研究センター

センター長 味木 徹夫

2018（平成30）年1月13日

尿のトラブル解決&対処法－相談してみよう！

尿漏れ、頻尿など－

神戸市立西神戸医療センター泌尿器科部長 伊藤 哲之

2018（平成30）年1月27日

動物やペットから病気がうつる－動物由来感染症－

神戸女子大学看護学部教授 宇賀 昭二

2018（平成30）年2月10日

心筋梗塞・狭心症を防ぐ、治す

神戸市立医療センター中央市民病院循環器内科部長

古川 裕

2018（平成30）年2月24日

悪性リンパ腫とはどんな病気でしょうか

神戸大学大学院医学研究科

腫瘍・血液内科学分野准教授 松岡 広

2018（平成30）年3月10日

日常よく見られる手の疾患－腱鞘炎と手根管症候群－

三菱神戸病院整形外科 山崎 京子

2018（平成30）年3月24日

高齢者のうつ病

神戸市立医療センター中央市民病院

精神・神経科部長代行 松石 邦隆

- 2018（平成30）年4月14日
CKD：慢性腎臓病の食餌療法と生活上の注意点
原泌尿器科病院腎臓内科・透析室室長 吉矢 邦彦
- 2018（平成30）年5月12日
心とホルモンの密接な関係－幸せに生きるために大切なホルモンの知識－
神戸大学大学院医学研究科
糖尿病・内分泌内科学准教授 高橋 裕
- 2018（平成30）年6月9日
コレステロールのウソ・ホント
神戸大学大学院医学研究科立証検査医学・循環器内科学分野
特命准教授 杜 隆嗣
- 2018（平成30）年7月14日
人生を楽しむコツ－呼吸器内科医からの提言－
市立吹田市民病院呼吸器アレルギー内科部長
辻 文生
- 2018（平成30）年8月25日
加齢による目の病気
神戸市立医療センター西市民病院眼科部長 石田 和寛
- 2018（平成30）年9月22日
健康長寿のための食生活の改善
甲南女子大学医療栄養学部教授 宇佐美 眞
- 2018（平成30）年10月13日
みんなで認知症対策
くじめ内科院長・認知症サポート医 久次米健市
- 2018（平成30）年11月24日
あなたの体をよく知ろう－健診の上手な使い方－
東京医科歯科大学名誉教授
兵庫県予防医学協会健康ライフプラザ健診センター参与
平田結喜緒
- 2018（平成30）年12月8日
究極の脳卒中予防法
兵庫医科大学脳神経外科主任教授 吉村 紳一
- 2019（平成31）年1月12日
ヘリコバクター・ピロリ感染と胃がん－胃がんにならないために－
神戸大学大学院医学研究科
消化器内科学分野 特命教授 梅垣 英次
- 2019（平成31）年2月9日
いつまでも歩けるために－ロコモティブシンドロームと骨粗鬆症－
神戸大学大学院医学研究科リハビリテーション機能回復学分野
特命教授 石田 和寛
- 2019（平成31）年3月9日
膝や股関節が痛む人たちへ－人工関節のことなど－
神戸市立西神戸医療センター整形外科部長 吉田 圭二
- 2019（平成31）年4月13日
簡単にできる！健康づくりのいろは－科学的な視点から見直してみよう－
神戸市保健福祉局健康部健康政策課健康創造担当課長
三木 竜介
- 2019（令和元）年5月11日
オーラルフレイル対策で、イキイキ健康長寿を！
大阪歯科大学口腔衛生学講座非常勤講師 安田恵理子
- 2019（令和元）年6月8日
加齢による難聴の傾向と対策
神戸市立医療センター中央市民病院
副院長・耳鼻咽喉科部長 内藤 泰

2019（令和元）年7月13日

がんで死なないために－効果的ながん検診の受け方－

国立がん研究センター中央病院放射線診断科科长

楠本 昌彦

2019（令和元）年8月17日

ストレスと心血管病－心臓病・脳卒中から身を守る術－

神戸労災病院副院長・循環器内科部長 井上 信孝

2019（令和元）年9月28日

肺にも生活習慣病があるのをご存知ですか？－COPDと併存症－

神戸大学医学部附属病院呼吸器内科准教授 小林 和幸

2019（令和元）年11月30日

女性の敵、大腸がん：大腸がんにならない方法を教えます！

佐野病院院長・消化器センター長

関西医科大学消化器内科非常勤医師 佐野 寧

2019（令和元）年12月14日

機嫌よく長生きするための「健康ダイエット」－肥満専門医が伝えたい3つの大切なこと－

神戸市立医療センター西市民病院糖尿病・内分泌内科部長

中村 武寛

2020（令和2）年1月25日

薬と上手に付き合うために

神戸大学医学部附属病院教授・薬剤部長 矢野 育子

2020（令和2）年2月8日

グローバル化時代の感染症

神戸市立医療センター中央市民病院感染症科医長

土井 朝子

記念講演



1998（平成10）年3月 （神戸新聞松方ホール）

神戸新聞創刊100周年記念講演会

「健康づくりと女性」

主催：神戸新聞社・神戸新聞文化財団・兵庫県
予防医学協会

講演 「若く健やかに」

神戸市産婦人科医会会長 高島 英世

講演 「元気な骨を作る」

国立神戸病院名誉院長 片岡 治

講演 「がんは怖くない」

神戸大学名誉教授 木村 修治

2001（平成13）年5月 （神戸新聞松方ホール）

兵庫県予防医学協会創立30周年記念講演会

「あすの健康」

主催：兵庫県予防医学協会・神戸新聞社

講演 「健康を求める民族－古代からのアロマセラピー」

園田学園女子大学国際文化部教授 田辺 真人

講演 「これからの日常生活と健康法」

国際糖尿病教育学習研究所理事長 馬場 茂明

浴 革

1971年4月 (昭和46年)	予防医学事業推進のため神戸市医師会と神戸市衛生局が協議、渡邊一九志賀一清 青井立夫 石垣四郎 鹿野昭二 前島健治らが発起人となり「兵庫予防医学協会」を創立 事務所を神戸市生田区加納町1丁目5神戸市衛生研究所内に置く 会長 渡邊一九就任 児童・生徒の寄生虫卵検査開始	7月	機関誌「あすの健康」第1号発行 法人設立記念講演会として「健康を守る婦人大会」を開催
6月	「兵庫県予防医学協会」と名称を変更	9月	登録衛生検査所となる
9月	財団法人予防医学事業中央会及び財団法人日本寄生虫予防会の兵庫県支部となる 灘神戸生活協同組合 組合員健診開始 児童・生徒の尿検査開始、血液型検査開始	10月	灘神戸生活協同組合より健診車・X線車生協すこやか号の寄贈を受ける
11月	予防医学講演会開催	11月	社団法人全国労働衛生団体連合会加入
1972年4月 (昭和47年)	事務所を神戸市東灘区御影本町6丁目5-2（旧御影町役場）に移転	1974年4月 (昭和49年)	循環器検診、住民健診、予防接種開始
5月	診療所開設、健診・検査開始	8月	灘神戸生活協同組合 各店舗事務所基準環境測定開始 灘神戸生活協同組合従業員健診開始
7月	事業所の定期健診、特殊健診開始	1975年10月 (昭和50年)	健康保険法 保険医療機関となる
11月	神戸市胃部X線車による、胃がん検診開始	11月	国民健康保険法 保険医療機関となる
12月	「神戸市子宮がん細胞診センター」業務開始	1976年5月 (昭和51年)	創立5周年記念「健康をめざす婦人大会」開催 基本財産を増額し、1,500万円となる
1973年6月 (昭和48年)	「財団法人兵庫県予防医学協会」設立 基本財産 1,200万円 出捐は 兵庫 県 300万円 神戸 市 500万円 灘神戸生活協同組合 100万円 渡邊元会長 100万円 兵庫県予防医学協会 200万円	6月	第1回予防医学講座開催
		9月	灘神戸生活協同組合より胸部X線車すこやか3号の寄贈を受ける
		12月	国民健康保険被保険者対象 胃検診開始
		1977年7月 (昭和52年)	細菌検査部門開設
		10月	中央労働災害防止協会 中小企業労働者特殊健康診断機関となる
		12月	兵庫労働基準局作業環境（測定粉じん）測定登録機関となる
		1978年4月 (昭和53年)	葺合区仮施設へ移転
		8月	新館建設 資金 日本船舶振興会 7,020万円

	兵庫県	1,500万円		6月	作業環境測定に「有機溶剤・金属・特定化学物質」を追加
	神戸市	2,000万円		8月	脊柱検診専門委員会設置
	借入金	22,000万円			予防医学事業推進全国大会において、渡邊会長が感謝状を受ける
	自己資金	3,380万円		1981年3月 (昭和56年)	胃検診専門委員会設置
	計	35,900万円		4月	中央労働災害防止協会 中小企業労働者健康管理事業助成制度に係る健診機関となる
	鉄筋コンクリート5階建				日本作業環境測定協会加入
	敷地面積	654㎡			人間ドックに超音波診断追加
		(神戸市より借地)		5月	兵庫県 建築物衛生的環境確保に関する法律（ビル管法）による建築物飲料水水質検査業・空気環境測定業の登録機関となる
	建築面積	443.82㎡		7月	日本作業環境測定協会 中小企業協同作業環境管理事業助成制度による作業環境測定機関となる
	建築床面積	2,117.5㎡			予防医学事業中央会 関東・甲信越ブロック、東海・北陸・近畿ブロック合同会議開催
1979年1月 (昭和54年)	厚生大臣指定 簡易専用水道検査機関となる				寄生虫対策国際セミナー台湾、韓国研修団ブロック会議に特別参加
3月	兵庫県知事登録 空気環境測定・飲料水の水質検査機関となる			9月	循環器検診専門委員会設置
4月	新館竣工				日本自転車振興会補助事業 胸部直間両用胸部検診車すこやか6号完成
5月	中央労働災害防止協会 中小企業労働者健康管理事業助成制度「じん肺・石綿・クロム・鉛」に係る健康診断機関となる			1982年5月 (昭和57年)	整形外科検診開始
7月	婦人科検診開始 喀痰細胞診開始 胃部精密検査開始			9月	病理組織検査開始
10月	成人病総合健診『人間ドック』開始				文部省研究補助事業により県北部学童3年計画心臓検診「心音心電図方式」開始
11月	間接断層X線撮影装置による肺がん検診開始 肺がんをなくす会発足			1983年1月 (昭和58年)	学校腎疾患専門委員会設置
1980年2月 (昭和55年)	予防医学事業推進 近畿・北陸・東海ブロック検査室会議開催				
4月	脊柱検診開始 消化器内視鏡検査開始 公益法人会計基準による会計に移行				
5月	渡邊会長、吉田哲夫医師叙勲受章				

4月	健康教育・指導室新設	5月	中央労働災害防止協会 中小企業共同安全衛生改善事業助成制度に係る作業環境測定機関となる
8月	神戸市長より医学振興への貢献に対し、感謝状を受ける	6月	全国労働衛生団体連合会 鉛検査機関となる
1984年1月 (昭和59年)	日本船舶振興会補助事業 胃部X線検診車すこやか22号完成 財団設立10周年を記念として協会章(襟章)を作成	9月	日本自転車振興会補助事業 胸部X線車すこやか12号完成
3月	灘神戸生活協同組合より胸部X線車すこやか7号の寄贈を受ける	10月	VDT検診開始
5月	厚生大臣指定 食品検査機関となる 保健環境検査センターを開設し環境化学分析、細胞診等の検体検査部門を統合	11月	予防医学事業推進神戸大会開催
7月	全国飲用牛乳取引協議会指定検査機関となる	1987年4月 (昭和62年)	ビル管法適用施設について簡易専用水道検査の「書類検査」開始 レジオネラ属菌検査開始
8月	兵庫県小児保健協会事務局を引き受ける	9月	保健環境検査センター東灘区田中町へ移転 登録衛生検査所再登録
1985年3月 (昭和60年)	骨粗鬆症検診MD法により、全国初の検診を開始	11月	第2回予防医学事業推進神戸大会開催 予防医学事業推進 近畿・東海・北陸ブロック会議開催
4月	学校心臓検診「心音心電図検査」開始	1988年2月 (昭和63年)	予防医学事業中央会全国業務研修会開催
8月	灘神戸生活協同組合より胸部X線車すこやか9号の寄贈を受ける	4月	ホロンピア'88「新しい健康福祉づくり展」参加 船員災害防止協会 訪船衛生技術指導指定期間となる
9月	神戸市長よりユニバーシアード神戸大会への貢献に対し、感謝状を受ける	5月	神戸新聞奨励賞受賞
10月	予防医学事業推進全国大会開催 主催 予防医学事業中央会・日本寄生虫予防会・兵庫県予防医学協会	6月	大腸がん検診(任意型)便潜血2日法開始
1986年1月 (昭和61年)	骨粗鬆症検診システム設置	7月	政府管掌健康保険成人病予防健診機関となる
3月	心電図自動解析システム設置	12月	第3回予防医学事業推進神戸大会開催
4月	神戸市学校結核検診全面受託	1989年3月 (平成元年)	基本財産を増額し1億円となる 出捐は 兵庫県 300万円

	神戸市	3,400万円		10月	予防医学事業中央会全国大会において、青井会長が感謝状を受ける
	灘神戸生活協同組合	670万円		11月	日本自転車振興会補助事業 肺がん検診車すこやか10号完成
	渡邊元会長	100万円			タイで行われた第16回APCO（アジア寄生虫予防機構）研修会参加
	兵庫県予防医学協会	5,530万円		12月	事務所棟建設のため天長島村酒造株式会社と1,490,08㎡の借地契約締結
9月	フェスピック神戸大会組織委員会より大会への貢献に対し、感謝状を受ける		1993年6月 (平成5年)	6月	中央労働災害防止協会 労働者健康保持増進サービス機関となる
	郵政省補助事業 胃X線車すこやか23号完成			9月	事務所棟竣工 建築面積 477.15㎡ 建築床面積 1,249.15㎡
10月	労働安全衛生法改正により特殊健診に尿代謝物・血中鉛等の生体試料検査追加、定期健診に心電図・聴力検査・血液検査追加			12月	厚生大臣指定水質検査指定機関となる
12月	予防医学事業推進神戸大会を改称し、'89予防医学フォーラムを神戸新聞社と共催		1994年1月 (平成6年)	1月	予防医学技術研究集会学術賞「児玉賞」受賞「一次検診におけるランニング運動付加心電図検査」
1990年4月 (平成2年)	健康ライフプラザ準備室開設			2月	高速らせん型CT装置設置
8月	日本自転車振興会補助事業 胸部X線車すこやか19号完成			7月	神戸市より医学振興への貢献に対し、感謝状を受ける
12月	予防医学事業中央会 近畿・東海・北陸ブロック会議開催				兵庫県指定水質検査機関となる
1991年5月 (平成3年)	会長 青井立夫 名誉会長 渡邊一九 就任			8月	公益事業「元気な骨をつくるキャンペーン」を実施
6月	創立20周年感謝の集い開催			9月	第1回いきいきライフセミナー開催
7月	生活協同組合コープこうべよりDXA車すこやか20号の寄贈を受ける			10月	日中医療技術協力に参加
9月	DXA車による巡回骨量測定開始		1995年1月 (平成7年)	1月	阪神・淡路大震災発生 保健環境検査センター全壊
10月	THP推進委員会設置				第29回予防医学事業技術研究集会中止
11月	郵送法式による神戸市大腸がん検診開始				出張健診再開
1992年1月 (平成4年)	予防医学事業中央会 全国生理機能検査研修会開催			2月	外来健診再開 総合健診再開
9月	X線骨密度測定装置（DXA）設置				

	保健環境検査センター代替施設建設決定	8月	日本自転車振興会補助事業 胸部検診車2号完成
4月	中央労働災害防止協会 中小企業安全衛生活動促進事業助成制度による健康診断及び作業環境測定機関となる	9月	超音波骨評価（QUS法）による骨粗鬆検診開始
5月	「元気な骨をつくるキャンペーン」講演会開催	1998年2月 (平成10年)	神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ開業に伴う受託事業開始
11月	保健環境検査センター竣工 建築面積 300.76㎡ 建築床面積 837.72㎡	3月	磁気共鳴診断装置（MRI）設置
12月	社会保険庁より政府管掌健康保険及び厚生年金事業発展への功績に対し、青井会長が表彰状を受ける	4月	神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザの業務全面開始 脳ドック開始 第1回土曜健康科学セミナー開催 産業保健専門委員会設置
1996年2月 (平成8年)	保健環境検査センターの業務全面開始 登録衛生検査所再登録 第1回働く人の健康管理研修会開催		小児がん検診「神経芽細胞腫」のマス・スクリーニング検査を神戸市から受託
3月	青井会長神戸市市民福祉顕彰市民福祉功労賞受賞	5月	計量証明事業（濃度）開始
5月	厚生大臣指定食品検査機関となる	7月	全衛連近畿地方協議会第1回開催 第1回がんをよく知るための講座開催
8月	創立25周年を記念し『生命・脳・いのち 生きるということ』（神戸大学医学部名誉教授岡田安弘著・東京化学同人社）を出版	9月	日本総合健診医学会 優良総合健診施設に認定される
9月	『25周年記念誌』を発行	12月	ペプシノゲン検査開始 PSA検査開始
12月	日本自転車振興会補助事業 自動血球計数装置設置 予防医学事業推進 近畿・東海・北陸地区会議開催	1999年1月 (平成11年)	予防医学技術研究集会学術賞「児玉賞」受賞「水におけるクリプトスポリジウム検出方法の検討」 乳房撮影装置（マンモグラフィ）設置
1997年4月 (平成9年)	神戸市東灘区御影本町6丁目5-2の土地を神戸市より購入取得	2月	全衛連近畿地方協議会第2回開催
6月	一泊二日ドック開始 超音波骨評価（QUS法）装置導入	4月	神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ1泊2日ドック開始
		7月	全衛連近畿地方協議会第3回開催

- | | | | |
|--------------------|---|--------------------|---|
| 9月 | 神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ政府管掌健康保険生活習慣病予防健診実施機関となる | 2月 | 中央労働災害防止協会機器整備補助事業 X線装置導入 |
| 11月 | 社団法人日本作業環境測定協会より作業環境管理への尽力に対し、感謝状を受ける
労働衛生評価機構より評価基準達成の認定を受ける | 3月 | 神経芽細胞腫検査専用機更新 |
| 2000年2月
(平成12年) | 全国労働衛生団体連合会近畿地方協議会第4回開催 | 4月 | 財団法人先端医療振興財団 先端医療センターと提携し、人間ドックのオプションとしてPET検診開始
神戸市市民健診 肝炎検査受託 |
| 7月 | 健診センター、労働者災害補償保険法の規定による療養の給付を行う診療所（労働者災害補償保険指定医療機関）となる
土曜健康科学セミナー100回を迎える | 7月 | 日本財団補助事業 胸部X線車すこやか12号完成 |
| 11月 | 得意先向健診データ管理支援システム「Life-Net」完成
健康ライフプラザ 日本総合健診医学会優良総合健診施設に認定される | 11月 | 財団法人日本公衆衛生協会 第6回地域保健全国大会（富山県）において、平成14年度公衆衛生事業功労者表彰団体表彰を受ける |
| 2001年1月
(平成13年) | 予防医学技術研究集会学術賞「児玉賞」受賞「超音波による骨量測定の基準値について」 | 2003年2月
(平成15年) | 神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザレディースドック開始 |
| 4月 | 循環器用超音波システムを導入 | 3月 | 土曜健康科学セミナー200回を迎える |
| 5月 | 創立30周年記念講演会を神戸新聞松方ホールにて開催
創立30周年記念『21世紀の「生命」を考える－これからの健康科学』（神戸大学名誉教授岡田安弘編著・金芳堂）を出版 | 4月 | 神戸市住民健診事業の全面委託を受ける |
| 6月 | 労働者災害補償保険（労災保険）二次健診等給付指定医療機関となる | 8月 | 神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ 甲状腺超音波検査開始 |
| 2002年1月
(平成14年) | 第36回予防医学技術研究集会「神戸からの発信－予知の医学をめざして」を開催 | 2004年3月
(平成16年) | 神戸市灘区岩屋北町2丁目6-4の土地を神戸市より購入取得
VDT健診 細隙灯顕微鏡導入 |
| | | 4月 | 睡眠時無呼吸症候群（SAS）検査開始 |
| | | 5月 | 兵庫県予防医学協会 灘分室開設 |
| | | 11月 | 第49回予防医学事業推進全国大会を開催 |
| | | 12月 | 神戸市灘区岩屋北町1丁目8-2の土地を神戸市より購入取得 |
| | | 2005年3月
(平成17年) | X線骨密度測定装置（DXA）更新 |
| | | 4月 | 緑内障スクリーニング検診開始 |
| | | 6月 | NPO法人 J-POSH寄贈 乳がん検診車すこやか55号完成 |

2006年1月 (平成18年)	予防医学事業推進 近畿・東海・北陸地区会議開催	9月	神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ甲状腺二次超音波検査開始
3月	保健環境センターISO9001 (JISQ9001:2000) 認証取得 AED (自動体外式除細動器) 設置	2009年5月 (平成21年)	デジタルサーバー、PACS導入
4月	神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ指定管理制度により受託 神戸市HIV・性感染症検査受託	6月	青井名誉会長神戸市市制120周年記念 神戸市市政功労者表彰受賞
8月	神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ甲状腺関連血液項目の二次検査開始	8月	神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザオプション甲状腺セット検査開始
9月	日本自転車振興会補助事業 胃部X線 検診車すこやか21号車完成	2010年1月 (平成22年)	CT装置をマルチスライスCT装置に更新
10月	便中ヘリコバクターピロリ菌抗原検査開始 青井会長第58回保健文化賞受賞	4月	神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ指定管理制度により受託 (第2期)
2007年2月 (平成19年)	プライバシーマーク認証取得	6月	採血管準備システム導入
3月	KEMSこうべ環境マネジメントシステム (ステップ1) 認証取得	7月	X線骨密度測定装置 (DXA) 更新
5月	土曜健康科学セミナー300回を迎える 会長 近藤武久 名誉会長 青井立夫 就任	8月	会長 松村陽右 就任
7月	神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ、トレーニングジム 利用者100万人達成	2011年1月 (平成23年)	財団法人JKA補助事業 胸部デジタルX線検診車すこやか17号完成
10月	特定健診・特定保健指導事業推進本部の設置	2月	予防医学技術研究会議を開催
2008年3月 (平成20年)	ノロウイルス検査 (リアルタイムRT-PCR法 = 遺伝子検出) 開始 神戸市灘区岩屋北町の土地 (新館建設予定地) のJR西日本株式会社との 取得・処分実施	3月	子宮がん細胞診液状検体処理装置導入
4月	神戸市住民健診から特定健診・特定保健指導制度に移行	4月	集団検診方式による神戸市大腸がん 検診開始
		7月	基本財産を増額し255,979千円となる 出捐は
			兵庫県 3,000千円
			神戸市 34,000千円
			生活協同組合コープこうべ 6,700千円
			渡邊一九前名誉会長 1,000千円
			兵庫県予防医学協会 211,279千円
		10月	土曜健康科学セミナー400回を迎える

2012年8月 (平成24年)	神戸市灘区岩屋北町に、新館建設着工 鉄筋コンクリート5階建 敷地面積 4,429.91㎡ 建築面積 1,697.74㎡ 建築床面積 6,970.54㎡	9月	いきいきライフドック開始
12月	会長 南部 征喜 就任	12月	予防医学事業推進 近畿・東海・北陸地区会議開催 旧2、3号館の借地を天長島村酒造株式会社に返還
2013年4月 (平成25年)	公益財団法人へ移行	2015年4月 (平成27年)	神戸市けんしん案内センター業務受託 神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ 神戸市国民健康保険加入者対象のセット健診（特定健康診査とがん検診）開始 トレッドミル走行装置更新
11月	新館竣工 建築面積 1,697.74㎡ 建築床面積 6,970.54㎡	6月	神戸市市民健診 慢性閉塞性肺疾患（COPD）リスクチェック開始
12月	健診センター 診療所開設	11月	メンタルヘルス事業 ストレスチェックシステム導入
2014年1月 (平成26年)	健診センター落成 保険医療機関指定 協会けんぽ健診実施機関指定 御影健診センター改修工事開始 予防医学事業中央会学術賞「児玉賞」受賞「X線学的胃粘膜萎縮度について－胃がん検診におけるハイリスクストラテジーとしての一考」	12月	認知症予防事業開始 機関誌「あすの健康」100号発行 禁煙外来開設 日本宝くじ協会助成事業 乳がん検診車すこやか56号完成
3月	MRI装置を1.5T 磁気共鳴断層撮影装置に更新	2016年3月 (平成28年)	土曜健康科学セミナー500回を迎える
4月	神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザを指定管理制度により(株)オーグスポーツ、(株)日立ビルシステムとの共同体で受託（第3期） 肺ドック開始 要介護予防事業の一環として「頭にいいラジオ」（ラジオ関西）放送開始	4月	循環器ドック開始
6月	御影健診センター竣工 建築面積 443.88㎡ 建築床面積 2033.95㎡	5月	腸内細菌検査マルチPCR装置導入
		2017年3月 (平成29年)	もの忘れリスク健診開始
		4月	神戸市子宮頸がん検診 液状処理細胞診（LBC法）開始 神戸市市民健診予約受付センター業務の外部委託開始 機関誌「あすの健康」連載『赤ちゃんの四季』（神戸大学名誉教授中村肇著・神戸新聞出版センター）を出版

	石綿ばく露者の健康管理に係る試行調査事業を神戸市より受託	2月	マンモグラフィ デジタルX線撮影装置更新
6月	会長 石原 享介 就任 液状処理細胞診（LBC）標本作製装置一式導入 脊柱デジタル撮影装置更新	(令和元年) 3月	PACS・レポートシステム導入
12月	神戸市胃がん検診 胃内視鏡検査開始	12月	基幹システムハードウェア更新 各種ソフトウェアWindows10対応完了
2018年 3月 (平成30年)	神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ 指定管理制度終了	2020年 2月 (令和2年)	予防医学事業中央会学術賞「児玉賞」受賞「健診に組み込まれた禁煙サポートー禁煙成功要因の検討」
4月	健康ライフプラザ健診センター 神戸市HIV抗体・性感染症検査開始	3月	新型コロナウイルス感染拡大防止の見地から、神戸市民健診集団検診が中止となる
5月	健康ライフプラザ健診センター 神戸市国民健康保険特定健診対象者への神戸市国保特定健康診査結果説明会開始	4月	健康ライフプラザ健診センター 経鼻による上部消化管内視鏡検査開始 新型コロナウイルス対策の特別措置法に基づく緊急事態宣言発出により健診事業を休業とする
6月	健診センター 経鼻による上部消化管内視鏡検査開始 健診センター 神戸市国民健康保険加入者対象のセット健診（特定健康診査とがん検診）開始 健康ライフプラザ健診センター 神戸市国民健康保険加入者対象の健康教室（糖尿病、慢性腎臓病の重症化予防）開催業務開始	5月	緊急事態宣言解除
9月	南部前会長神戸市市民福祉顕彰市民福祉功労賞受賞	6月	健診事業再開 マルチスライスCT装置更新 健診センター上部消化管内視鏡検査室増設
11月	健診センター・健康ライフプラザ健診センター 協会けんぽ被扶養者対象のセット健診（特定健康診査とがん検診）開始	7月	神戸市民健診集団検診再開 ビジネス渡航者向けPCR検査及び証明書発行開始
2019年 1月 (平成31年)	神戸市認知症診断助成制度対応医療機関登録、認知機能検診開始	2021年 1月 (令和3年)	新型コロナウイルス対策の特別措置法に基づく緊急事態宣言発出（2回目）
		2月	緊急事態宣言解除
		3月	まん延防止重点措置実施（1回目）
		4月	神戸市けんしん案内センターで神戸市市民健診等WEB予約開始 まん延防止重点措置実施から、緊急事態宣言発出（3回目）へ

- 6月 会長 深谷 隆 就任
X線骨密度測定装置（DXA）更新
緊急事態宣言解除、まん延防止重点措置（2回目）へ
- 7月 まん延防止重点措置期間終了
- 8月 まん延防止重点措置実施（3回目）
まん延防止重点措置実施から、緊急事態宣言発出（4回目）へ
- 9月 緊急事態宣言解除
- 10月 ビジネス渡航者向けPCR検査及び証明書発行終了
- 2022年 1月 まん延防止重点措置実施（4回目）
(令和4年)
- 3月 まん延防止重点措置期間終了
機関誌「あすの健康」連載「歴史を歩く」を改題した『神戸かいわい 歴史を歩く』（園田学園女子大学名誉教授田辺真人著・神戸新聞出版センター）を出版

創立50周年記念誌

2022年5月31日発行

発行人 深谷 隆
編集人 谷川 亜有美
50周年記念事業プロジェクト会議
発行所 公益財団法人 兵庫県予防医学協会
〒657-0846 神戸市灘区岩屋北町1丁目8-1
電話 078-855-2715
印刷 株式会社パワーステーション

